

誰もが大切にされる心豊かなまちづくりのための  
アンケート調査

— 田尻町人権に関する意識調査 —

結果報告書

2022（令和4）年3月

田尻町

# 目次

<b>I 調査概要</b> .....	1
1 調査目的.....	1
2 町民意識調査設計.....	1
3 報告書の見方.....	1
4 回収結果.....	2
5 調査の精度.....	3
6 スコアの算出による集計.....	4
<b>II 町民意識調査の結果</b> .....	6
1 回答者の属性.....	6
2 人権問題の認知状況.....	10
3 様々な人権問題への意識.....	18
4 具体的な事象における人権意識の状況.....	42
5 人権や差別をめぐる基本的な意識.....	48
6 行政の取り組みの認知状況.....	56
7 人権学習の状況.....	73
8 人権侵害事象を受けた経験.....	85
9 人権問題解決のための取り組みについて.....	95
<b>III 田尻町人権に関する町民意識調査を受けて</b> .....	102
<b>IV 職員意識調査の結果</b> .....	107
1 回答者の属性.....	107
2 人権問題の認知状況.....	109
3 様々な人権問題への意識.....	112
4 具体的な事象における人権意識の状況.....	120
5 人権や差別をめぐる基本的な意識.....	123
6 行政の取り組みの認知状況.....	125
7 人権学習の状況.....	129
8 人権侵害事象を受けた経験.....	132
9 人権問題解決のための取り組みについて.....	138
<b>V 調査票</b> .....	141

# I 調査概要

## 1 調査目的

新たに「田尻町人権行政推進基本方針・基本計画」を策定するにあたり、価値観や生活形態が多様化する社会情勢の変化を踏まえ、人権問題に関する町民の意識や実態を把握し、今後の目標や施策を策定するための基礎資料とすることを目的として、町民意識調査(アンケート)を実施した。また、併せて職員を対象に調査を実施した。

## 2 町民意識調査設計

- ①調査対象：18歳以上の町民(2021(令和3)年10月1日現在)
- ②標本数：1,500人
- ③抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- ④調査方法：郵送による配布と回収及びインターネット回答
- ⑤調査期間：2021(令和3)年11月16日～12月7日

## 3 報告書の見方

- ・ 図表中の「n」とは、集計対象者実数(あるいは該当者対象実数)のことである。
- ・ 図表の数値(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- ・ 1つの設問に2つ以上の回答を求めた設問では、比率の合計が100%を超える。
- ・ クロス集計表中の濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。
- ・ クロス集計表の分析軸には、性別、年齢の設問に無回答の回答は含まれていない。

## 4 回収結果

	標本数	回収数 (回収率)	無効数	有効回収数 (有効回収率)
町民意識調査	1,500 件	551 件 (36.7%)	1 件	550 件 (36.7%)
郵送回収	-	431 件	1 件	430 件
インターネット回答	-	120 件	-	120 件

## 母集団の人口構成

		18、 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	合計
男性	人数	81	477	408	637	589	344	426	251	3,213
	%	2.5%	14.8%	12.7%	19.8%	18.3%	10.7%	13.3%	7.8%	100.0%
女性	人数	90	500	425	623	525	392	502	465	3,522
	%	2.6%	14.2%	12.1%	17.7%	14.9%	11.1%	14.3%	13.2%	100.0%
合計	人数	171	977	833	1,260	1,114	736	928	716	6,735
	%	2.5%	14.5%	12.4%	18.7%	16.5%	10.9%	13.8%	10.6%	100.0%

## 配布数

		18、 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	合計
男性	人数	18	107	90	141	133	76	95	55	715
	%	2.5%	15.0%	12.6%	19.7%	18.6%	10.6%	13.3%	7.7%	100.0%
女性	人数	21	112	95	139	117	87	111	103	785
	%	2.7%	14.3%	12.1%	17.7%	14.9%	11.1%	14.1%	13.1%	100.0%
合計	人数	39	219	185	280	250	163	206	158	1,500
	%	2.6%	14.6%	12.3%	18.7%	16.7%	10.9%	13.7%	10.5%	100.0%

## 回収数

		18、 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	年齢 無回答	合計
男性	人数	1	11	26	32	55	43	47	21	-	236
	%	0.4%	4.7%	11.0%	13.6%	23.3%	18.2%	19.9%	8.9%	-	100.0%
	回収率	5.6%	10.3%	28.9%	22.7%	41.4%	56.6%	49.5%	38.2%	-	33.0%
女性	人数	9	20	39	54	47	50	56	32	-	307
	%	2.9%	6.5%	12.7%	17.6%	15.3%	16.3%	18.2%	10.4%	-	100.0%
	回収率	42.9%	17.9%	41.1%	38.8%	40.2%	57.5%	50.5%	31.1%	-	39.1%
性別 任意記入	人数	-	-	-	2	1	-	-	-	-	3
	%	-	-	-	66.7%	33.3%	-	-	-	-	100.0%
性別 無回答	人数	-	-	-	1	-	-	-	-	3	4
	%	-	-	-	25.0%	-	-	-	-	75.0%	100.0%
合計	人数	10	31	65	89	103	93	103	53	3	550
	%	1.8%	5.6%	11.8%	16.2%	18.7%	16.9%	18.7%	9.6%	0.5%	100.0%
	回収率	25.6%	14.2%	35.1%	31.8%	41.2%	57.1%	50.0%	33.5%	-	36.7%

## 5 調査の精度

町民意識調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができる。

調査結果の信頼度 95%レベル(同一の調査を 100 回行った場合 95 回まではこの結果になるであろうという推定)における信頼区間は以下のとおりである。

主な%について求めたのが下表である。

この表から、例えば問 19「あなたが日常的に利用する主なメディアは。」の質問で「テレビ、ラジオ」に約 80%の人が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が3.2%であるので100回調査すると95回までは76.8%から83.2%の間の答えが得られるということになる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし  
 N = 母集団数  
 n = 有効回答数  
 P = 母集団の比率 (%)

	母集団数 (N)	有効回答数 (n)	母集団の比率(P)					
			90%	80%	70%	60%	50%	
			10%	20%	30%	40%		
全体	6,735	550	±2.4	±3.2	±3.7	±3.9	±4.0	
性別	男性	3,213	236	±3.7	±4.9	±5.6	±6.0	±6.1
	女性	3,522	307	±3.2	±4.3	±4.9	±5.2	±5.3
年齢別	10・20 歳代	1,148	41	±9.0	±12.0	±13.8	±14.7	±15.0
	30 歳代	833	65	±7.0	±9.3	±10.7	±11.4	±11.7
	40 歳代	1,260	89	±6.0	±8.0	±9.2	±9.8	±10.0
	50 歳代	1,114	103	±5.5	±7.4	±8.4	±9.0	±9.2
	60 歳代	736	93	±5.7	±7.6	±8.7	±9.3	±9.5
	70 歳以上	1,644	156	±4.5	±6.0	±6.8	±7.3	±7.5

## 6 スコアの算出による集計

人権に関する意識の程度別にクロス集計を行うために、問 3 主な人権問題に対する意識と、問 7 人権や差別をめぐる考え方の回答について各設問の回答に配点を行い、スコアを算出した。それぞれのスコアの分布をもとにスコア点数の少ない方から回答者数が概ね 1/3 ずつになるように「低・中・高」3 つのグループに分け、クロス集計を行った。

本報告書では、問 3 の回答から算出したスコアを「人権問題別意識・関心スコア」、問 7 の回答から算出したスコアを「人権や差別についての考え方・態度スコア」と表した。

各設問の配点ならびに算出したスコアの分布とグループ分けの結果は表のとおりである。

配点表

	そう思う	そう思う どちらかと言え ば	どちらかと言え ば そう思わない	そう思わない	わからない
問 3、問 7(1)(3)(5)(7)(9)(10)(12)	5	4	2	1	3
問 7(2)(4)(6)(8)(11)(13)(14)(15)	1	2	4	5	3

人権や差別についての考え方・態度  
スコア分布(問 7)

スコア分布	件数	カテゴリー
26 点未満	0 件	15～48 点 (172 件) [低]
27 点	2 件	
28 点	1 件	
29 点	0 件	
30 点	1 件	
31 点	0 件	
32 点	0 件	
33 点	2 件	
34 点	2 件	
35 点	1 件	
36 点	3 件	
37 点	3 件	
38 点	11 件	
39 点	1 件	49～56 点 (170 件) [中]
40 点	6 件	
41 点	6 件	
42 点	13 件	
43 点	18 件	
44 点	19 件	
45 点	22 件	
46 点	15 件	
47 点	24 件	
48 点	22 件	
49 点	18 件	
50 点	20 件	
51 点	19 件	
52 点	30 件	
53 点	26 件	
54 点	22 件	
55 点	13 件	
56 点	22 件	
57 点	11 件	
58 点	18 件	
59 点	23 件	
60 点	13 件	
61 点	18 件	
62 点	21 件	
63 点	14 件	
64 点	10 件	
65 点	10 件	
66 点	7 件	
67 点	6 件	
68 点	4 件	
69 点	5 件	
70 点	1 件	
71 点	3 件	
72 点	0 件	
73 点	2 件	
74 点	3 件	
75 点	0 件	

人権問題別意識・関心スコア分布(問3)

スコア 分布	女性の人権		子どもの人権		高齢者の人権		障害者の人権			
	件数	カテゴリー	件数	カテゴリー	件数	カテゴリー	件数	カテゴリー		
5点	1件	5～18点 (177件) [低]	2件	5～20点 (183件) [低]	3件	5～18点 (168件) [低]	2件	5～19点 (174件) [低]		
6点	1件		1件		2件		2件		0件	5件
7点	1件		2件		1件		0件		5件	8件
8点	4件		5件		4件		5件		7件	5件
9点	7件		4件		8件		4件		5件	10件
10点	4件		4件		6件		4件		13件	8件
11点	13件		20件		4件		6件		16件	16件
12点	15件		16件		6件		20件		19件	19件
13点	13件		19件		16件		16件		26件	19件
14点	14件		23件		19件		34件		30件	23件
15点	27件		28件		33件		38件		30件	26件
16点	17件		35件		35件		49件		38件	28件
17点	26件		36件		36件		42件		49件	45件
18点	34件	30件	30件	47件	42件	36件				
19点	24件	19～22点 (154件) [中]	45件	21～24点 (171件) [中]	47件	23～25点 (178件) [高]	59件	20～23点 (181件) [中]		
20点	47件		60件		65件		65件		47件	47件
21点	45件	23～25点 (188件) [高]	174件	25点(174件) [高]	66件	120件	120件	24～25点 (167件) [高]		
22点	38件									
23点	43件									
24点	37件									
25点	108件									

スコア 分布	部落差別 (同和問題)		外国人の人権		性的マイノリティの人権		インターネットに おける人権侵害		
	件数	カテゴリー	件数	カテゴリー	件数	カテゴリー	件数	カテゴリー	
5点					7件	5～17点 (174件) [低]			
6点	9件	6～20点 (173件) [低]	9件	0～19点 (174件) [低]	0件		3件	6～26点 (178件) [低]	
7点	4件		0件		2件		1件		0件
8点	3件		2件		2件		2件		1件
9点	2件		2件		3件		2件		2件
10点	7件		6件		15件		3件		1件
11点	2件		6件		9件		13件		2件
12点	20件		18件		13件		8件		3件
13点	6件		8件		8件		14件		2件
14点	9件		21件		14件		20件		2件
15点	6件		8件		53件		25件		2件
16点	9件		13件		25件		24件		2件
17点	6件		12件		24件		26件		6件
18点	62件		55件		26件	16件	30件		
19点	11件	14件	16件	56件	4件				
20点	17件	30件	36件	33件	9件				
21点	9件	21～28点 (168件) [中]	11件	20～25点 (167件) [中]	20件	9件	27～29点 (92件) [中]		
22点	15件		26件		33件	38件		7件	
23点	12件		27件		20件	118件		9件	
24点	36件		51件		38件			43件	
25点	23件		22件		118件			24件	
26点	21件	30件	30件		17件				
27点	22件	27件	27件		22件				
28点	30件	18件	18件		40件				
29点	32件	29～30点 (187件) [高]	19件		30件	30点(247件) [高]			
30点	155件		78件				247件		

## Ⅱ 町民意識調査の結果

### 1 回答者の属性

#### 1. 性別

性別について、「女性」が 55.8%で最も高く、次いで「男性」が 42.9%、「(自由にお書きください)」が 0.5%となっている。

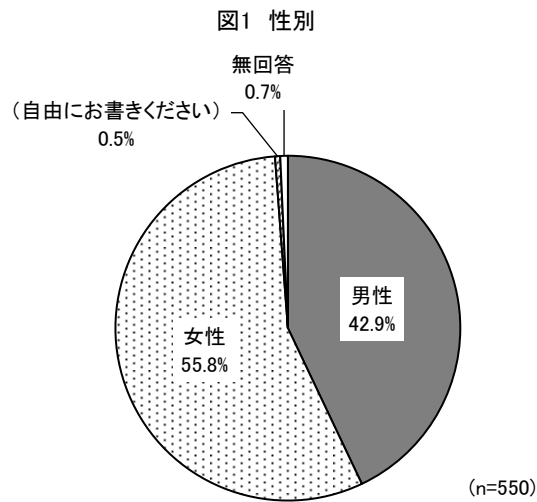


表1 性別

	回答者数(n)	男性	女性	(自由にお書きください)	無回答	
全体	550	42.9	55.8	0.5	0.7	
年齢別	10・20 歳代	41	29.3	70.7	-	-
	30 歳代	65	40.0	60.0	-	-
	40 歳代	89	36.0	60.7	2.2	1.1
	50 歳代	103	53.4	45.6	1.0	-
	60 歳代	93	46.2	53.8	-	-
	70 歳以上	156	43.6	56.4	-	-



2. 年齢

年齢について、「50～59 歳」と「70～79 歳」がともに 18.7%で最も高く、次いで「60～69 歳」が 16.9%、「40～49 歳」が 16.2%、「30～39 歳」が 11.8%となっている。

母集団の年齢構成と比較して、「60～69 歳」は 6.0 ポイント、「70～79 歳」は 4.9%ポイント、それぞれ高くなっている。

図2 年齢

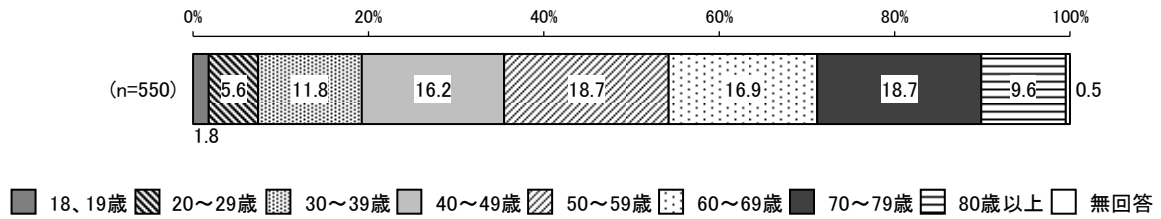
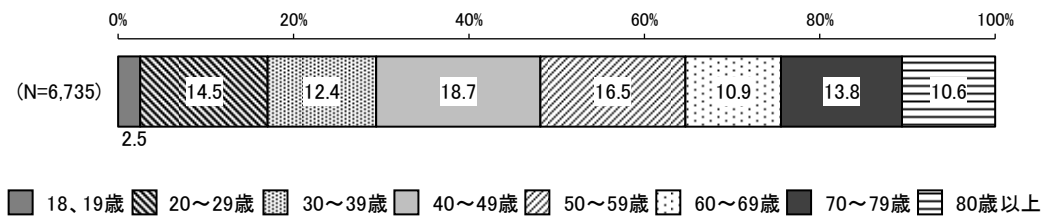


図3 母集団の年齢構成



## II 町民意識調査の結果

### 3. 利用メディア

利用するメディアについて、「テレビ、ラジオ」が 85.1%で最も高く、次いで「新聞、書籍、雑誌」が 52.7%、「SNS(Facebook、LINE など)」が 40.2%、「インターネット上の YouTube などの動画サイト」が 38.2%となっている。

性別にみると、「新聞、書籍、雑誌」(男性 59.3%・女性 48.2%)は男性の方が高く、「SNS(Facebook、LINE など)」(男性 31.4%・女性 47.6%)は女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「新聞、書籍、雑誌」は年齢が高いほど回答割合が高く、「SNS(Facebook、LINE など)」「インターネット上の YouTube などの動画サイト」は、逆に年齢が低くなるほど割合が高くなっている。

図4 利用メディア

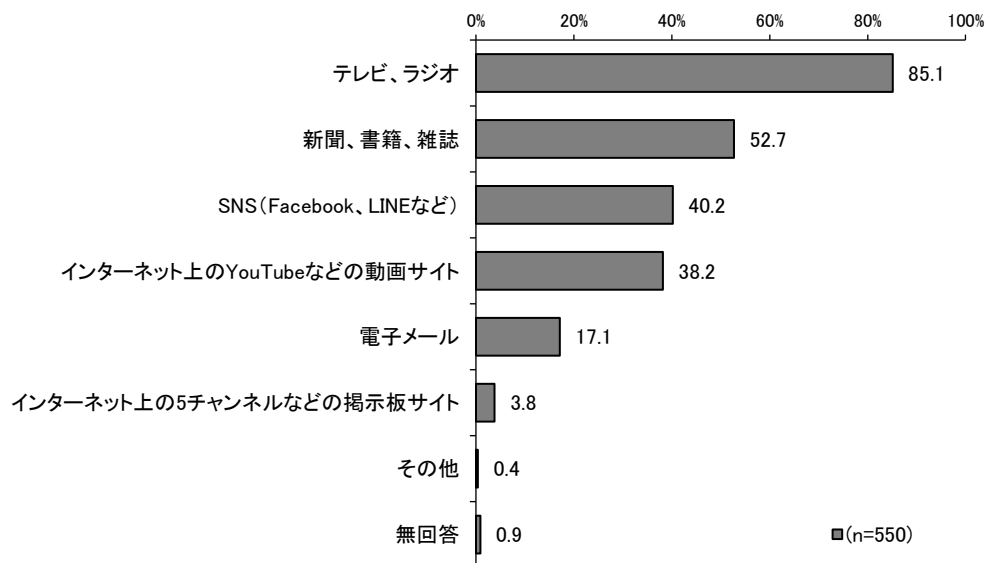


表2 利用メディア

	回答者数(n)	テレビ、ラジオ	新聞、書籍、雑誌	SNS(Facebook、LINEなど)	インターネット上のYouTubeなどの動画サイト	電子メール	インターネット上の5チャンネルなどの掲示板サイト	その他	無回答
全体	550	85.1	52.7	40.2	38.2	17.1	3.8	0.4	0.9
性別	男性	236	59.3	31.4	37.7	17.4	3.4	0.4	0.4
	女性	307	48.2	47.6	39.1	16.6	4.2	0.3	0.3
	任意記入者	3	100.0	33.3	-	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	14.6	85.4	73.2	2.4	9.8	-	-
	30 歳代	65	20.0	69.2	67.7	24.6	12.3	-	-
	40 歳代	89	92.1	38.2	58.4	44.9	5.6	-	-
	50 歳代	103	86.4	50.5	45.6	40.8	29.1	1.9	-
	60 歳代	93	91.4	71.0	33.3	39.8	18.3	-	-
	70 歳以上	156	91.7	76.3	7.1	10.9	7.1	1.3	-

4. 居住地区

居住地区について、「吉見」が 46.7%で最も高く、次いで「嘉祥寺」が 37.3%、「りんくうポート北」が 14.7%となっている。

図5 居住地区

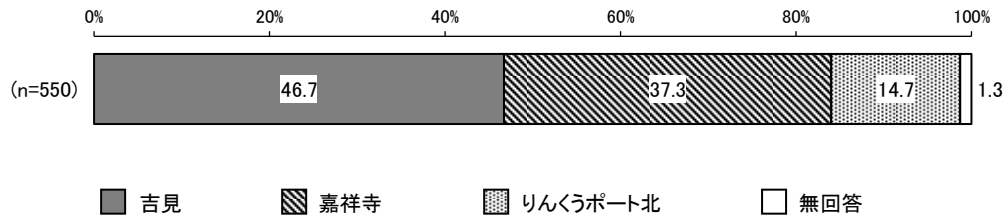


表3 居住地区

	回答者数 (n)	吉見	嘉祥寺	りんくうポート北	無回答	
全体	550	46.7	37.3	14.7	1.3	
性別	男性	236	45.8	36.0	17.4	0.8
	女性	307	48.2	38.4	13.0	0.3
	任意記入者	3	33.3	66.7	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	46.3	34.1	19.5	-
	30 歳代	65	55.4	20.0	23.1	1.5
	40 歳代	89	46.1	33.7	19.1	1.1
	50 歳代	103	44.7	35.0	19.4	1.0
	60 歳代	93	44.1	51.6	4.3	-
	70 歳以上	156	47.4	41.0	10.9	0.6

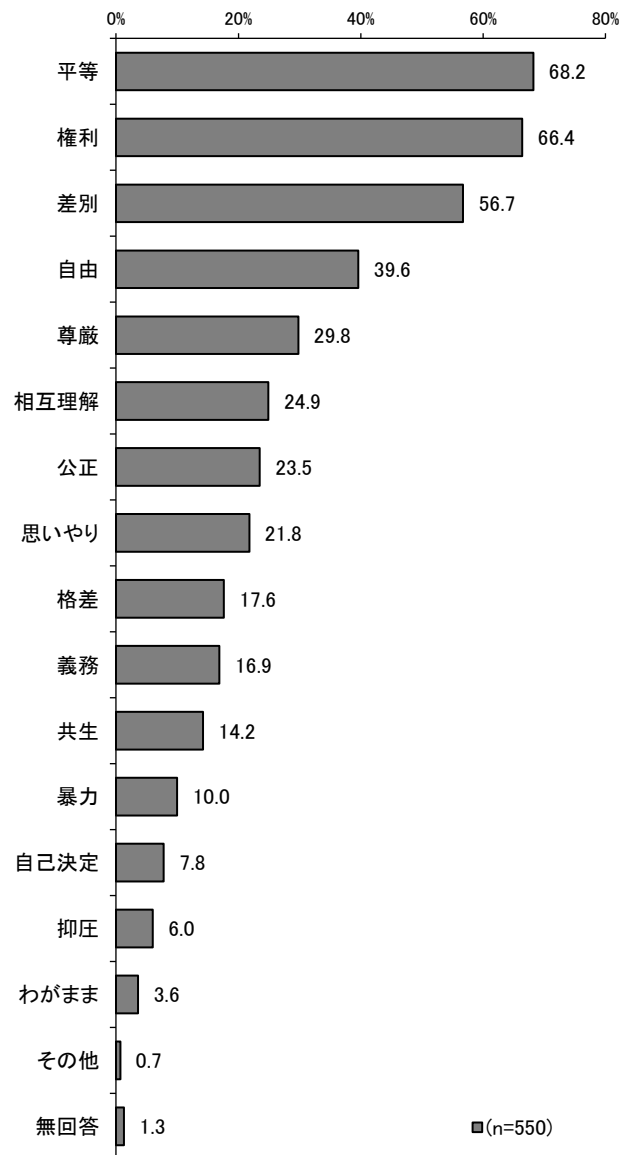
## 2 人権問題の認知状況

### 1. 「人権」と聞いたときに思いつく言葉

問1 あなたが「人権」と聞いたとき、思いつく言葉は何ですか。(〇はいくつでも)

「人権」と聞いたときに思いつく言葉について、「平等」が 68.2%で最も高く、次いで「権利」が 66.4%、「差別」が 56.7%と、これら3項目の回答は5割を超えている。

図6 「人権」と聞いたときに思いつく言葉



性別にみると、「差別」(男性 59.3%・女性 54.1%)、「抑圧」(男性 8.1%・女性 3.6%)は男性の方が女性よりやや割合が高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代、30 歳代、50 歳代では「権利」、40 歳代、60 歳代、70 歳以上では「平等」の割合が最も高くなっている。年齢が高くなるほど「差別」「思いやり」「義務」、年齢が低くなるほど「自由」の割合が高くなる傾向がみられる。

表4 「人権」と聞いたときに思いつく言葉

	回答者数 (n)	平等	権利	差別	自由	尊厳	相互理解	公正	思いやり	格差	義務	
全体	550	68.2	66.4	56.7	39.6	29.8	24.9	23.5	21.8	17.6	16.9	
性別	男性	236	67.8	65.7	59.3	41.5	29.2	25.8	22.9	20.8	19.5	17.4
	女性	307	69.1	67.8	54.1	38.1	30.3	24.4	23.8	22.8	16.0	16.9
	任意記入者	3	33.3	-	100.0	-	-	-	-	33.3	33.3	-
年齢別	10・20 歳代	41	65.9	70.7	43.9	51.2	26.8	24.4	24.4	12.2	19.5	4.9
	30 歳代	65	63.1	64.6	43.1	43.1	29.2	23.1	15.4	18.5	13.8	12.3
	40 歳代	89	71.9	68.5	57.3	43.8	30.3	37.1	24.7	21.3	12.4	12.4
	50 歳代	103	71.8	74.8	55.3	37.9	33.0	27.2	33.0	18.4	18.4	14.6
	60 歳代	93	68.8	62.4	64.5	35.5	36.6	22.6	21.5	18.3	18.3	15.1
	70 歳以上	156	66.0	62.2	61.5	35.9	24.4	19.2	20.5	30.8	20.5	27.6

	回答者数 (n)	共生	暴力	自己決定	抑圧	わがまま	その他	無回答	
全体	550	14.2	10.0	7.8	6.0	3.6	0.7	1.3	
性別	男性	236	11.9	11.4	7.6	8.1	5.1	1.7	0.4
	女性	307	15.6	8.1	8.1	3.6	2.6	-	2.0
	任意記入者	3	-	66.7	-	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	4.9	4.9	4.9	2.4	2.4	-	-
	30 歳代	65	12.3	3.1	13.8	1.5	4.6	3.1	1.5
	40 歳代	89	20.2	11.2	10.1	4.5	3.4	-	-
	50 歳代	103	18.4	11.7	8.7	8.7	2.9	-	-
	60 歳代	93	14.0	10.8	6.5	6.5	4.3	-	2.2
	70 歳以上	156	10.9	11.5	5.1	7.1	3.8	1.3	2.6

## II 町民意識調査の結果

人権や差別についての考え方・態度スコア及び人権問題別意識・関心スコア別(以下、「人権意識スコア別」とする)にみると、高いグループでは「平等」「権利」「自由」「尊厳」「相互理解」「共生」の回答割合が高い傾向で、低いグループでは「差別」「格差」「義務」が高い傾向がみられる。

表5 人権意識スコア別「人権」と聞いたときに思いうかべる言葉

		回答者数(n)	平等	権利	差別	自由	尊厳	相互理解	公正	思いやり	格差
全体		550	68.2	66.4	56.7	39.6	29.8	24.9	23.5	21.8	17.6
人権や差別についての考え方・態度スコア	高	169	76.9	76.9	58.0	44.4	39.1	37.3	27.8	26.0	14.2
	中	170	73.5	67.6	54.7	39.4	34.7	26.5	29.4	21.2	18.2
	低	172	58.1	57.6	60.5	37.8	20.3	14.0	15.7	15.1	19.8
人権問題別意識・関心スコア(女性)	高	188	75.5	75.5	53.2	44.7	34.6	30.3	29.3	20.2	16.5
	中	154	64.3	63.6	61.7	39.0	29.2	27.3	22.7	22.1	19.5
	低	177	65.0	59.9	58.8	35.6	26.6	19.8	20.9	20.9	19.2
人権問題別意識・関心スコア(子ども)	高	174	76.4	76.4	54.6	42.5	37.4	32.8	29.9	18.4	13.2
	中	171	71.9	67.8	63.2	42.1	33.3	29.2	24.0	23.4	21.1
	低	183	59.6	57.9	53.6	36.1	20.8	15.3	18.6	23.5	19.1
人権問題別意識・関心スコア(高齢者)	高	178	77.0	71.9	61.8	45.5	38.8	33.7	26.4	23.0	16.9
	中	176	69.9	63.6	50.6	40.3	28.4	22.7	23.9	21.0	17.0
	低	168	59.5	65.5	58.9	35.7	24.4	19.6	21.4	20.8	19.0
人権問題別意識・関心スコア(障害者)	高	167	77.8	73.7	55.7	47.3	38.9	37.1	28.1	23.4	15.6
	中	181	69.6	68.0	64.6	38.7	32.6	23.2	24.3	21.0	18.2
	低	174	60.3	60.9	51.1	35.6	20.7	16.7	19.5	20.7	19.5
人権問題別意識・関心スコア(部落差別(同和問題))	高	187	74.9	71.1	58.8	41.2	38.5	34.2	27.8	20.9	16.0
	中	168	68.5	65.5	59.5	40.5	29.8	23.2	23.2	20.8	17.9
	低	173	63.0	64.2	53.2	37.6	22.0	17.9	20.2	22.0	20.2
人権問題別意識・関心スコア(外国人)	高	172	80.2	69.8	51.7	46.5	39.5	38.4	25.0	23.8	13.4
	中	167	65.3	67.7	61.7	36.5	29.9	21.6	26.3	21.6	20.4
	低	174	62.1	64.9	57.5	36.2	24.7	16.1	20.7	18.4	20.1
人権問題別意識・関心スコア(性的マイノリティ)	高	176	77.3	71.6	54.5	46.6	38.6	34.1	25.0	24.4	15.3
	中	167	70.1	65.9	59.9	39.5	33.5	28.7	26.3	21.6	18.6
	低	174	60.3	63.8	56.9	32.8	21.3	13.2	20.1	18.4	19.5
人権問題別意識・関心スコア(インターネットにおける人権侵害)	高	247	73.7	68.4	56.3	39.7	38.1	34.0	29.6	22.7	17.0
	中	92	69.6	65.2	64.1	40.2	28.3	23.9	19.6	19.6	10.9
	低	178	62.9	66.9	53.9	39.9	23.6	15.2	18.5	21.9	21.9

表5 人権意識スコア別「人権」と聞いたときに思いうかべる言葉(続き)

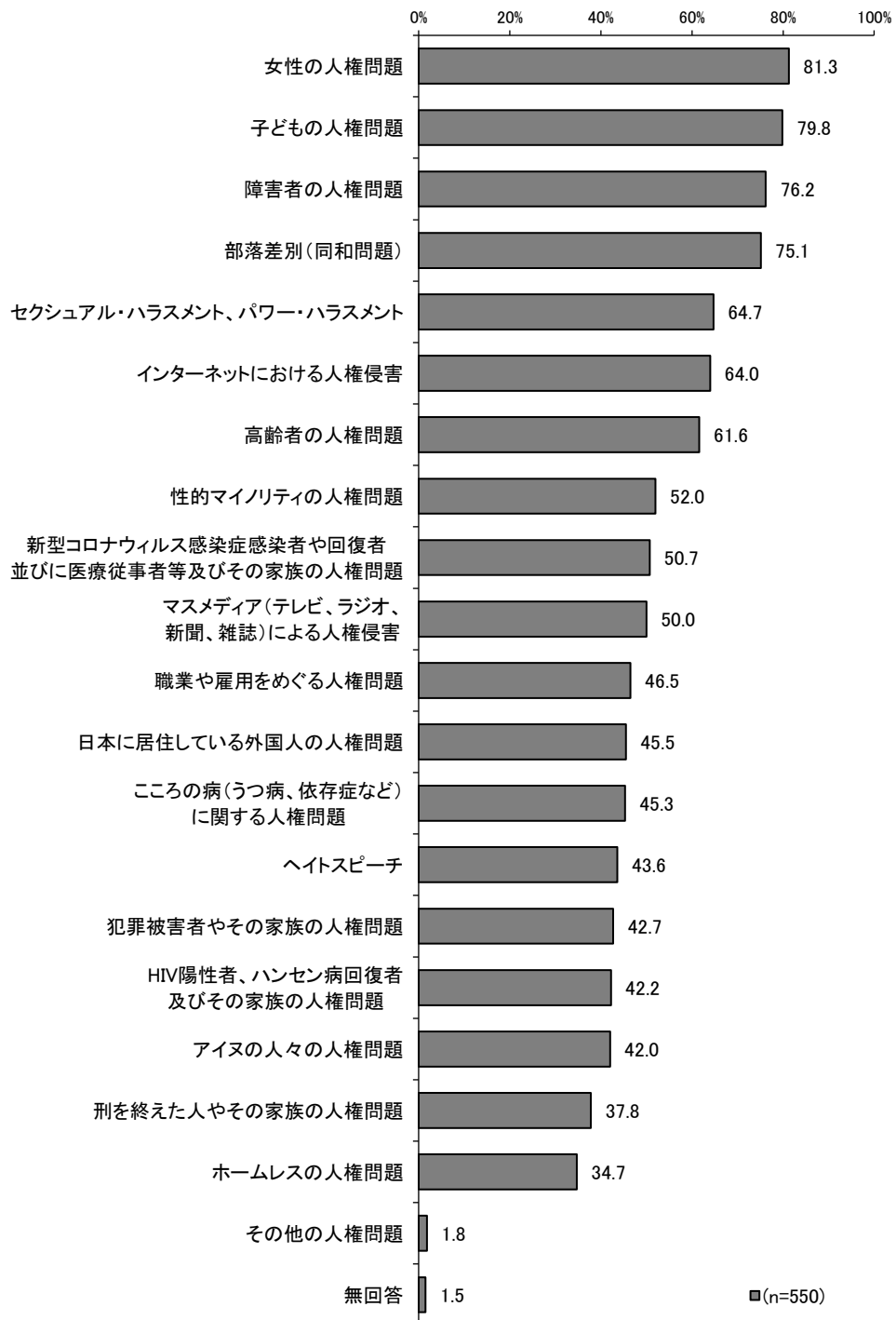
		回答者数(n)	義務	共生	暴力	自己決定	抑圧	わがまま
全体		550	16.9	14.2	10.0	7.8	6.0	3.6
人権や差別についての考え方・態度スコア	高	169	13.6	24.9	10.1	8.9	5.3	1.2
	中	170	17.1	12.4	8.2	8.2	10.0	2.4
	低	172	19.2	6.4	10.5	6.4	3.5	7.0
人権問題別意識・関心スコア(女性)	高	188	16.0	19.7	10.1	10.1	8.5	2.7
	中	154	14.9	15.6	9.7	5.8	9.1	3.9
	低	177	19.2	9.6	11.3	7.3	1.7	5.1
人権問題別意識・関心スコア(子ども)	高	174	16.7	21.8	8.6	12.1	5.7	1.7
	中	171	18.1	14.6	17.0	7.6	11.1	5.3
	低	183	17.5	7.7	5.5	4.4	2.2	4.4
人権問題別意識・関心スコア(高齢者)	高	178	18.5	20.2	13.5	11.2	9.0	3.4
	中	176	15.9	11.9	9.1	4.0	6.8	2.3
	低	168	17.3	10.7	7.7	8.9	3.0	5.4
人権問題別意識・関心スコア(障害者)	高	167	21.0	21.0	10.8	12.0	7.8	3.6
	中	181	10.5	13.8	12.2	7.2	10.5	2.8
	低	174	21.8	9.2	6.9	5.2	0.6	4.6
人権問題別意識・関心スコア(部落差別(同和問題))	高	187	12.3	21.4	9.6	9.6	9.6	2.1
	中	168	17.9	11.9	10.7	7.1	6.5	4.8
	低	173	22.0	9.8	9.8	6.9	2.3	4.6
人権問題別意識・関心スコア(外国人)	高	172	14.5	20.9	11.0	10.5	7.0	1.2
	中	167	15.0	13.2	9.6	6.6	7.8	3.0
	低	174	19.5	9.8	8.6	8.0	4.6	6.9
人権問題別意識・関心スコア(性的マイノリティ)	高	176	13.6	23.3	10.8	11.9	9.1	1.7
	中	167	18.6	11.4	10.2	5.4	7.8	3.0
	低	174	17.8	7.5	8.6	6.9	1.7	6.3
人権問題別意識・関心スコア(インターネットにおける人権侵害)	高	247	16.6	19.4	11.3	8.5	7.3	2.8
	中	92	13.0	6.5	6.5	6.5	7.6	3.3
	低	178	18.5	11.8	9.6	9.0	3.9	5.1

2. 個別の人権問題の認知

問2 あなたが多少なりとも知っている人権問題を次のなかから選んでください。(〇はいくつでも)

個別の人権問題の認知について、「女性の人権問題」が 81.3%で最も高く、次いで「子どもの人権問題」が 79.8%、「障害者の人権問題」が 76.2%、「部落差別(同和問題)」が 75.1%となっている。

図7 個別の人権問題の認知





性別にみると、男性は女性よりも「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が 7.0 ポイント、「ヘイトスピーチ」が 7.5 ポイント高くなっている。女性は男性よりも「女性の人権問題」が 6.9 ポイント、「新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題」が 14.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、ほとんどの項目において 60 歳未満の年齢層は 60 歳以上の年齢層と比べて割合が高くなっており、特に「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」「インターネットにおける人権侵害」「性的マイノリティの人権問題」は年齢による違いが大きくなっている。

表6 個別の人権問題の認知

	回答者数(n)	女性の人権問題	子どもの人権問題	障害者の人権問題	部落差別(同和問題)	セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント	インターネットにおける人権侵害	高齢者の人権問題	性的マイノリティの人権問題	新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題	新聞、雑誌による人権侵害	マスメディア(テレビ、ラジオ、	職業や雇用をめぐる人権問題
全体	550	81.3	79.8	76.2	75.1	64.7	64.0	61.6	52.0	50.7	50.0	46.5	
性別	男性	236	77.1	77.5	77.1	68.6	61.0	58.9	51.3	42.4	47.5	48.3	
	女性	307	84.0	81.8	75.6	73.6	61.6	63.8	52.4	57.3	52.1	45.0	
	任意記入者	3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	66.7	33.3	66.7	66.7	66.7	
年齢別	10・20 歳代	41	90.2	90.2	87.8	65.9	73.2	73.2	61.0	58.5	48.8	61.0	51.2
	30 歳代	65	93.8	93.8	86.2	81.5	73.8	75.4	58.5	69.2	63.1	61.5	50.8
	40 歳代	89	94.4	88.8	80.9	83.1	78.7	80.9	66.3	67.4	65.2	66.3	61.8
	50 歳代	103	88.3	83.5	82.5	84.5	82.5	76.7	57.3	66.0	61.2	59.2	59.2
	60 歳代	93	74.2	75.3	73.1	69.9	63.4	64.5	61.3	46.2	41.9	45.2	32.3
	70 歳以上	156	65.4	67.3	64.7	67.9	40.4	39.1	63.5	28.8	36.5	30.8	35.3

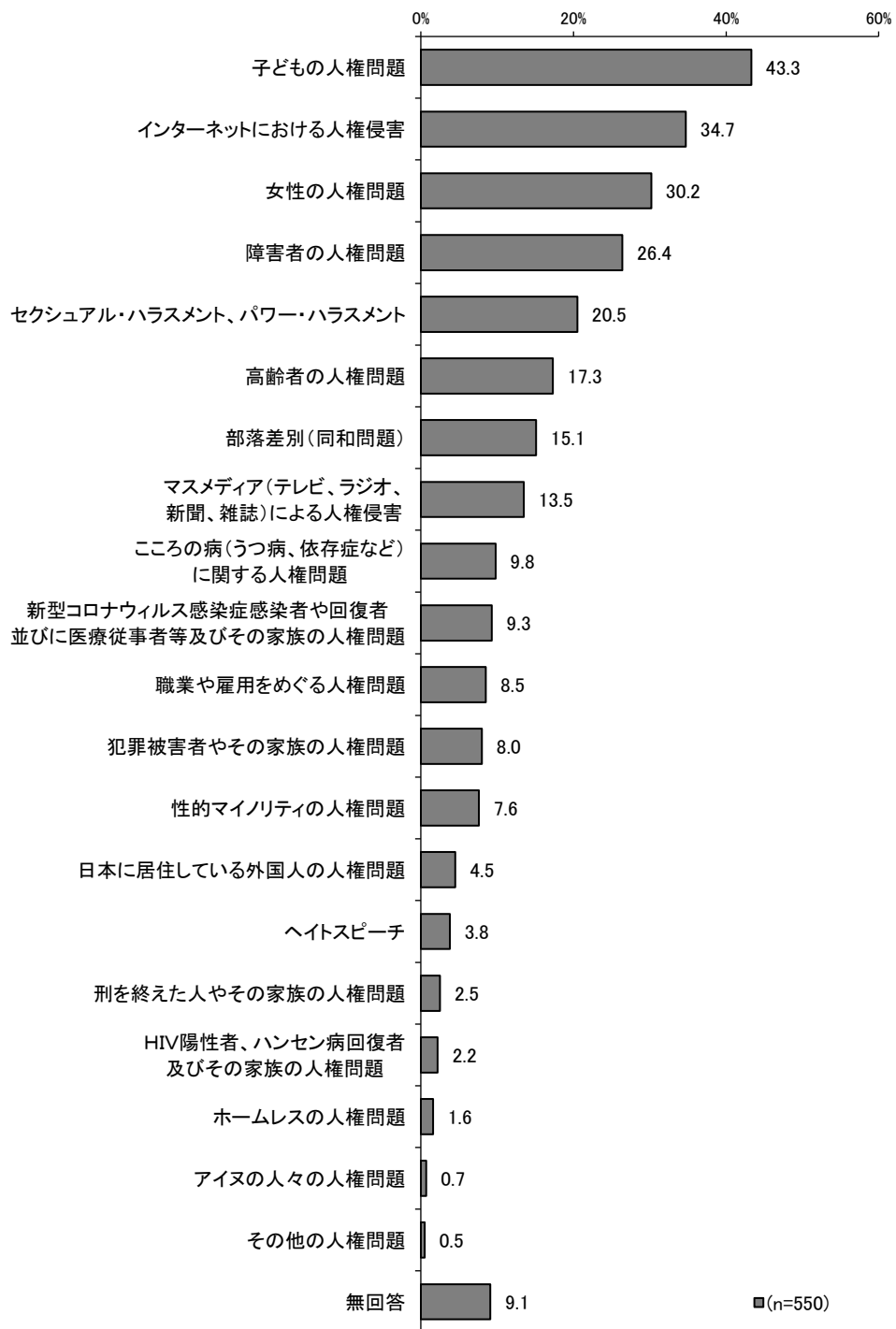
	回答者数(n)	日本に居住している外国人の人権問題	こころの病(うつ病、依存症など)に関する人権問題	ヘイトスピーチ	犯罪被害者やその家族の人権問題	HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	アイヌの人々の人権問題	刑を終えた人やその家族の人権問題	ホームレスの人権問題	その他の人権問題	無回答	
全体	550	45.5	45.3	43.6	42.7	42.2	42.0	37.8	34.7	1.8	1.5	
性別	男性	236	44.1	42.8	47.9	41.1	41.5	44.5	34.3	31.4	1.7	1.3
	女性	307	46.3	47.6	40.4	43.3	42.7	39.4	39.7	36.8	2.0	1.6
	任意記入者	3	66.7	-	66.7	100.0	33.3	100.0	100.0	66.7	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	58.5	51.2	36.6	43.9	29.3	58.5	39.0	46.3	2.4	-
	30 歳代	65	55.4	46.2	47.7	43.1	47.7	46.2	40.0	30.8	-	-
	40 歳代	89	62.9	52.8	60.7	51.7	50.6	50.6	46.1	43.8	3.4	-
	50 歳代	103	50.5	55.3	63.1	54.4	60.2	52.4	42.7	46.6	1.9	-
	60 歳代	93	33.3	39.8	34.4	33.3	36.6	34.4	34.4	25.8	1.1	1.1
	70 歳以上	156	32.1	35.9	27.6	35.3	30.1	28.8	30.8	25.6	1.9	4.5

3. 特に人権上の深刻な問題

問2-1 問2のさまざまな人権問題のなかで、あなたが、特に人権上の深刻な問題と考えるものは、1～20のうちのどれですか。(該当する番号を3つ記入)

特に人権上の深刻な問題について、「子どもの人権問題」が43.3%で最も高く、次いで「インターネットにおける人権侵害」が34.7%、「女性の人権問題」が30.2%、「障害者の人権問題」が26.4%となっている。

図8 特に人権上の深刻な問題



性別にみると、男性は女性よりも「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が 6.6 ポイント、「部落差別(同和問題)」が 8.8 ポイント、「マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌)による人権侵害」が 5.8 ポイント高くなっている。女性は男性よりも「子どもの人権問題」が 13.6 ポイント、「女性の人権問題」が 8.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代では「インターネットにおける人権侵害」が 46.3%で最も高くなっており、また「日本に居住している外国人の人権問題」が 14.6%と他の年齢層と比べて高い。30 歳代では「子どもの人権問題」が 58.5%で最も高く、次いで「女性の人権問題」が 44.6%となっており、ともに全体より 10 ポイント以上高くなっている。70 歳以上では「インターネットにおける人権侵害」(17.9%)が他の年齢層と比べて大幅に低くなっている。

表7 特に人権上の深刻な問題

	回答者数(n)	子どもの人権問題	インターネットにおける人権侵害	女性の人権問題	障害者の人権問題	セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント	高齢者の人権問題	部落差別(同和問題)	マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌)による人権侵害	こころの病(うつ病、依存症など)に関する人権問題	新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題	職業や雇用をめぐる人権問題	
全体	550	43.3	34.7	30.2	26.4	20.5	17.3	15.1	13.5	9.8	9.3	8.5	
性別	男性	236	35.6	34.3	25.0	24.2	17.8	19.9	16.9	10.2	8.9	11.0	
	女性	307	49.2	35.5	33.6	26.1	17.3	11.1	11.1	9.8	9.8	6.5	
	任意記入者	3	66.7	-	100.0	-	33.3	-	-	-	-	33.3	
年齢別	10・20 歳代	41	39.0	46.3	29.3	26.8	24.4	14.6	7.3	14.6	12.2	4.9	9.8
	30 歳代	65	58.5	38.5	44.6	24.6	26.2	10.8	7.7	12.3	3.1	9.2	4.6
	40 歳代	89	44.9	44.9	30.3	24.7	28.1	6.7	15.7	20.2	5.6	9.0	12.4
	50 歳代	103	37.9	43.7	27.2	29.1	27.2	14.6	9.7	15.5	13.6	11.7	14.6
	60 歳代	93	50.5	36.6	25.8	25.8	20.4	23.7	12.9	12.9	11.8	10.8	5.4
	70 歳以上	156	37.2	17.9	28.8	26.3	9.0	25.0	24.4	9.0	10.9	8.3	5.8

	回答者数(n)	犯罪被害者やその家族の人権問題	性的マイノリティの人権問題	日本に居住している外国人の人権問題	ヘイトスピーチ	刑を終えた人やその家族の人権問題	HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	ホームレスの人権問題	アイヌの人々の人権問題	その他の人権問題	無回答
全体	550	8.0	7.6	4.5	3.8	2.5	2.2	1.6	0.7	0.5	9.1
性別	男性	236	8.5	5.9	5.5	5.1	3.0	1.7	0.4	0.4	6.8
	女性	307	7.8	9.1	3.9	2.9	2.3	2.9	1.6	1.0	10.4
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	4.9	12.2	14.6	-	-	2.4	-	-	2.4
	30 歳代	65	6.2	10.8	9.2	1.5	1.5	3.1	-	-	-
	40 歳代	89	9.0	9.0	5.6	7.9	1.1	-	1.1	1.1	4.5
	50 歳代	103	11.7	7.8	1.9	4.9	-	1.9	1.9	1.0	2.9
	60 歳代	93	7.5	9.7	2.2	2.2	4.3	2.2	2.2	-	7.5
	70 歳以上	156	7.1	3.2	2.6	3.8	5.1	3.8	0.6	0.6	21.2

### 3 様々な人権問題への意識

#### 1. 人権上問題があると思うこと

問3 あなたは、次のようなことを人権上、問題があると思いますか。(それぞれについて、いずれか1つに○)

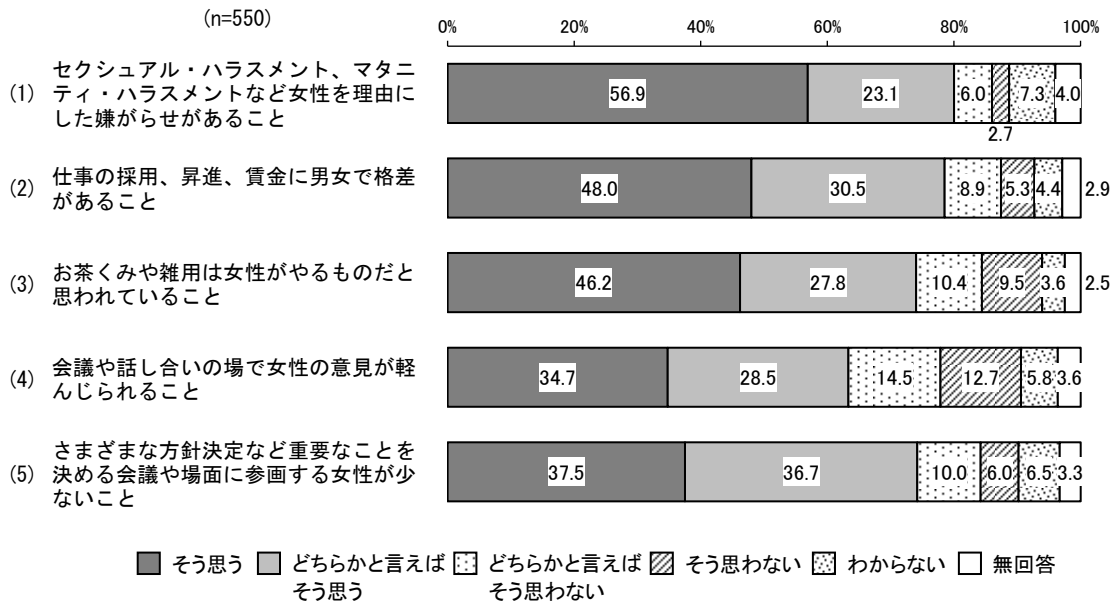
#### 女性の人権

女性の人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(1)セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど女性を理由にした嫌がらせがあること」が 80.0%で最も高く、次いで「(2)仕事の採用、昇進、賃金に男女で格差があること」が 78.5%となっている。

「(4)会議や話し合いの場で女性の意見が軽んじられること」では『そう思う』は 63.2%で他の項目と比べて低くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図9 女性の人権に関して問題があると思うこと



**(1)セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど女性を理由にした嫌がらせがあること**

性別にみると、男女ともに『そう思う』が約 8 割を占めており、性別による違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、60 歳未満の年齢層ではいずれも『そう思う』が約 9 割と高く、なかでも 10・20 歳代では「そう思う」が 75.6%を占めている。

**(2)仕事の採用、昇進、賃金に男女で格差があること**

性別にみると、『そう思う』の割合は男性 75.0%・女性 81.4%と、女性の方が 6.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60 歳未満の年齢層では『そう思う』が 8 割を超えており、特に 30 歳代では 92.3%と高くなっている。

**(3)お茶くみや雑用は女性がやるものだと思われること**

性別にみると、『そう思う』の割合は男性 68.6%・女性 78.2%と、女性の方が 9.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60 歳未満の年齢層では『そう思う』が 8 割を超えており、30 歳代と 40 歳代では「そう思う」が 6 割以上と高くなっている。

**(4)会議や話し合いの場で女性の意見が軽んじられること**

性別にみると、『そう思う』が男性 54.2%・女性 69.7%と、女性の方が 15.5 ポイント高く、『そう思わない』は男性 39.8%・女性 18.3%と、男性の方が 21.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50 歳未満の年齢層では『そう思う』が 7 割台となっている。

**(5)さまざまな方針決定など重要なことを決める会議や場面に参画する女性が少ないこと**

性別にみると、『そう思う』の割合は男性 70.7%・女性 76.9%と、女性の方が 6.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代と 40 歳代で『そう思う』が 8 割を超えている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

II 町民意識調査の結果

表8 女性の人権に関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど女性を理由にした嫌がらせがあること						(2) 仕事の採用、昇進、賃金に男女で格差があること						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	56.9	23.1	6.0	2.7	7.3	4.0	48.0	30.5	8.9	5.3	4.4	2.9	
性別	男性	236	56.8	23.7	8.1	2.5	6.4	2.5	40.3	34.7	12.3	6.8	3.8	2.1
	女性	307	57.0	22.5	4.6	2.9	8.1	4.9	54.4	27.0	6.5	4.2	4.6	3.3
	任意記入者	3	66.7	33.3	-	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	75.6	14.6	2.4	2.4	4.9	-	58.5	26.8	7.3	4.9	2.4	-
	30 歳代	65	66.2	26.2	3.1	1.5	3.1	-	67.7	24.6	3.1	4.6	-	-
	40 歳代	89	69.7	19.1	6.7	2.2	2.2	-	50.6	31.5	9.0	4.5	4.5	-
	50 歳代	103	67.0	22.3	5.8	1.9	1.9	1.0	53.4	28.2	10.7	2.9	4.9	-
	60 歳代	93	50.5	30.1	4.3	3.2	7.5	4.3	45.2	29.0	14.0	8.6	1.1	2.2
	70 歳以上	156	38.5	22.4	9.0	3.8	16.0	10.3	34.6	35.9	7.7	5.8	7.7	8.3

	回答者数(n)	(3) お茶くみや雑用は女性がやるものだと思うこと						(4) 会議や話し合いの場で女性の意見が軽んじられること						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	46.2	27.8	10.4	9.5	3.6	2.5	34.7	28.5	14.5	12.7	5.8	3.6	
性別	男性	236	41.1	27.5	13.6	12.3	3.4	2.1	29.2	25.0	17.8	22.0	3.8	2.1
	女性	307	50.5	27.7	7.8	7.5	3.9	2.6	38.4	31.3	12.4	5.9	7.5	4.6
	任意記入者	3	66.7	-	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	56.1	24.4	4.9	12.2	2.4	-	51.2	22.0	14.6	7.3	4.9	-
	30 歳代	65	63.1	24.6	4.6	4.6	3.1	-	53.8	24.6	7.7	10.8	3.1	-
	40 歳代	89	60.7	21.3	13.5	2.2	2.2	-	49.4	25.8	12.4	7.9	4.5	-
	50 歳代	103	47.6	34.0	8.7	6.8	1.9	1.0	36.9	27.2	16.5	12.6	5.8	1.0
	60 歳代	93	41.9	23.7	17.2	12.9	2.2	2.2	24.7	31.2	17.2	19.4	4.3	3.2
	70 歳以上	156	30.8	31.4	9.6	14.7	7.1	6.4	18.6	32.7	16.0	14.1	9.0	9.6

	回答者数(n)	(5) さまざまな方針決定など重要なことを決める会議や場面に参画する女性が少ないこと						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	37.5	36.7	10.0	6.0	6.5	3.3	
性別	男性	236	36.0	34.7	13.1	10.6	3.4	2.1
	女性	307	38.8	38.1	7.8	2.6	8.8	3.9
	任意記入者	3	66.7	33.3	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	43.9	31.7	14.6	7.3	2.4	-
	30 歳代	65	41.5	38.5	7.7	7.7	3.1	1.5
	40 歳代	89	43.8	40.4	7.9	3.4	4.5	-
	50 歳代	103	37.9	37.9	8.7	5.8	9.7	-
	60 歳代	93	34.4	35.5	18.3	6.5	2.2	3.2
	70 歳以上	156	32.7	34.6	7.1	6.4	10.9	8.3

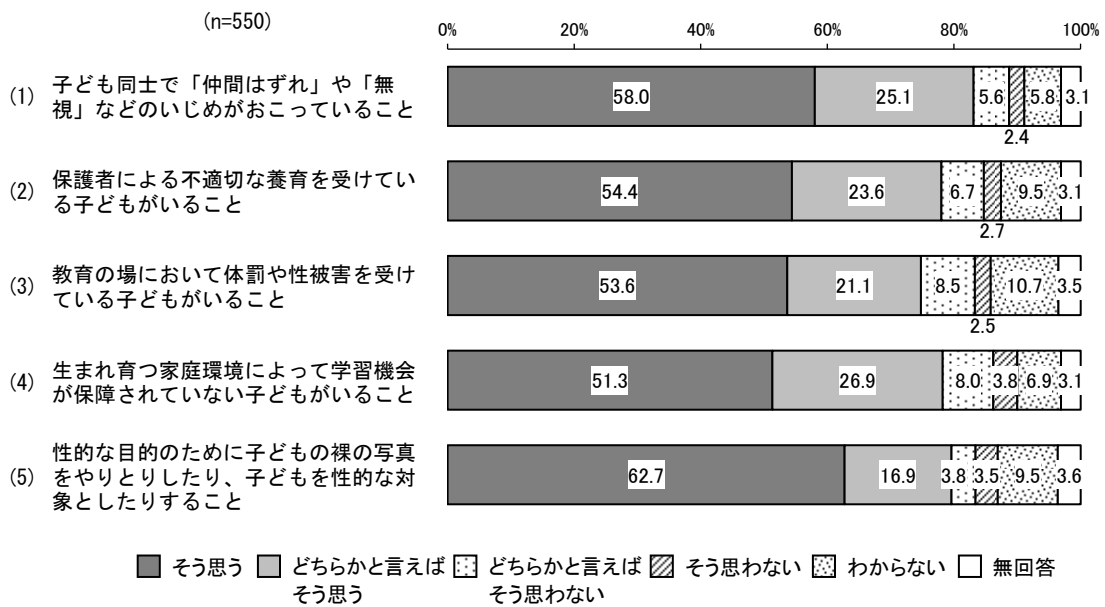
子どもの人権

子どもの人権で人権上問題があると思うことについて、いずれの項目も『そう思う』が7割を超えており、特に「(1)子ども同士で「仲間はずれ」や「無視」などのいじめがおこっていること」が83.1%で最も高く、次いで「(5)性的な目的のために子どもの裸の写真をやりとりしたり、子どもを性的な対象としたりすること」が79.6%となっている。

「(3)教育の場において体罰や性被害を受けている子どもがいること」では『そう思う』は74.7%で他の項目と比べて低くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図10 子どもの人権に関して問題があると思うこと



## II 町民意識調査の結果

### (1)子ども同士で「仲間はずれ」や「無視」などのいじめがおこっていること

性別にみると、『そう思う』は男性 79.6%・女性 85.7%と女性の方が 6.1 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30 歳代で 95.3%、40 歳代で 95.5%と高くなっている。

### (2)保護者による不適切な養育を受けている子どもがいること

性別にみると、『そう思う』は男性 77.1%・女性 78.8%と、性別による違いはほとんどみられない。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30 歳代で 95.4%、40 歳代で 88.7%と高くなっている。

### (3)教育の場において体罰や性被害を受けている子どもがいること

性別にみると、『そう思う』は男性 71.2%・女性 77.5%で、女性の方が 6.3 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30 歳代と 40 歳代で 9 割以上、10・20 歳代と 50 歳代で 8 割以上と高くなっている。

### (4)生まれ育つ家庭環境によって学習機会が保障されていない子どもがいること

性別にみると、『そう思う』は男性 77.1%・女性 79.8%と、女性の方が 2.7 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30 歳代で 92.3%、40 歳代と 50 歳代で 8 割台と高くなっている。

### (5)性的な目的のために子どもの裸の写真をやりとりしたり、子どもを性的な対象としたりすること

性別にみると、『そう思う』は男性 78.0%・女性 80.8%と、女性の方が 2.8 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30 歳代で 96.9%、10・20 歳代、40 歳代、50 歳代でも約 9 割と高くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。



表9 子どもの人権に関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) 子ども同士で「仲間はずれ」や「無視」などのいじめがおこっていること						(2) 保護者による不適切な養育を受けている子どもがいること						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	58.0	25.1	5.6	2.4	5.8	3.1	54.4	23.6	6.7	2.7	9.5	3.1	
性別	男性	236	50.4	29.2	8.9	3.4	5.9	2.1	51.7	25.4	8.1	3.8	8.9	2.1
	女性	307	64.5	21.2	3.3	1.6	5.9	3.6	56.7	22.1	5.5	2.0	10.1	3.6
	任意記入者	3	33.3	66.7	-	-	-	-	66.7	-	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	56.1	29.3	7.3	2.4	4.9	-	58.5	19.5	12.2	-	9.8	-
	30 歳代	65	73.8	21.5	1.5	1.5	1.5	-	72.3	23.1	-	-	4.6	-
	40 歳代	89	75.3	20.2	2.2	-	2.2	-	73.0	15.7	9.0	2.2	-	-
	50 歳代	103	60.2	23.3	5.8	4.9	3.9	1.9	62.1	21.4	3.9	3.9	8.7	-
	60 歳代	93	53.8	32.3	5.4	1.1	4.3	3.2	49.5	31.2	7.5	2.2	7.5	2.2
	70 歳以上	156	44.2	24.4	9.0	3.2	12.2	7.1	34.0	25.6	8.3	4.5	18.6	9.0

	回答者数(n)	(3) 教育の場において体罰や性被害を受けている子どもがいること						(4) 生まれ育つ家庭環境によって学習機会が保障されていない子どもがいること						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	53.6	21.1	8.5	2.5	10.7	3.5	51.3	26.9	8.0	3.8	6.9	3.1	
性別	男性	236	49.6	21.6	11.9	3.8	11.0	2.1	48.7	28.4	8.5	6.8	5.9	1.7
	女性	307	56.7	20.8	5.9	1.6	10.7	4.2	53.7	26.1	7.5	1.6	7.2	3.9
	任意記入者	3	66.7	33.3	-	-	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	-
年齢別	10・20 歳代	41	58.5	24.4	9.8	-	7.3	-	58.5	22.0	9.8	2.4	7.3	-
	30 歳代	65	73.8	18.5	6.2	-	1.5	-	67.7	24.6	4.6	3.1	-	-
	40 歳代	89	74.2	16.9	4.5	1.1	3.4	-	66.3	19.1	9.0	2.2	3.4	-
	50 歳代	103	65.0	18.4	5.8	2.9	6.8	1.0	63.1	25.2	2.9	1.9	5.8	1.0
	60 歳代	93	44.1	26.9	8.6	6.5	10.8	3.2	45.2	34.4	8.6	2.2	7.5	2.2
	70 歳以上	156	30.8	22.4	12.8	2.6	22.4	9.0	30.8	30.1	11.5	7.7	11.5	8.3

	回答者数(n)	(5) 性的な目的のために子どもの裸の写真をやりとりしたり、子どもを性的な対象としたりすること						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	62.7	16.9	3.8	3.5	9.5	3.6	
性別	男性	236	58.5	19.5	5.5	4.7	9.7	2.1
	女性	307	65.8	15.0	2.6	2.6	9.4	4.6
	任意記入者	3	100.0	-	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	75.6	12.2	-	4.9	7.3	-
	30 歳代	65	81.5	15.4	1.5	-	1.5	-
	40 歳代	89	77.5	13.5	4.5	2.2	2.2	-
	50 歳代	103	72.8	17.5	2.9	1.0	5.8	-
	60 歳代	93	58.1	18.3	6.5	2.2	10.8	4.3
	70 歳以上	156	39.7	19.2	4.5	7.7	19.2	9.6

## II 町民意識調査の結果

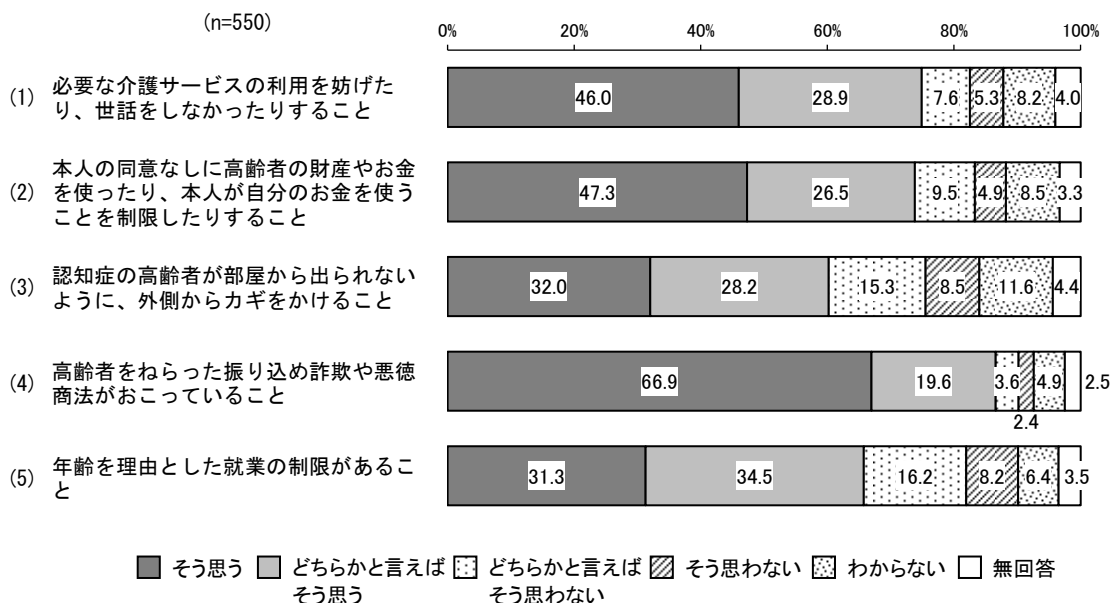
### 高齢者の人権

高齢者の人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(4)高齢者をねらった振り込め詐欺や悪徳商法がおこっていること」が 86.5%で最も高く、次いで「(1)必要な介護サービスの利用を妨げたり、世話をしなかったりすること」が 74.9%、「(2)本人の同意なしに高齢者の財産やお金を使ったり、本人が自分のお金を使うことを制限したりすること」が 73.8%となっている。

「(3)認知症の高齢者が部屋から出られないように、外側からカギをかけること」では『そう思う』は 60.2%で他の項目と比べて低くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図11 高齢者の人権に関して問題があると思うこと



**(1)必要な介護サービスの利用を妨げたり、世話をしなかったりすること**

性別にみると、『そう思う』は男性 74.5%・女性 74.9%と、性別による違いはみられないが、『そう思わない』は男性 17.8%・女性 9.1%と、男性の方が 8.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』の割合は 30 歳代で 90.8%と高く、また 60 歳未満の年齢層ではいずれも 8 割を超えている。

**(2)本人の同意なしに高齢者の財産やお金を使ったり、本人が自分のお金を使うことを制限したりすること**

性別にみると、『そう思う』は男性 74.1%・女性 73.3%と、性別による違いはみられない。

年齢別にみると、『そう思う』の割合は 50 歳未満の年齢層で 8 割を超えている。

**(3)認知症の高齢者が部屋から出られないように、外側からカギをかけること**

性別にみると、『そう思う』は男性 59.3%・女性 61.2%と、女性がわずかに高く、『そう思わない』は男性 29.2%・女性 19.2%で男性の方が 10.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代では『そう思う』が 78.0%と他の年齢層と比べて高く、30～60 歳代では『そう思う』は 6 割台となっている。

**(4)高齢者をねらった振り込め詐欺や悪徳商法がおこっていること**

性別にみると、『そう思う』は男性 86.9%・女性 86.0%と、性別による違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、70 歳未満の年齢層ではいずれも『そう思う』が約 9 割を占め、また、70 歳以上でも『そう思う』は 76.3%と高くなっている。

**(5)年齢を理由とした就業の制限があること**

性別にみると、『そう思う』は男性 67.3%・女性 64.5%と、男性の方が 2.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40～60 歳代では『そう思う』が約 7 割となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

II 町民意識調査の結果

表10 高齢者の人権に関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) 必要な介護サービスの利用を妨げたり、世話をしなかつたりすること						(2) 本人の同意なしに高齢者の財産やお金を使ったり、本人が自分のお金を使うことを制限したりすること							
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えはそう	そう思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えはそう	そう思わない
全体	550	46.0	28.9	7.6	5.3	8.2	4.0	47.3	26.5	9.5	4.9	8.5	3.3		
性別	男性	236	43.6	30.9	11.4	6.4	5.1	2.5	46.6	27.5	11.0	5.1	7.2	2.5	
	女性	307	47.9	27.0	4.9	4.2	10.7	5.2	47.6	25.7	8.5	4.6	9.8	3.9	
	任意記入者	3	33.3	66.7	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	
年齢別	10・20 歳代	41	48.8	36.6	4.9	4.9	4.9	-	56.1	26.8	12.2	2.4	2.4	-	
	30 歳代	65	66.2	24.6	3.1	-	6.2	-	61.5	27.7	9.2	-	1.5	-	
	40 歳代	89	58.4	28.1	6.7	3.4	3.4	-	55.1	30.3	4.5	3.4	6.7	-	
	50 歳代	103	45.6	36.9	8.7	2.9	4.9	1.0	46.6	33.0	8.7	3.9	6.8	1.0	
	60 歳代	93	40.9	30.1	10.8	3.2	9.7	5.4	41.9	30.1	11.8	2.2	10.8	3.2	
	70 歳以上	156	33.3	23.1	8.3	10.9	14.1	10.3	38.5	17.3	10.9	10.3	14.1	9.0	

	回答者数(n)	(3) 認知症の高齢者が部屋から出られないように、外側からカギをかけること						(4) 高齢者をねらった振り込め詐欺や悪徳商法がおこっていること							
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えはそう	そう思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えはそう	そう思わない
全体	550	32.0	28.2	15.3	8.5	11.6	4.4	66.9	19.6	3.6	2.4	4.9	2.5		
性別	男性	236	34.3	25.0	18.2	11.0	7.6	3.8	66.1	20.8	4.2	4.2	2.1		
	女性	307	30.6	30.6	13.0	6.2	14.7	4.9	67.4	18.6	3.3	1.0	6.8	2.9	
	任意記入者	3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	66.7	33.3	-	-	-		
年齢別	10・20 歳代	41	39.0	39.0	7.3	7.3	4.9	2.4	73.2	14.6	4.9	2.4	4.9	-	
	30 歳代	65	32.3	33.8	15.4	10.8	7.7	-	73.8	15.4	6.2	1.5	3.1	-	
	40 歳代	89	36.0	24.7	21.3	6.7	10.1	1.1	75.3	15.7	1.1	2.2	5.6	-	
	50 歳代	103	28.2	33.0	19.4	6.8	11.7	1.0	67.0	24.3	3.9	1.9	2.9	-	
	60 歳代	93	31.2	29.0	17.2	7.5	10.8	4.3	67.7	23.7	4.3	1.1	1.1	2.2	
	70 歳以上	156	30.8	21.2	10.3	10.3	16.7	10.9	57.1	19.2	3.2	3.8	9.0	7.7	

	回答者数(n)	(5) 年齢を理由とした就業の制限があること						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えはそう	そう思わない	わからない
全体	550	31.3	34.5	16.2	8.2	6.4	3.5	
性別	男性	236	30.9	36.4	16.5	10.6	3.0	2.5
	女性	307	31.6	32.9	16.0	6.5	8.8	4.2
	任意記入者	3	-	66.7	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	29.3	34.1	22.0	7.3	7.3	-
	30 歳代	65	33.8	27.7	27.7	6.2	4.6	-
	40 歳代	89	33.7	33.7	20.2	7.9	4.5	-
	50 歳代	103	29.1	38.8	15.5	8.7	6.8	1.0
	60 歳代	93	28.0	44.1	12.9	8.6	3.2	3.2
	70 歳以上	156	32.1	30.1	10.3	9.0	9.0	9.6

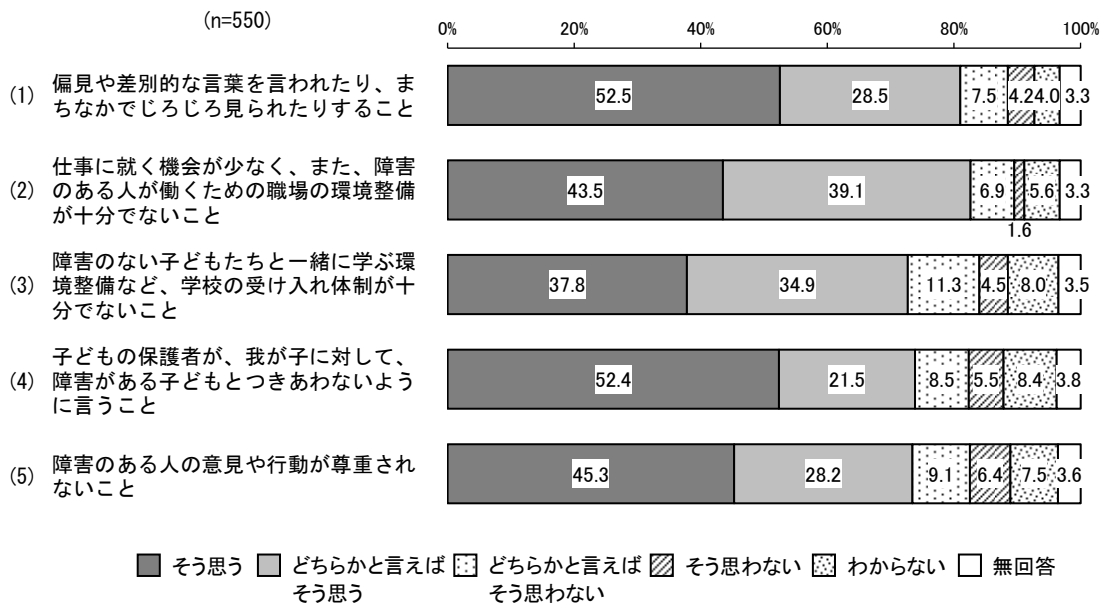
障害者の人権

障害者の人権で人権上問題があると思うことについて、いずれの項目も『そう思う』が 7 割を超えており、特に「(2)仕事に就く機会が少なく、また、障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でないこと」が 82.6%で最も高く、次いで「(1)偏見や差別的な言葉を言われたり、まちなかでじろじろ見られたりすること」が 81.0%となっている。

上記 2 項目に比べて他の 3 項目は 10 ポイント程度『そう思う』の回答が低くなっているが、「(4)子どもの保護者が、我が子に対して、障害がある子どもとつきあわないように言うこと」については、「そう思う」が 52.4%で、明確に人権上問題と捉えている割合は高い。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図12 障害者の人権に関して問題があると思うこと



## II 町民意識調査の結果

### (1) 偏見や差別的な言葉を言われたり、まちなかでじろじろ見られたりすること

性別にみると、『そう思う』は男性 81.4%・女性 80.7%と、性別による大きな違いはみられないが、『そう思わない』は男性 15.6%・女性 8.5%と、男性の方が 7.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50 歳代で『そう思う』が 95.2%と高く、また 50 歳未満でも『そう思う』が約 9 割を占めている。

### (2) 仕事に就く機会が少なく、また、障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でないこと

性別にみると、『そう思う』は男性 86.9%・女性 79.5%と、男性の方が 7.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』が 10・20 歳代と 50 歳代で 9 割台、30 歳代、40 歳代、60 歳代で 8 割台、70 歳以上で 7 割台となっている。

### (3) 障害のない子どもたちと一緒に学ぶ環境整備など、学校の受け入れ体制が十分でないこと

性別にみると、『そう思う』は男性 73.3%・女性 72.0%と、性別による大きな違いはみられない。

年齢別にみると、10・20 歳代、40 歳代、50 歳代で『そう思う』が 8 割を超えている。

### (4) 子どもの保護者が、我が子に対して、障害がある子どもとつきあわないように言うこと

性別にみると、『そう思う』は男性 73.3%・女性 73.6%と、性別による大きな違いはみられない。

年齢別にみると、『そう思う』が 10・20 歳代と 30 歳代で約 9 割と高くなっている。

### (5) 障害のある人の意見や行動が尊重されないこと

性別にみると、『そう思う』は男女ともに 73.3%となっているが、『そう思わない』は男性 18.6%・女性 13.1%と、男性の方が 5.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』が 10・20 歳代と 30 歳代で約 9 割と高くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

表11 障害者の人権に関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) 偏見や差別的な言葉を言われたり、まちなかでじろろ見られたりする事						(2) 仕事に就く機会が少なく、また、障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でないこと						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	52.5	28.5	7.5	4.2	4.0	3.3	43.5	39.1	6.9	1.6	5.6	3.3	
性別	男性	236	50.0	31.4	9.7	5.9	1.3	1.7	41.1	45.8	6.4	2.5	2.5	1.7
	女性	307	55.0	25.7	5.9	2.6	6.2	4.6	45.6	33.9	6.8	1.0	8.1	4.6
	任意記入者	3	33.3	66.7	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	65.9	22.0	9.8	-	2.4	-	53.7	36.6	7.3	-	2.4	-
	30 歳代	65	63.1	29.2	6.2	-	1.5	-	43.1	43.1	9.2	1.5	3.1	-
	40 歳代	89	69.7	20.2	4.5	4.5	1.1	-	51.7	37.1	4.5	2.2	4.5	-
	50 歳代	103	57.3	37.9	2.9	-	1.9	-	56.3	35.0	3.9	1.0	2.9	1.0
	60 歳代	93	49.5	25.8	9.7	6.5	3.2	5.4	37.6	43.0	10.8	2.2	3.2	3.2
	70 歳以上	156	34.6	29.5	10.9	7.7	9.0	8.3	31.4	39.7	6.4	1.9	11.5	9.0

	回答者数(n)	(3) 障害のない子どもたちと一緒に学ぶ環境整備など、学校の受け入れ体制が十分でないこと						(4) 子どもの保護者が、我が子に対して、障害がある子どもとつきあわないように言うこと						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	37.8	34.9	11.3	4.5	8.0	3.5	52.4	21.5	8.5	5.5	8.4	3.8	
性別	男性	236	35.6	37.7	11.4	4.7	8.1	2.5	49.6	23.7	11.4	5.5	6.4	3.4
	女性	307	39.1	32.9	11.1	4.6	8.1	4.2	54.1	19.5	6.5	5.5	10.1	4.2
	任意記入者	3	66.7	-	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	48.8	36.6	14.6	-	-	-	58.5	31.7	2.4	2.4	4.9	-
	30 歳代	65	36.9	41.5	13.8	4.6	3.1	-	61.5	26.2	3.1	4.6	4.6	-
	40 歳代	89	42.7	38.2	10.1	4.5	4.5	-	67.4	16.9	7.9	3.4	4.5	-
	50 歳代	103	47.6	34.0	6.8	2.9	7.8	1.0	63.1	21.4	8.7	-	6.8	-
	60 歳代	93	38.7	29.0	16.1	4.3	7.5	4.3	47.3	19.4	12.9	5.4	10.8	4.3
	70 歳以上	156	25.0	34.0	10.3	7.1	14.7	9.0	34.0	20.5	10.3	11.5	12.8	10.9

	回答者数(n)	(5) 障害のある人の意見や行動が尊重されないこと						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	45.3	28.2	9.1	6.4	7.5	3.6	
性別	男性	236	44.9	28.4	13.1	5.5	5.5	2.5
	女性	307	45.3	28.0	5.9	7.2	9.1	4.6
	任意記入者	3	66.7	-	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	56.1	34.1	2.4	7.3	-	-
	30 歳代	65	53.8	33.8	6.2	3.1	3.1	-
	40 歳代	89	51.7	30.3	9.0	4.5	3.4	1.1
	50 歳代	103	55.3	26.2	6.8	2.9	8.7	-
	60 歳代	93	44.1	26.9	10.8	6.5	7.5	4.3
	70 歳以上	156	29.5	24.4	12.8	10.9	12.8	9.6

## II 町民意識調査の結果

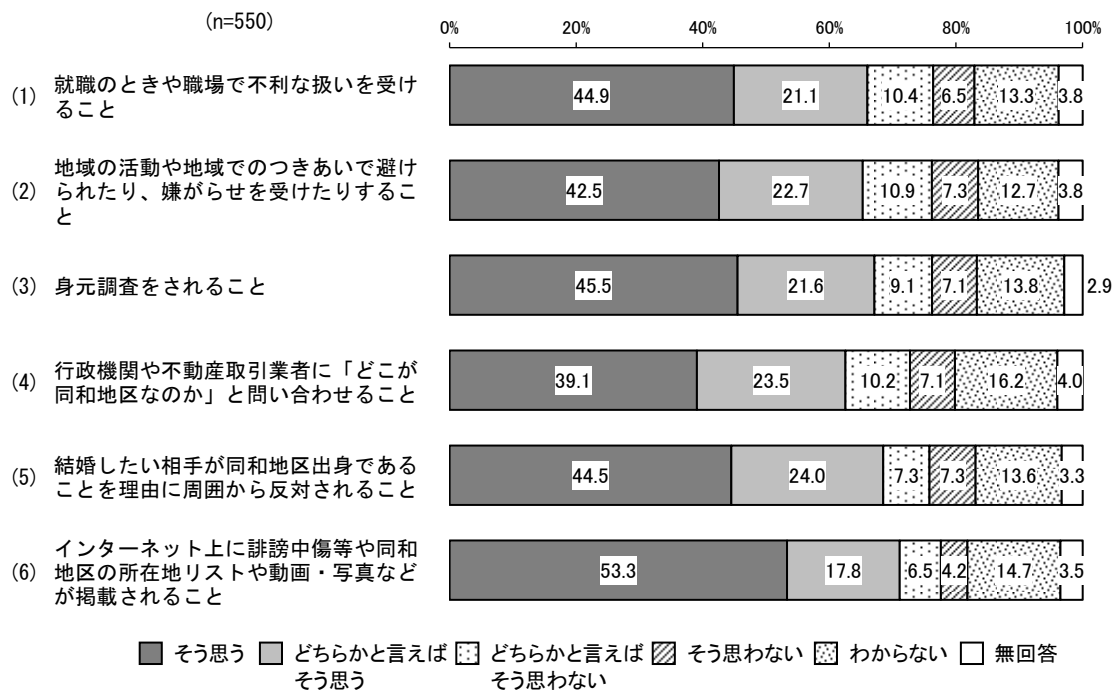
### 部落差別(同和問題)

部落差別(同和問題)で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(6)インターネット上に誹謗中傷等や同和地区の所在地リストや動画・写真などが掲載されること」が71.1%で最も高く、次いで「(5)結婚したい相手が同和地区出身であることを理由に周囲から反対されること」が68.5%、「(3)身元調査をされること」が67.1%となっている。

女性、子ども、高齢者、障害者の人権に関する設問では、『そう思う』の回答が8割を超える項目があるのに比べると、総じて認識が低い傾向がみられる。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図13 部落差別(同和問題)に関して問題があると思うこと





(1)就職のときや職場で不利な扱いを受けること

性別にみると、女性は「わからない」の割合(16.3%)が男性(9.7%)よりも高くなっている。  
年齢別にみると、30歳代と40歳代で『そう思う』が約8割となっている。

(2)地域の活動や地域でのつきあいで避けられたり、嫌がらせを受けたりすること

性別にみると、『そう思わない』が男性22.9%・女性14.7%と、男性の方が8.2ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、60歳未満の年齢層ではいずれも『そう思う』が約8割を占めている。

(3)身元調査をされること

性別にみると、『そう思わない』が男性18.6%・女性14.4%と、男性の方が4.2ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が10・20歳代と30歳代で8割台、40歳代と50歳代で7割台となっている。

(4)行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問い合わせること

性別にみると、『そう思わない』が男性20.3%・女性14.9%と、男性の方が5.4ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が10・20歳代と50歳代で7割台、30歳代と40歳代で6割台となっている。

(5)結婚したい相手が同和地区出身であることを理由に周囲から反対されること

性別にみると、『そう思う』が男性70.0%・女性67.1%と、男性の方が2.9ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が10・20歳代と30歳代で約8割、40～60歳代で約7割となっている。

(6)インターネット上に誹謗中傷等や同和地区の所在地リストや動画・写真などが掲載されること

性別にみると、『そう思う』が男性74.5%・女性68.1%と、男性の方が6.4ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が60歳未満の年齢層ではいずれも約8割、60歳代では7割台となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

II 町民意識調査の結果

表12 部落差別(同和問題)に関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) 就職のときや職場で不利な扱いを受けること						(2) 地域の活動や地域でのつきあいで避けられたり、嫌がらせを受けたりすること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	44.9	21.1	10.4	6.5	13.3	3.8	42.5	22.7	10.9	7.3	12.7	3.8	
性別	男性	236	44.5	23.3	9.7	10.2	9.7	2.5	42.4	23.3	13.6	9.3	8.9	2.5
	女性	307	45.0	19.2	10.7	3.9	16.3	4.9	42.7	21.8	8.8	5.9	16.0	4.9
	任意記入者	3	66.7	33.3	-	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	53.7	22.0	12.2	-	12.2	-	48.8	34.1	4.9	4.9	7.3	-
	30 歳代	65	56.9	23.1	9.2	3.1	7.7	-	61.5	20.0	7.7	3.1	7.7	-
	40 歳代	89	64.0	14.6	4.5	5.6	11.2	-	60.7	19.1	4.5	5.6	10.1	-
	50 歳代	103	48.5	26.2	9.7	3.9	10.7	1.0	49.5	28.2	7.8	2.9	10.7	1.0
	60 歳代	93	41.9	19.4	9.7	8.6	17.2	3.2	32.3	21.5	16.1	7.5	19.4	3.2
	70 歳以上	156	26.3	21.2	14.1	10.9	16.7	10.9	25.0	19.2	16.0	13.5	15.4	10.9

	回答者数(n)	(3) 身元調査をされること						(4) 行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問い合わせること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	45.5	21.6	9.1	7.1	13.8	2.9	39.1	23.5	10.2	7.1	16.2	4.0	
性別	男性	236	46.6	19.9	9.7	8.9	12.3	2.5	39.4	22.9	12.7	7.6	14.4	3.0
	女性	307	44.6	22.5	8.5	5.9	15.3	3.3	38.4	23.8	8.1	6.8	17.9	4.9
	任意記入者	3	66.7	33.3	-	-	-	-	66.7	-	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	51.2	29.3	4.9	4.9	9.8	-	53.7	19.5	4.9	7.3	14.6	-
	30 歳代	65	61.5	23.1	4.6	6.2	4.6	-	41.5	26.2	12.3	10.8	9.2	-
	40 歳代	89	57.3	18.0	9.0	4.5	11.2	-	43.8	25.8	10.1	5.6	14.6	-
	50 歳代	103	51.5	23.3	6.8	3.9	13.6	1.0	47.6	26.2	10.7	3.9	10.7	1.0
	60 歳代	93	35.5	28.0	12.9	8.6	11.8	3.2	36.6	22.6	16.1	5.4	16.1	3.2
	70 歳以上	156	33.3	15.4	10.9	10.9	21.8	7.7	26.9	20.5	7.1	9.6	24.4	11.5

	回答者数(n)	(5) 結婚したい相手が同和地区出身であることを理由に周囲から反対されること						(6) インターネット上に誹謗中傷等や同和地区の所在地リストや動画・写真などが掲載されること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	44.5	24.0	7.3	7.3	13.6	3.3	53.3	17.8	6.5	4.2	14.7	3.5	
性別	男性	236	45.8	24.2	8.9	6.8	12.3	2.1	54.2	20.3	6.8	5.5	11.0	2.1
	女性	307	43.0	24.1	5.9	7.8	15.0	4.2	51.8	16.3	6.2	3.3	17.9	4.6
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	66.7	-	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	56.1	22.0	-	7.3	14.6	-	61.0	17.1	4.9	2.4	14.6	-
	30 歳代	65	50.8	30.8	7.7	4.6	6.2	-	60.0	23.1	6.2	3.1	7.7	-
	40 歳代	89	56.2	15.7	7.9	7.9	12.4	-	68.5	14.6	4.5	3.4	9.0	-
	50 歳代	103	47.6	25.2	9.7	4.9	11.7	1.0	61.2	19.4	4.9	3.9	10.7	-
	60 歳代	93	41.9	29.0	7.5	4.3	14.0	3.2	52.7	21.5	7.5	2.2	14.0	2.2
	70 歳以上	156	30.8	23.1	7.1	11.5	18.6	9.0	34.0	14.7	9.0	7.1	24.4	10.9

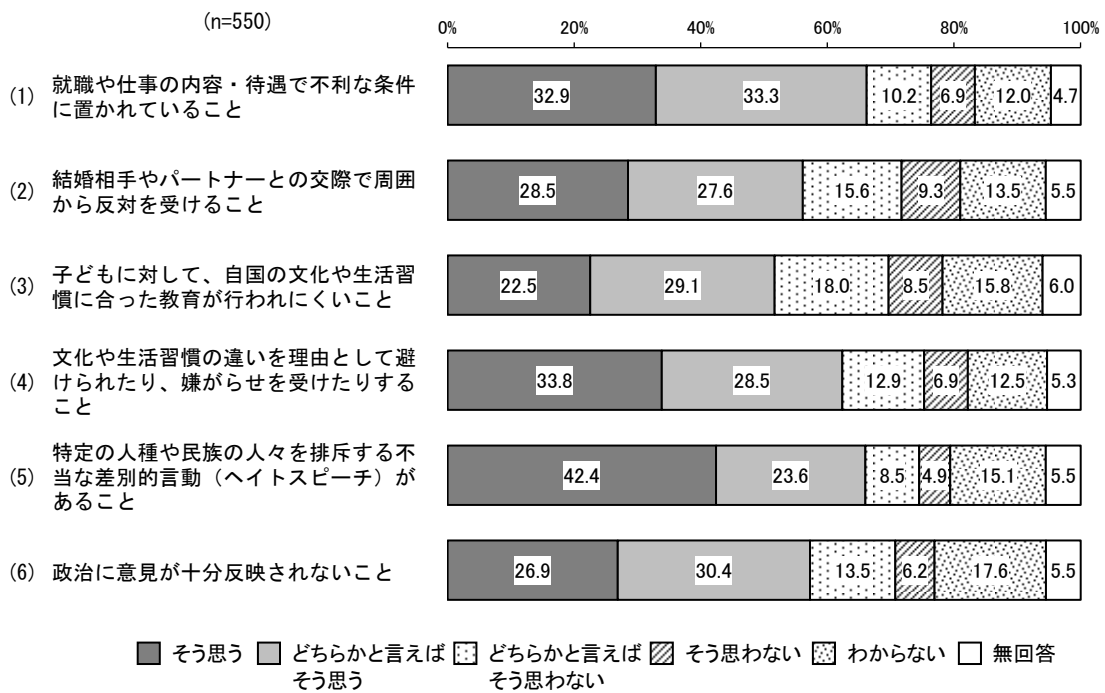
外国人の人権

外国人の人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(1)就職や仕事の内容・待遇で不利な条件に置かれていること」が 66.2%で最も高く、次いで「(5)特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)があること」が 66.0%、「(4)文化や生活習慣の違いを理由として避けられたり、嫌がらせを受けたりすること」が 62.3%となっている。

『そう思う』の回答が 5 割台にとどまる項目が複数あり、他の人権問題に比べると総じて認識が低い傾向がみられる。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図14 外国人の人権に関して問題があると思うこと



## II 町民意識調査の結果

### (1)就職や仕事の内容・待遇で不利な条件に置かれていること

性別にみると、『そう思う』は男性 61.4%・女性 70.1%と、女性の方が 8.7 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、60 歳未満の年齢層ではいずれも『そう思う』が 7 割台となっている。

### (2)結婚相手やパートナーとの交際で周囲から反対を受けること

性別にみると、『そう思う』は男性 51.7%・女性 59.3%と、女性の方が 7.6 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』は 10・20 歳代で 73.2%と他の年齢層よりも高く、また 30～60 歳代で 6 割台となっている。

### (3)子どもに対して、自国の文化や生活習慣に合った教育が行われにくいこと

性別にみると、『そう思う』は男性 49.2%・女性 53.7%と、女性の方が 4.5 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、30 歳代では『そう思う』が 66.2%と高くなっている。

### (4)文化や生活習慣の違いを理由として避けられたり、嫌がらせを受けたりすること

性別にみると、『そう思う』は男性 59.3%・女性 64.5%と、女性の方が 5.2 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30 歳代で 80.0%、10・20 歳代、40 歳代、50 歳代でも 7 割以上と高くなっている。

### (5)特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)があること

性別にみると、『そう思う』は男性 69.4%・女性 63.1%と、男性の方が 6.3 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30 歳代と 50 歳代で 8 割台、10・20 歳代と 40 歳代で 7 割台と高くなっている。

### (6)政治に意見が十分反映されないこと

性別にみると、『そう思う』は男性 52.6%・女性 60.5%と、女性の方が 7.9 ポイント高く、『そう思わない』は男性 27.9%・女性 13.0%で、男性の方が 14.9 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、30 歳代で『そう思う』が 72.3%と高くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

表13 外国人の人権に関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) 就職や仕事の内容・待遇で不利な条件に置かれていること						(2) 結婚相手やパートナーとの交際で周囲から反対を受けること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	32.9	33.3	10.2	6.9	12.0	4.7	28.5	27.6	15.6	9.3	13.5	5.5	
性別	男性	236	28.8	32.6	13.1	9.7	11.0	4.7	26.3	25.4	20.3	11.4	11.4	5.1
	女性	307	36.2	33.9	7.8	4.9	12.4	4.9	30.3	29.0	12.1	7.5	15.3	5.9
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	56.1	19.5	12.2	4.9	7.3	-	48.8	24.4	7.3	9.8	9.8	-
	30 歳代	65	40.0	35.4	9.2	6.2	6.2	3.1	29.2	38.5	12.3	10.8	6.2	3.1
	40 歳代	89	42.7	34.8	10.1	6.7	5.6	-	42.7	18.0	22.5	7.9	9.0	-
	50 歳代	103	40.8	38.8	9.7	3.9	6.8	-	30.1	35.9	15.5	6.8	9.7	1.9
	60 歳代	93	26.9	35.5	11.8	7.5	11.8	6.5	23.7	30.1	18.3	7.5	14.0	6.5
	70 歳以上	156	16.7	30.1	9.6	9.6	22.4	11.5	16.7	22.4	14.1	11.5	22.4	12.8

	回答者数(n)	(3) 子どもに対して、自国の文化や生活習慣に合った教育が行われにくいこと						(4) 文化や生活習慣の違いを理由として避けられたり、嫌がらせを受けたりすること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	22.5	29.1	18.0	8.5	15.8	6.0	33.8	28.5	12.9	6.9	12.5	5.3	
性別	男性	236	19.1	30.1	18.6	12.7	14.4	5.1	30.5	28.8	16.5	9.7	9.7	4.7
	女性	307	25.7	28.0	17.6	5.5	16.3	6.8	36.2	28.3	10.1	4.9	14.7	5.9
	任意記入者	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	33.3	66.7	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	39.0	14.6	24.4	12.2	9.8	-	51.2	22.0	12.2	7.3	7.3	-
	30 歳代	65	27.7	38.5	13.8	7.7	7.7	4.6	43.1	36.9	7.7	3.1	6.2	3.1
	40 歳代	89	31.5	24.7	23.6	3.4	16.9	-	50.6	22.5	10.1	5.6	11.2	-
	50 歳代	103	26.2	34.0	19.4	10.7	8.7	1.0	36.9	38.8	8.7	7.8	7.8	-
	60 歳代	93	18.3	30.1	17.2	8.6	19.4	6.5	31.2	24.7	19.4	6.5	11.8	6.5
	70 歳以上	156	11.5	26.9	14.7	9.6	22.4	14.7	15.4	26.3	15.4	9.0	20.5	13.5

	回答者数(n)	(5) 特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)があること						(6) 政治に意見が十分反映されないこと						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	42.4	23.6	8.5	4.9	15.1	5.5	26.9	30.4	13.5	6.2	17.6	5.5	
性別	男性	236	41.9	27.5	6.8	6.8	12.7	4.2	22.9	29.7	16.5	11.4	14.8	4.7
	女性	307	42.3	20.8	9.4	3.6	17.3	6.5	29.6	30.9	10.7	2.3	20.2	6.2
	任意記入者	3	66.7	-	33.3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	48.8	24.4	7.3	7.3	12.2	-	36.6	26.8	12.2	4.9	19.5	-
	30 歳代	65	53.8	27.7	4.6	3.1	7.7	3.1	40.0	32.3	13.8	6.2	4.6	3.1
	40 歳代	89	58.4	18.0	10.1	3.4	9.0	1.1	40.4	20.2	16.9	10.1	12.4	-
	50 歳代	103	49.5	31.1	6.8	3.9	8.7	-	27.2	35.0	16.5	6.8	13.6	1.0
	60 歳代	93	36.6	24.7	8.6	5.4	19.4	5.4	18.3	35.5	12.9	5.4	21.5	6.5
	70 歳以上	156	25.6	19.2	10.3	6.4	24.4	14.1	15.4	30.1	10.3	4.5	26.3	13.5

## II 町民意識調査の結果

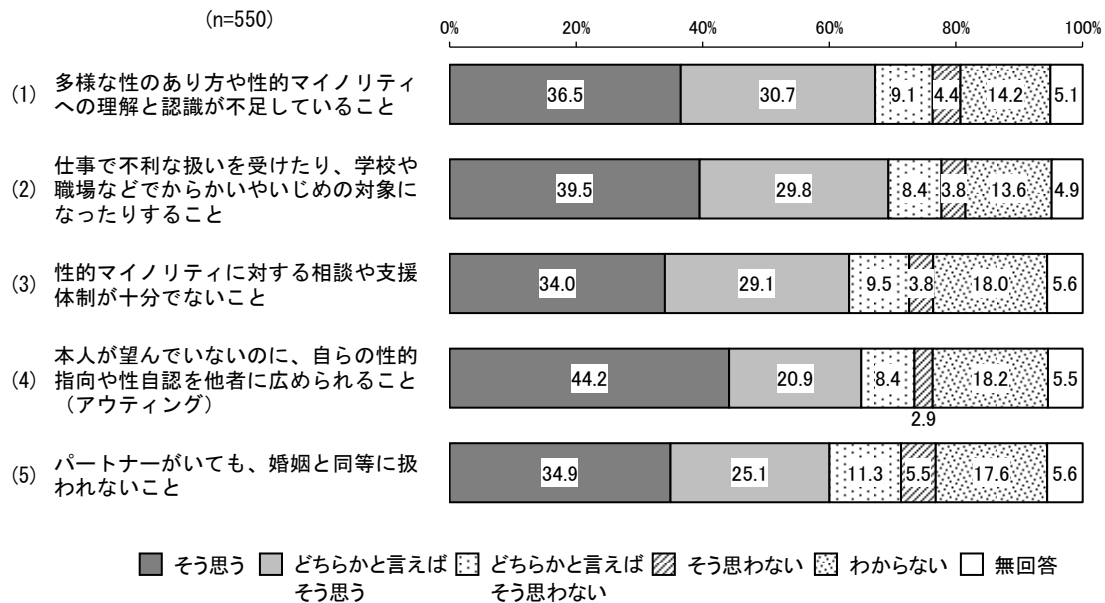
### 性的マイノリティの人権

性的マイノリティの人権で人権上問題があると思うことについては、『そう思う』は「(2)仕事で不利な扱いを受けたり、学校や職場などでからかいやいじめの対象になったりすること」が 69.3%で最も高く、次いで「(1)多様な性のあり方や性的マイノリティへの理解と認識が不足していること」が 67.2%となっている。

すべての項目で『そう思う』は 6 割台であり、外国人の人権に次いで認識が低い傾向がみられる。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図15 性的マイノリティの人権に関して問題があると思うこと



**(1)多様な性のあり方や性的マイノリティへの理解と認識が不足していること**

性別にみると、『そう思う』は男性 62.3%・女性 70.6%と、女性の方が 8.3 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 30～50 歳代で約 8 割となっている。

**(2)仕事で不利な扱いを受けたり、学校や職場などでからかひやいじめの対象になったりすること**

性別にみると、『そう思う』は男性 67.4%・女性 70.3%で女性の方が 2.9 ポイント高く、『そう思わない』は男性 15.7%・女性 9.4%と、男性の方が 6.3 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 50 歳未満の年齢層ではいずれも 8 割以上、50 歳代でも 8 割弱と高くなっている。

**(3)性的マイノリティに対する相談や支援体制が十分でないこと**

性別にみると、『そう思う』は男性 61.4%・女性 64.5%と、女性の方が 3.1 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、10・20 歳代で『そう思う』が 82.9%と高くなっている。

**(4)本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められること(アウティング)**

性別にみると、『そう思う』(男性 64.8%・女性 65.4%)は性別による違いがみられないが、『そう思わない』は男性 13.9%・女性 9.2%と、男性の方が 4.7 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 10・20 歳代と 30 歳代で 8 割台、40 歳代と 50 歳代で 8 割弱となっている。

**(5)パートナーがいても、婚姻と同等に扱われないこと**

性別にみると、『そう思う』は男性 57.6%・女性 61.9%で女性の方が 4.3 ポイント高く、『そう思わない』は男性 22.0%・女性 12.4%と、男性の方が 9.6 ポイント高くなっている。  
年齢別にみると、『そう思う』が 10・20 歳代と 30 歳代で約 8 割と高くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

II 町民意識調査の結果

表14 性的マイノリティの人権に関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) 多様な性のあり方や性的マイノリティへの理解と認識が不足していること						(2) 仕事で不利な扱いを受けたり、学校や職場などでからかいやいじめの対象になったりすること						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう思う	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう思う	無回答	
全体	550	36.5	30.7	9.1	4.4	14.2	5.1	39.5	29.8	8.4	3.8	13.6	4.9	
性別	男性	236	33.5	28.8	10.6	8.1	14.4	4.7	35.2	32.2	10.6	5.1	12.3	4.7
	女性	307	38.4	32.2	7.8	1.6	14.3	5.5	42.3	28.0	6.5	2.9	15.0	5.2
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	51.2	24.4	12.2	2.4	9.8	-	58.5	26.8	7.3	2.4	4.9	-
	30 歳代	65	46.2	30.8	7.7	4.6	7.7	3.1	55.4	30.8	6.2	3.1	1.5	3.1
	40 歳代	89	52.8	30.3	5.6	5.6	5.6	-	60.7	21.3	7.9	2.2	7.9	-
	50 歳代	103	43.7	35.0	10.7	2.9	6.8	1.0	43.7	34.0	6.8	2.9	12.6	-
	60 歳代	93	26.9	34.4	11.8	6.5	14.0	6.5	31.2	30.1	12.9	4.3	16.1	5.4
	70 歳以上	156	19.9	27.6	8.3	3.8	28.2	12.2	17.3	32.7	7.7	5.8	23.7	12.8

	回答者数(n)	(3) 性的マイノリティに対する相談や支援体制が十分でないこと						(4) 本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められること(アウトティング)						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう思う	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう思う	無回答	
全体	550	34.0	29.1	9.5	3.8	18.0	5.6	44.2	20.9	8.4	2.9	18.2	5.5	
性別	男性	236	32.2	29.2	10.2	5.9	17.8	4.7	41.9	22.9	9.7	4.2	16.5	4.7
	女性	307	35.8	28.7	8.8	2.3	18.2	6.2	45.9	19.5	7.2	2.0	19.5	5.9
	任意記入者	3	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	-	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	51.2	31.7	4.9	2.4	9.8	-	63.4	19.5	7.3	-	9.8	-
	30 歳代	65	41.5	32.3	12.3	6.2	4.6	3.1	56.9	29.2	3.1	3.1	4.6	3.1
	40 歳代	89	49.4	25.8	9.0	5.6	10.1	-	67.4	12.4	7.9	5.6	6.7	-
	50 歳代	103	35.9	35.0	11.7	2.9	13.6	1.0	53.4	24.3	6.8	2.9	12.6	-
	60 歳代	93	29.0	33.3	11.8	3.2	16.1	6.5	31.2	25.8	10.8	3.2	22.6	6.5
	70 歳以上	156	19.9	22.4	7.1	3.2	34.0	13.5	23.1	17.3	10.9	1.9	33.3	13.5

	回答者数(n)	(5) パートナーがいても、婚姻と同等に扱われないこと						
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう思う	無回答	
全体	550	34.9	25.1	11.3	5.5	17.6	5.6	
性別	男性	236	30.5	27.1	14.4	7.6	15.7	4.7
	女性	307	38.4	23.5	8.5	3.9	19.5	6.2
	任意記入者	3	33.3	-	66.7	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	58.5	24.4	7.3	2.4	7.3	-
	30 歳代	65	50.8	27.7	7.7	6.2	4.6	3.1
	40 歳代	89	48.3	23.6	11.2	6.7	10.1	-
	50 歳代	103	41.7	28.2	15.5	3.9	10.7	-
	60 歳代	93	22.6	23.7	16.1	8.6	22.6	6.5
	70 歳以上	156	17.3	23.7	8.3	4.5	32.1	14.1



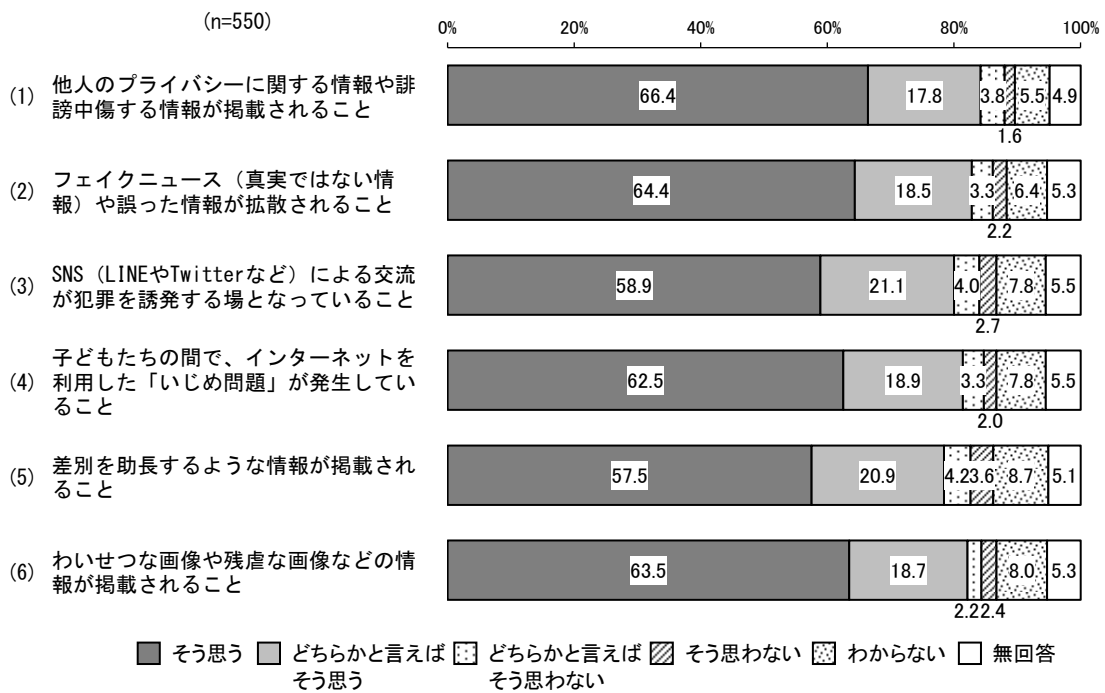
### インターネットにおける人権侵害

インターネットに関して人権上問題があると思うことについて、いずれの項目も『そう思う』が8割前後であり、特に「(1)他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること」が84.2%で最も高く、次いで「(2)フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散されること」が82.9%となっている。

すべての項目で『そう思う』は8割前後と高く、インターネット上で様々な人権侵害が起こっているという認識は高い傾向がみられる。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図16 インターネットに関して問題があると思うこと



## II 町民意識調査の結果

### (1)他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること

性別にみると、『そう思う』(男性 85.6%・女性 83.8%)、『そう思わない』(男性 6.3%・女性 4.6%)ともに男性の方がわずかに高くなっている。

年齢別にみると、60歳未満の年齢層ではいずれも『そう思う』が9割を超えており、特に30歳代と50歳代では『そう思う』が95%以上となっている。

### (2)フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散されること

性別にみると、『そう思う』(男性 85.2%・女性 81.4%)、『そう思わない』(男性 6.8%・女性 4.3%)ともに男性の方がわずかに高くなっている。

年齢別にみると、50歳代では『そう思う』が94.2%と高く、50歳未満の年齢層でも『そう思う』が約9割となっている。

### (3)SNS(LINE や Twitter など)による交流が犯罪を誘発する場となっていること

性別にみると、『そう思う』(男性 80.5%・女性 80.1%)は性別による違いがみられないが、『そう思わない』は男性 8.9%・女性 4.9%と、男性の方が4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30～50歳代の各年齢層では『そう思う』が9割弱となっている。

### (4)子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること

性別にみると、『そう思う』(男性 82.6%・女性 80.5%)は2.1ポイント、『そう思わない』(男性 8.1%・女性 3.3%)は4.8ポイント、男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別にみると、40歳代では『そう思う』が94.4%と高く、10・20歳代、30歳代、50歳代でも『そう思う』は約9割と高くなっている。

### (5)差別を助長するような情報が掲載されること

性別にみると、『そう思う』(男性 79.7%・女性 77.5%)は2.2ポイント、『そう思わない』(男性 8.9%・女性 6.8%)は2.1ポイント、男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別にみると、50歳未満の各年齢層ではいずれも『そう思う』が約9割と高くなっている。

### (6)わいせつな画像や残虐な画像などの情報が掲載されること

性別にみると、『そう思う』(男性 83.5%・女性 81.1%)は2.4ポイント、『そう思わない』(男性 5.9%・女性 3.6%)は2.3ポイント、男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別にみると、40歳代では『そう思う』が94.4%と高く、10・20歳代、30歳代、50歳代でも『そう思う』は約9割と高くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

表15 インターネットに関して問題があると思うこと

	回答者数(n)	(1) 他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること						(2) フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散されること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	66.4	17.8	3.8	1.6	5.5	4.9	64.4	18.5	3.3	2.2	6.4	5.3	
性別	男性	236	64.8	20.8	4.2	2.1	3.4	4.7	64.4	20.8	3.0	3.8	3.8	4.2
	女性	307	67.8	16.0	3.3	1.3	6.8	4.9	64.5	16.9	3.3	1.0	8.5	5.9
	任意記入者	3	66.7	-	33.3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
年齢別	10・20歳代	41	78.0	14.6	7.3	-	-	-	70.7	17.1	9.8	-	2.4	-
	30歳代	65	80.0	15.4	-	1.5	-	3.1	73.8	16.9	3.1	3.1	-	3.1
	40歳代	89	83.1	9.0	5.6	2.2	-	-	79.8	12.4	3.4	4.5	-	-
	50歳代	103	74.8	20.4	1.9	1.0	1.9	-	74.8	19.4	1.0	1.9	2.9	-
	60歳代	93	64.5	17.2	3.2	2.2	6.5	6.5	61.3	20.4	4.3	2.2	6.5	5.4
	70歳以上	156	44.2	23.7	5.1	1.9	13.5	11.5	44.9	21.8	2.6	1.3	16.0	13.5

	回答者数(n)	(3) SNS(LINE や Twitter など)による交流が犯罪を誘発する場となっていること						(4) 子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	58.9	21.1	4.0	2.7	7.8	5.5	62.5	18.9	3.3	2.0	7.8	5.5	
性別	男性	236	57.2	23.3	5.1	3.8	5.9	4.7	60.6	22.0	5.1	3.0	4.7	4.7
	女性	307	60.6	19.5	2.9	2.0	9.1	5.9	64.2	16.3	2.0	1.3	10.4	5.9
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-
年齢別	10・20歳代	41	56.1	29.3	7.3	4.9	2.4	-	78.0	9.8	2.4	4.9	4.9	-
	30歳代	65	67.7	21.5	3.1	4.6	-	3.1	72.3	18.5	1.5	3.1	1.5	3.1
	40歳代	89	75.3	13.5	4.5	3.4	3.4	-	80.9	13.5	2.2	2.2	1.1	-
	50歳代	103	67.0	21.4	1.9	2.9	5.8	1.0	70.9	19.4	3.9	1.9	3.9	-
	60歳代	93	55.9	23.7	5.4	1.1	7.5	6.5	59.1	22.6	1.1	1.1	8.6	7.5
	70歳以上	156	42.9	21.8	3.8	1.9	16.7	12.8	41.0	21.8	5.8	1.3	17.3	12.8

	回答者数(n)	(5) 差別を助長するような情報が掲載されること						(6) わいせつな画像や残虐な画像などの情報が掲載されること						
		そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	そう思う	思う	言えばそう	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	無回答	
全体	550	57.5	20.9	4.2	3.6	8.7	5.1	63.5	18.7	2.2	2.4	8.0	5.3	
性別	男性	236	56.4	23.3	4.2	4.7	6.8	4.7	59.3	24.2	2.5	3.4	5.9	4.7
	女性	307	58.6	18.9	3.9	2.9	10.4	5.2	66.8	14.3	2.0	1.6	9.8	5.5
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-
年齢別	10・20歳代	41	68.3	22.0	-	7.3	2.4	-	75.6	14.6	7.3	2.4	-	-
	30歳代	65	70.8	18.5	1.5	3.1	3.1	3.1	73.8	16.9	-	3.1	3.1	3.1
	40歳代	89	78.7	13.5	4.5	1.1	2.2	-	84.3	10.1	2.2	2.2	1.1	-
	50歳代	103	65.0	21.4	2.9	4.9	4.9	1.0	70.9	20.4	-	3.9	4.9	-
	60歳代	93	52.7	22.6	3.2	3.2	11.8	6.5	57.0	22.6	1.1	1.1	11.8	6.5
	70歳以上	156	35.3	24.4	7.7	3.8	17.3	11.5	43.6	21.8	3.8	1.9	16.0	12.8

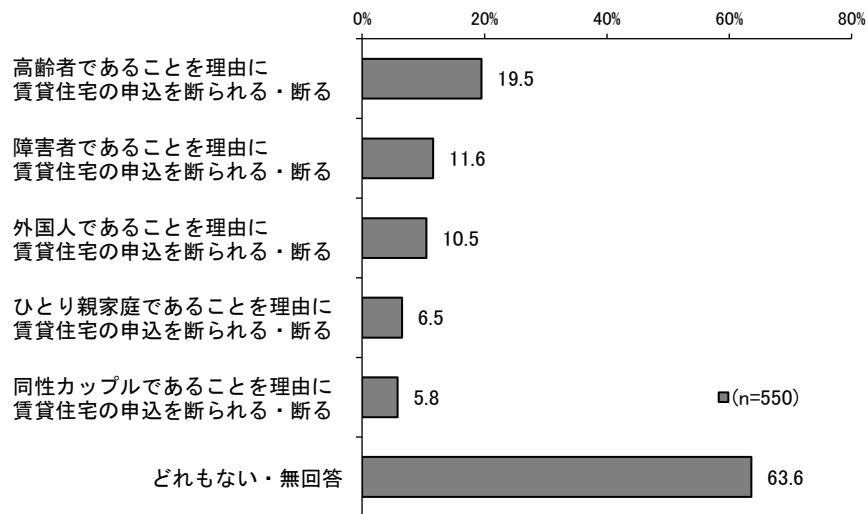
## 4 具体的な事象における人権意識の状況

### 1. 住まいに関して経験したり見聞きしたこと

問4 あなたは、住まいに関して次のようなことを自分自身が経験したり、見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)

住まいに関して経験したり見聞きしたことについて、「高齢者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」が19.5%で最も高く、次いで「障害者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」が11.6%、「外国人であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」が10.5%となっている。

図17 住まいに関して経験したり見聞きしたこと



性別にみると、「外国人であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」は男性 14.4%・女性 7.8%と男性の方が 6.6 ポイント高く、男性では「高齢者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」に次いで 2 番目に高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代は「障害者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」「ひとり親家庭であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」「同性カップルであることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」の割合が他の年齢層よりも高く、10・20 歳代と 40 歳代では「障害者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」の割合が最も高くなっている。

表 16 住まいに関して経験したり見聞きしたこと

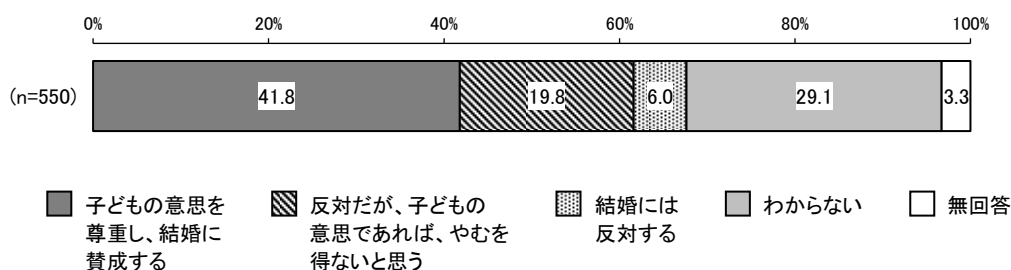
	回答者数(n)	高齢者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る	障害者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る	外国人であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る	ひとり親家庭であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る	同性カップルであることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る	どれも無い・無回答	
全体	550	19.5	11.6	10.5	6.5	5.8	63.6	
性別	男性	236	17.4	13.6	14.4	5.5	3.8	59.7
	女性	307	21.5	10.1	7.8	7.5	7.5	66.1
	任意記入者	3	-	33.3	-	-	-	66.7
年齢別	10・20 歳代	41	14.6	22.0	7.3	14.6	17.1	46.3
	30 歳代	65	20.0	7.7	16.9	6.2	9.2	58.5
	40 歳代	89	19.1	20.2	14.6	10.1	9.0	59.6
	50 歳代	103	21.4	9.7	15.5	4.9	1.9	58.3
	60 歳代	93	23.7	11.8	10.8	4.3	3.2	60.2
	70 歳以上	156	17.3	7.1	3.2	5.1	3.8	77.6

2. 子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応

問5 仮に、あなたに子どもがおり、あなたの子どもが、結婚しようとする相手が、被差別部落(同和地区)出身であるとわかったとき、あなたはどのようにしますか。(いずれか1つに○)

子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応について、「子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する」が 41.8%で最も高く、次いで「わからない」が 29.1%、「反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う」が 19.8%となっている。

図18 子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応



性別にみると、「子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する」は男性 50.0%・女性 35.5%と男性の方が 14.5 ポイント高く、女性では「反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う」(男性 17.4%・女性 22.1%)、「わからない」(男性 24.2%・女性 32.9%)の割合が男性よりも高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する」の割合が最も高く、特に 10・20 歳代と 50 歳代では 5 割弱となっている。30 歳代と 40 歳代では「わからない」が他の年齢層よりも高くなっている。

表17 子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応

	回答者数 (n)	子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する	反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う	結婚には反対する	わからない	無回答
全体	550	41.8	19.8	6.0	29.1	3.3
性別						
男性	236	50.0	17.4	5.9	24.2	2.5
女性	307	35.5	22.1	5.9	32.9	3.6
任意記入者	3	33.3	-	-	66.7	-
年齢別						
10・20 歳代	41	48.8	19.5	2.4	29.3	-
30 歳代	65	41.5	13.8	1.5	40.0	3.1
40 歳代	89	40.4	14.6	6.7	36.0	2.2
50 歳代	103	47.6	14.6	4.9	33.0	-
60 歳代	93	44.1	25.8	4.3	20.4	5.4
70 歳以上	156	35.9	25.6	9.6	23.7	5.1

人権意識スコア別にみると、高いグループでは「子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する」の回答割合が高い傾向で、低いグループでは「反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う」「結婚には反対する」が高い傾向がみられる。

表18 人権意識スコア別 子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応

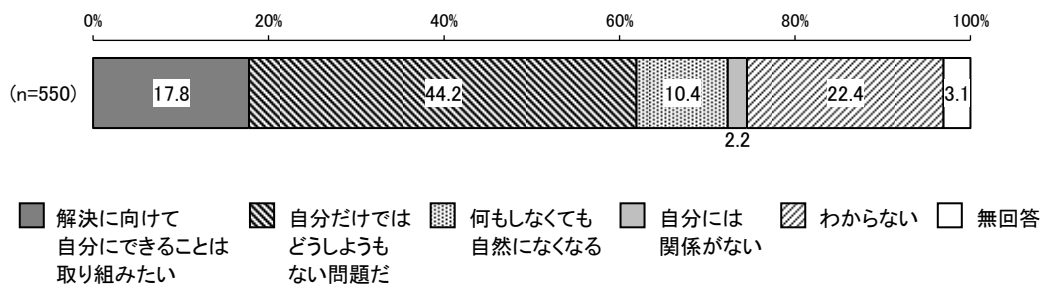
		回答者数(n)	子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する	反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う	結婚には反対する	わからない	無回答
全体		550	41.8	19.8	6.0	29.1	3.3
人権や差別についての考え方・態度スコア	高	169	62.7	12.4	1.2	22.5	1.2
	中	170	39.4	22.9	4.7	30.0	2.9
	低	172	25.6	25.0	12.8	32.6	4.1
人権問題別意識・関心スコア(女性)	高	188	46.8	16.5	3.7	32.4	0.5
	中	154	44.8	20.1	7.1	24.0	3.9
	低	177	34.5	22.0	7.9	31.6	4.0
人権問題別意識・関心スコア(子ども)	高	174	46.6	16.1	3.4	33.3	0.6
	中	171	40.9	20.5	7.0	27.5	4.1
	低	183	37.7	23.5	8.2	27.3	3.3
人権問題別意識・関心スコア(高齢者)	高	178	50.6	17.4	3.9	26.4	1.7
	中	176	44.3	19.3	5.7	28.4	2.3
	低	168	29.8	22.0	9.5	35.1	3.6
人権問題別意識・関心スコア(障害者)	高	167	49.1	16.2	3.6	29.3	1.8
	中	181	44.8	19.9	3.9	29.8	1.7
	低	174	32.2	20.7	11.5	31.0	4.6
人権問題別意識・関心スコア(部落差別(同和问题))	高	187	57.8	12.3	3.2	26.2	0.5
	中	168	39.3	21.4	7.1	28.0	4.2
	低	173	26.6	26.0	8.7	35.3	3.5
人権問題別意識・関心スコア(外国人)	高	172	57.0	15.1	4.1	23.8	-
	中	167	39.5	19.8	6.6	33.5	0.6
	低	174	32.2	24.1	8.6	32.8	2.3
人権問題別意識・関心スコア(性的マイノリティ)	高	176	54.0	17.0	4.5	24.4	-
	中	167	40.7	20.4	6.0	31.1	1.8
	低	174	33.3	21.8	8.6	35.6	0.6
人権問題別意識・関心スコア(インターネットにおける人権侵害)	高	247	49.4	17.8	4.9	27.9	-
	中	92	44.6	17.4	7.6	27.2	3.3
	低	178	33.1	23.6	6.7	36.0	0.6

3. 部落差別(同和問題)解決についての考え方

問6 あなたは、部落差別(同和問題)の解決についてどのように思いますか。(いずれか1つに○)

部落差別(同和問題)解決についての考え方について、「自分だけではどうしようもない問題だ」が 44.2%で最も高く、次いで「わからない」が 22.4%、「解決に向けて自分にできることは取り組みたい」が 17.8%となっている。

図19 部落差別(同和問題)解決についての考え方



性別にみると、女性は男性よりも「わからない」(男性 18.2%・女性 25.7%)の割合が高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「自分だけではどうしようもない問題だ」の割合が最も高くなっている。

10・20歳代と30歳代は、40歳以上の年齢層と比べて「わからない」の割合が高くなっている。

表19 部落差別(同和問題)解決についての考え方

	回答者数(n)	解決に向けて自分に取り組みたい	自分だけではどうしようもない問題だ	何もしなくても自然になくなる	自分には関係がない	わからない	無回答	
全体	550	17.8	44.2	10.4	2.2	22.4	3.1	
性別	男性	236	19.9	43.2	13.1	2.1	18.2	3.4
	女性	307	16.3	45.0	8.5	2.0	25.7	2.6
	任意記入者	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-
年齢別	10・20歳代	41	22.0	36.6	9.8	4.9	26.8	-
	30歳代	65	15.4	43.1	9.2	-	29.2	3.1
	40歳代	89	23.6	49.4	3.4	2.2	19.1	2.2
	50歳代	103	21.4	48.5	8.7	1.9	19.4	-
	60歳代	93	14.0	45.2	12.9	1.1	22.6	4.3
	70歳以上	156	14.7	40.4	14.7	3.2	21.8	5.1



人権意識スコア別にみると、高いグループでは「解決に向けて自分にできることは取り組みたい」の回答割合が高い傾向で、低いグループでは「何もしなくても自然になくなる」が高い傾向がみられる。

表20 人権意識スコア別 部落差別(同和問題)解決についての考え方

		回答者数(n)	解決に向けて自分 できることは取り組 みたい	自分だけではどうし ようもない問題だ	何もしなくても自然 になくなる	自分には関係がない	わからない
全体		550	17.8	44.2	10.4	2.2	22.4
人権や差別について の考え方・態度スコア	高	169	33.1	44.4	5.3	0.6	16.0
	中	170	12.9	51.8	8.8	1.2	22.4
	低	172	8.7	40.1	16.9	2.9	27.9
人権問題別意識・関 心スコア(女性)	高	188	26.1	43.1	6.4	1.1	22.3
	中	154	12.3	53.9	7.8	1.3	21.4
	低	177	13.6	41.2	16.9	3.4	22.0
人権問題別意識・関 心スコア(子ども)	高	174	22.4	45.4	5.7	1.1	24.1
	中	171	15.8	51.5	7.6	-	21.6
	低	183	14.2	39.3	17.5	4.9	21.9
人権問題別意識・関 心スコア(高齢者)	高	178	24.2	51.1	5.1	0.6	17.4
	中	176	18.2	47.7	10.8	1.1	19.9
	低	168	10.7	36.3	15.5	4.8	30.4
人権問題別意識・関 心スコア(障害者)	高	167	27.5	47.9	4.8	0.6	16.8
	中	181	15.5	47.5	8.8	0.6	26.0
	低	174	10.3	40.8	18.4	4.0	23.6
人権問題別意識・関 心スコア(部落差別 (同和問題))	高	187	32.1	44.4	5.3	-	17.6
	中	168	8.9	56.5	6.5	0.6	23.2
	低	173	11.0	34.7	20.2	5.2	26.6
人権問題別意識・関 心スコア(外国人)	高	172	29.1	46.5	3.5	0.6	20.3
	中	167	15.6	53.3	9.0	-	22.2
	低	174	10.9	36.8	19.5	4.0	27.0
人権問題別意識・関 心スコア(性的マイノ リティ)	高	176	30.7	46.6	2.8	0.6	18.8
	中	167	13.2	52.7	12.6	0.6	20.4
	低	174	10.3	37.9	17.2	4.6	29.9
人権問題別意識・関 心スコア(インターネッ トにおける人権侵害)	高	247	24.7	46.2	8.5	1.6	18.6
	中	92	14.1	56.5	7.6	-	20.7
	低	178	11.8	38.2	15.7	3.4	30.9

## 5 人権や差別をめぐる基本的な意識

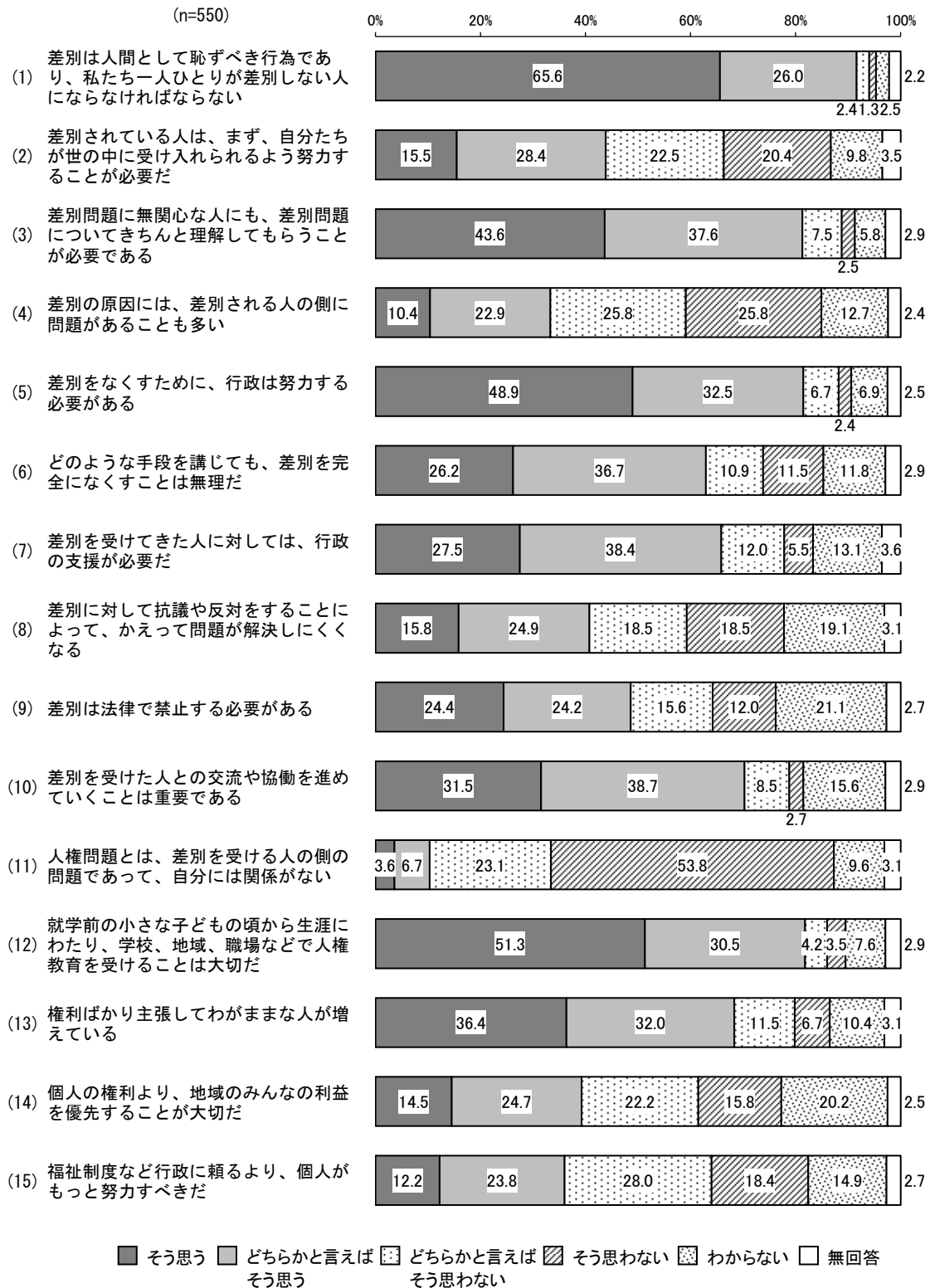
### 1. 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について

問7 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。(1)～(15)それぞれについて、いずれか1つに○)

人権や差別をめぐるいろいろな考え方について、『そう思う』は「(1)差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」が 91.6%で最も高く、次いで「(12)就学前の小さな子どもの頃から生涯にわたり、学校、地域、職場などで人権教育を受けることは大切だ」が 81.8%、「(5)差別をなくすために、行政は努力する必要がある」が 81.4%、「(3)差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」が 81.2%となっている。一方で『そう思わない』は「(11)人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない」が 76.9%で最も高く、次いで「(4)差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」が 51.6%、「(15)福祉制度など行政に頼るより、個人がもっと努力すべきだ」が 46.4%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

図20 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について



## II 町民意識調査の結果

### (1)差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない

性別にみると、『そう思う』は男性 91.5%・女性 91.8%と、性別による大きな違いはみられない。

年齢別にみると、『そう思う』は 60 歳代で 95.7%、30 歳代で 95.3%、その他の年齢層でも約 9 割と高くなっている。

### (2)差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ

性別にみると、『そう思う』は男性 46.2%・女性 41.4%と、男性の方が 4.8 ポイント高くなっており、男性では『そう思わない』よりも『そう思う』、女性では『そう思う』よりも『そう思わない』の割合が高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代と 40 歳代、50 歳代では『そう思わない』が 5 割以上、30 歳代と 70 歳以上では『そう思う』が 5 割以上となっている。

### (3)差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である

性別にみると、『そう思う』(男性 83.1%・女性 79.8%)は 3.3 ポイント、『そう思わない』(男性 12.2%・女性 8.1%)は 4.1 ポイント、いずれも男性の方が割合が高くなっている。

年齢別にみると、60 歳未満の各年齢層では『そう思う』が 8 割台となっている。

### (4)差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い

性別にみると、『そう思う』は男性 36.9%・女性 29.7%と、男性の方が 7.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代と 70 歳以上では『そう思う』が 4 割台となっており、70 歳以上では『そう思わない』(34.6%)よりも『そう思う』(40.4%)の割合が高くなっている。

### (5)差別をなくすために、行政は努力する必要がある

性別にみると、『そう思う』(男性 81.4%・女性 81.1%)は性別による違いがみられないが、『そう思わない』は男性 11.0%・女性 7.8%と、男性の方が 3.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳未満の各年齢層ではいずれも『そう思う』が 8 割を超えており、10・20 歳代では 87.8%と特に高くなっている。

### (6)どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ

性別にみると、『そう思う』は男性 61.8%・女性 63.8%で女性の方が 2.0 ポイント高く、『そう思わない』は男性 27.6%・女性 18.2%と、男性の方が 9.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は 50 歳未満の年齢層では 7 割台、50 歳以上の年齢層では 5 割台となっている。

### (7)差別を受けてきた人に対しては、行政の支援が必要だ

性別にみると、『そう思う』は男性 70.8%・女性 61.6%と、男性の方が 9.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代、40 歳代、60 歳代では『そう思う』が約 7 割となっている。30 歳代では『そう思わない』が 29.2%と他の年齢層と比べて高くなっている。

### (8)差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる

性別にみると、『そう思う』(男性 45.8%・女性 36.5%)は 9.3 ポイント、『そう思わない』(男性 40.7%・女性 34.8%)は 5.9 ポイント、男性の方が割合が高くなっている。

年齢別にみると、40 歳代と 50 歳代では『そう思わない』がそれぞれ 46.0%、55.3%となっており、『そう思う』の割合を上回っている。

**(9)差別は法律で禁止する必要がある**

性別にみると、『そう思う』は男性 53.0%・女性 44.9%で男性の方が 8.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも『そう思う』が 4 割以上を占めている。30 歳代は『そう思わない』が 36.9%と他の年齢層よりもやや高い。

**(10)差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である**

性別にみると、『そう思う』は男性 73.7%・女性 68.1%で男性の方が 5.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代、40 歳代では『そう思う』がそれぞれ 75.4%、77.5%と高くなっている。10・20 歳代は『そう思わない』(19.5%)が他の年齢層よりも高くなっている。

**(11)人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない**

性別にみると、『そう思う』(男性 11.5%・女性 9.5%)は 2.0 ポイント、『そう思わない』(男性 78.4%・女性 75.5%)は 2.9 ポイント、いずれも男性の方が割合が高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代と 30 歳代は『そう思う』が 1 割を超えており、『そう思わない』は 7 割台となっている。40～60 歳代の各年齢層では『そう思わない』が 8 割を超えている。

**(12)就学前の小さな子どもの頃から生涯にわたり、学校、地域、職場などで人権教育を受けることは大切だ**

性別にみると、『そう思う』は男性 81.0%・女性 82.7%で女性の方が 1.7 ポイント高く、『そう思わない』は男性 10.2%・女性 5.2%と、男性の方が 5.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代は『そう思う』が 92.7%と高く、また 30～60 歳代の各年齢層でも『そう思う』は 8 割を超えている。

**(13)権利ばかり主張してわがままな人が増えている**

性別にみると、『そう思う』は男性 74.6%・女性 63.5%で男性の方が 11.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代では『そう思う』が 53.6%と他の年齢層よりも低く、『そう思わない』が 29.3%となっている。30 歳代、50 歳代、60 歳代では『そう思う』が 7 割を超えている。

**(14)個人の権利より、地域のみんなの利益を優先することが大切だ**

性別にみると、『そう思う』は男性 43.7%・女性 35.5%で男性の方が 8.2 ポイント高くなっており、男性では『そう思わない』よりも『そう思う』、女性では『そう思う』よりも『そう思わない』の割合が高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代と 70 歳以上では『そう思う』が 4 割を超えて、『そう思わない』の割合を上回っている。

**(15)福祉制度など行政に頼るより、個人がもっと努力すべきだ**

性別にみると、『そう思う』は男性 41.1%・女性 31.9%で男性の方が 9.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代と 70 歳以上では『そう思う』が 4 割を超えており、『そう思わない』の割合を上回っている。40 歳代と 50 歳代では『そう思わない』がそれぞれ 56.2%、62.1%と高くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

II 町民意識調査の結果

表21 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について

	回答者数(n)	(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない						(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ							
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	そう思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	そう思わない
全体	550	65.6	26.0	2.4	1.3	2.5	2.2	15.5	28.4	22.5	20.4	9.8	3.5		
性別	男性	236	66.1	25.4	3.0	2.1	2.1	1.3	18.2	28.0	22.9	21.6	7.6	1.7	
	女性	307	65.1	26.7	1.6	0.7	2.9	2.9	12.4	29.0	22.8	19.5	11.4	4.9	
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-	
年齢別	10・20歳代	41	63.4	24.4	4.9	4.9	2.4	-	9.8	19.5	24.4	31.7	14.6	-	
	30歳代	65	61.5	33.8	1.5	1.5	1.5	-	23.1	29.2	32.3	9.2	6.2	-	
	40歳代	89	66.3	25.8	4.5	-	3.4	-	9.0	23.6	25.8	32.6	9.0	-	
	50歳代	103	64.1	27.2	3.9	-	2.9	1.9	12.6	22.3	32.0	20.4	12.6	-	
	60歳代	93	67.7	28.0	1.1	1.1	2.2	-	9.7	34.4	20.4	20.4	14.0	1.1	
	70歳以上	156	66.7	21.8	0.6	1.9	2.6	6.4	21.2	34.0	11.5	15.4	6.4	11.5	

	回答者数(n)	(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である						(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い							
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	そう思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	そう思わない
全体	550	43.6	37.6	7.5	2.5	5.8	2.9	10.4	22.9	25.8	25.8	12.7	2.4		
性別	男性	236	46.2	36.9	9.7	2.5	3.4	1.3	13.6	23.3	25.0	27.5	8.9	1.7	
	女性	307	41.4	38.4	5.5	2.6	7.8	4.2	7.2	22.5	26.4	25.1	16.0	2.9	
	任意記入者	3	-	66.7	33.3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	
年齢別	10・20歳代	41	39.0	46.3	9.8	2.4	2.4	-	7.3	17.1	29.3	36.6	9.8	-	
	30歳代	65	50.8	36.9	6.2	3.1	3.1	-	15.4	26.2	24.6	23.1	10.8	-	
	40歳代	89	49.4	36.0	7.9	3.4	3.4	-	6.7	22.5	33.7	30.3	6.7	-	
	50歳代	103	45.6	35.9	8.7	1.9	6.8	1.0	9.7	19.4	27.2	32.0	11.7	-	
	60歳代	93	35.5	40.9	10.8	5.4	6.5	1.1	5.4	20.4	34.4	23.7	15.1	1.1	
	70歳以上	156	41.0	36.5	4.5	0.6	8.3	9.0	13.5	26.9	15.4	19.2	17.3	7.7	

	回答者数(n)	(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある						(6) どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ							
		そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	そう思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	言えばそう思う	どちらかと思わない	どちらかと言えばそう	そう思わない
全体	550	48.9	32.5	6.7	2.4	6.9	2.5	26.2	36.7	10.9	11.5	11.8	2.9		
性別	男性	236	49.2	32.2	7.6	3.4	5.9	1.7	27.5	34.3	12.3	15.3	9.3	1.3	
	女性	307	48.2	32.9	6.2	1.6	7.8	3.3	25.4	38.4	9.4	8.8	13.7	4.2	
	任意記入者	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	
年齢別	10・20歳代	41	51.2	36.6	9.8	2.4	-	-	26.8	46.3	4.9	17.1	4.9	-	
	30歳代	65	49.2	33.8	7.7	3.1	6.2	-	43.1	35.4	7.7	9.2	4.6	-	
	40歳代	89	52.8	32.6	5.6	1.1	6.7	1.1	29.2	43.8	7.9	10.1	9.0	-	
	50歳代	103	48.5	33.0	9.7	1.0	7.8	-	23.3	35.0	15.5	10.7	15.5	-	
	60歳代	93	45.2	36.6	3.2	5.4	8.6	1.1	26.9	32.3	18.3	11.8	9.7	1.1	
	70歳以上	156	48.1	28.2	6.4	1.9	7.7	7.7	18.6	34.0	8.3	12.2	17.3	9.6	

	回答者数(n)	(7) 差別を受けてきた人に対しては、行政の支援が必要だ						(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる						
		そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	わからない	無回答	
全体	550	27.5	38.4	12.0	5.5	13.1	3.6	15.8	24.9	18.5	18.5	19.1	3.1	
性別	男性	236	29.7	41.1	10.2	5.5	11.0	2.5	20.8	25.0	20.8	19.9	11.9	1.7
	女性	307	25.1	36.5	13.4	5.5	15.0	4.6	12.4	24.1	16.9	17.9	24.4	4.2
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-
年齢別	10・20歳代	41	24.4	46.3	17.1	4.9	7.3	-	17.1	26.8	19.5	7.3	29.3	-
	30歳代	65	20.0	40.0	21.5	7.7	10.8	-	23.1	20.0	20.0	18.5	16.9	1.5
	40歳代	89	29.2	40.4	13.5	4.5	12.4	-	12.4	24.7	20.2	25.8	16.9	-
	50歳代	103	26.2	39.8	13.6	2.9	16.5	1.0	7.8	19.4	29.1	26.2	17.5	-
	60歳代	93	28.0	40.9	9.7	6.5	12.9	2.2	17.2	28.0	15.1	18.3	20.4	1.1
	70歳以上	156	30.1	32.1	6.4	6.4	14.1	10.9	19.2	26.9	12.2	12.8	19.2	9.6

	回答者数(n)	(9) 差別は法律で禁止する必要がある						(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である						
		そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	わからない	無回答	
全体	550	24.4	24.2	15.6	12.0	21.1	2.7	31.5	38.7	8.5	2.7	15.6	2.9	
性別	男性	236	26.7	26.3	16.1	14.0	15.7	1.3	34.3	39.4	8.1	2.5	14.4	1.3
	女性	307	22.1	22.8	15.0	10.7	25.4	3.9	29.3	38.8	8.1	2.9	16.6	4.2
	任意記入者	3	33.3	-	66.7	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
年齢別	10・20歳代	41	26.8	22.0	22.0	9.8	19.5	-	31.7	31.7	19.5	-	17.1	-
	30歳代	65	20.0	26.2	23.1	13.8	15.4	1.5	24.6	50.8	13.8	1.5	9.2	-
	40歳代	89	24.7	27.0	16.9	13.5	18.0	-	40.4	37.1	10.1	2.2	10.1	-
	50歳代	103	26.2	23.3	18.4	8.7	23.3	-	35.0	35.0	11.7	2.9	14.6	1.0
	60歳代	93	16.1	29.0	12.9	15.1	25.8	1.1	28.0	40.9	4.3	4.3	21.5	1.1
	70歳以上	156	28.2	20.5	10.3	11.5	21.2	8.3	28.2	37.8	3.2	3.2	18.6	9.0

	回答者数(n)	(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない						(12) 就学前の小さな子どもの頃から生涯にわたり、学校、地域、職場などで人権教育を受けることは大切だ						
		そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	わからない	無回答	そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	わからない	無回答	
全体	550	3.6	6.7	23.1	53.8	9.6	3.1	51.3	30.5	4.2	3.5	7.6	2.9	
性別	男性	236	5.1	6.4	24.6	53.8	8.5	1.7	49.6	31.4	5.1	5.1	6.8	2.1
	女性	307	2.3	7.2	21.8	53.7	10.7	4.2	52.1	30.6	2.9	2.3	8.5	3.6
	任意記入者	3	-	-	66.7	33.3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	-
年齢別	10・20歳代	41	9.8	9.8	19.5	51.2	9.8	-	61.0	31.7	2.4	-	4.9	-
	30歳代	65	7.7	9.2	29.2	47.7	6.2	-	52.3	35.4	1.5	1.5	9.2	-
	40歳代	89	1.1	3.4	14.6	75.3	5.6	-	51.7	34.8	5.6	2.2	5.6	-
	50歳代	103	-	7.8	27.2	55.3	8.7	1.0	58.3	24.3	7.8	1.9	7.8	-
	60歳代	93	1.1	7.5	31.2	50.5	8.6	1.1	49.5	35.5	1.1	5.4	7.5	1.1
	70歳以上	156	5.1	5.8	19.2	45.5	14.7	9.6	43.6	27.6	4.5	5.8	9.0	9.6

II 町民意識調査の結果

	回答者数(n)	(13) 権利ばかり主張してわがままな人が増えている						(14) 個人の権利より、地域のみんなの利益を優先することが大切だ						
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
全体	550	36.4	32.0	11.5	6.7	10.4	3.1	14.5	24.7	22.2	15.8	20.2	2.5	
性別	男性	236	43.2	31.4	11.9	5.1	6.8	1.7	17.4	26.3	23.3	14.8	16.5	1.7
	女性	307	30.9	32.6	10.7	8.1	13.4	4.2	11.7	23.8	21.5	16.6	23.1	3.3
	任意記入者	3	33.3	-	66.7	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	19.5	34.1	19.5	9.8	17.1	-	19.5	12.2	24.4	12.2	31.7	-
	30 歳代	65	49.2	27.7	10.8	4.6	7.7	-	15.4	32.3	27.7	7.7	16.9	-
	40 歳代	89	38.2	27.0	15.7	12.4	6.7	-	9.0	22.5	27.0	14.6	27.0	-
	50 歳代	103	28.2	42.7	10.7	4.9	12.6	1.0	11.7	24.3	26.2	19.4	18.4	-
	60 歳代	93	35.5	35.5	12.9	5.4	9.7	1.1	8.6	23.7	22.6	19.4	24.7	1.1
	70 歳以上	156	39.7	26.9	7.1	5.8	10.9	9.6	20.5	27.6	14.1	16.0	13.5	8.3

	回答者数(n)	(15) 福祉制度など行政に頼るより、個人がもっと努力すべきだ						
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
全体	550	12.2	23.8	28.0	18.4	14.9	2.7	
性別	男性	236	12.7	28.4	28.4	16.5	12.7	1.3
	女性	307	11.4	20.5	27.4	19.9	16.9	3.9
	任意記入者	3	-	-	66.7	33.3	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	12.2	17.1	31.7	12.2	26.8	-
	30 歳代	65	16.9	30.8	24.6	10.8	16.9	-
	40 歳代	89	6.7	16.9	36.0	20.2	20.2	-
	50 歳代	103	4.9	21.4	35.9	26.2	11.7	-
	60 歳代	93	6.5	26.9	32.3	17.2	16.1	1.1
	70 歳以上	156	20.5	26.3	16.7	17.9	9.6	9.0



大阪府調査との比較

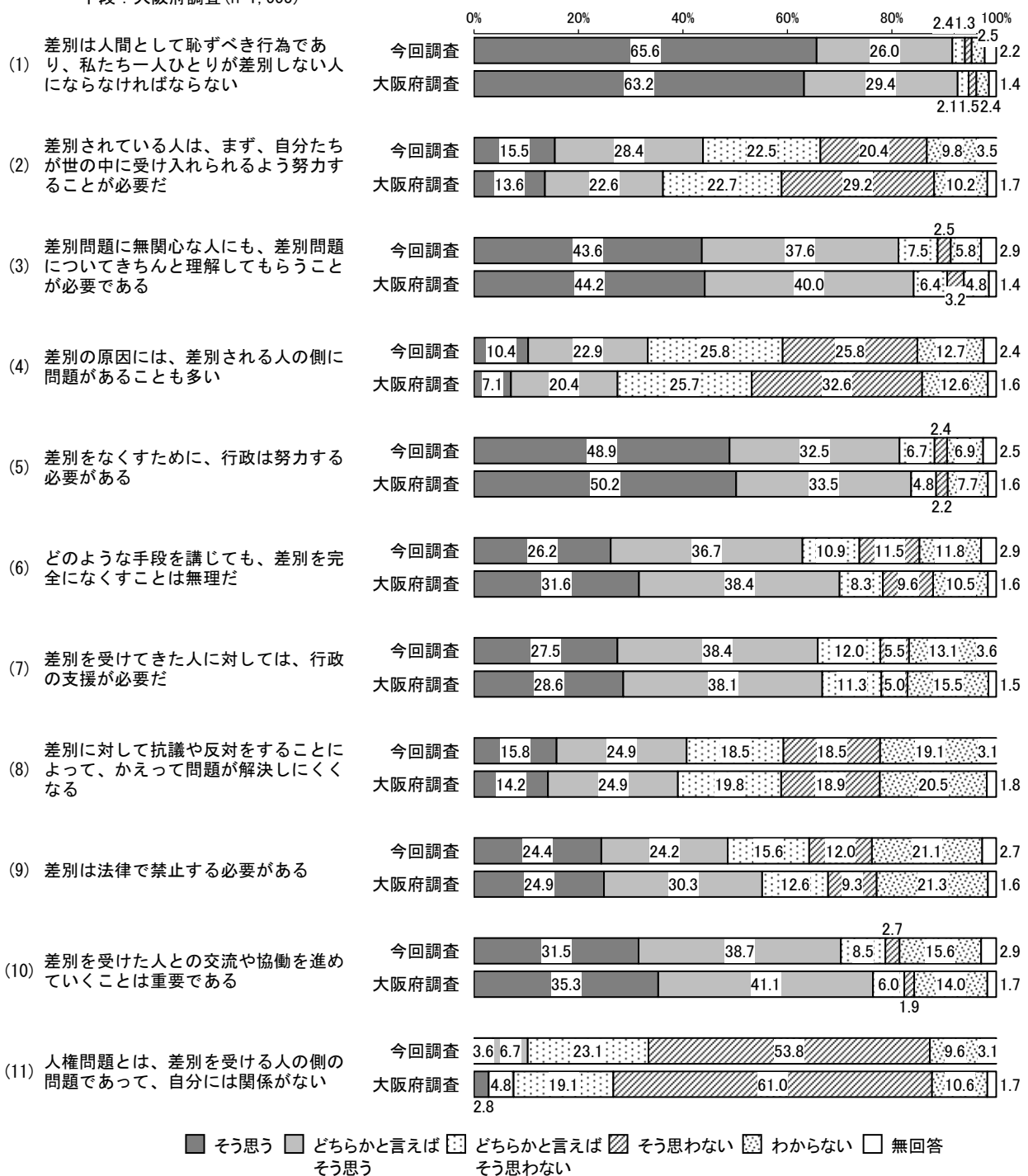
大阪府調査(2020(令和 2)年度)と比較すると、『そう思う』の割合は「(2)差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」(今回調査 43.9%・大阪府調査 36.2%)では 7.7 ポイント、「(4)差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」(今回調査 33.3%・大阪府調査 27.5%)では 5.8 ポイントそれぞれ今回調査の方が高く、「(9)差別は法律で禁止する必要がある」(今回調査 48.6%・大阪府調査 55.2%)では 6.6 ポイント、「(10)差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である」(今回調査 70.2%・大阪府調査 76.4%)では 6.2 ポイント、それぞれ今回調査の方が低くなっている。

「(6)どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ」の『そう思う』は今回調査(62.9%)の方が大阪府調査(70.0%)より 7.1 ポイント低くなっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図21 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について(大阪府調査との比較)

上段：今回調査(n=550)  
下段：大阪府調査(n=1,553)



## 6 行政の取り組みの認知状況

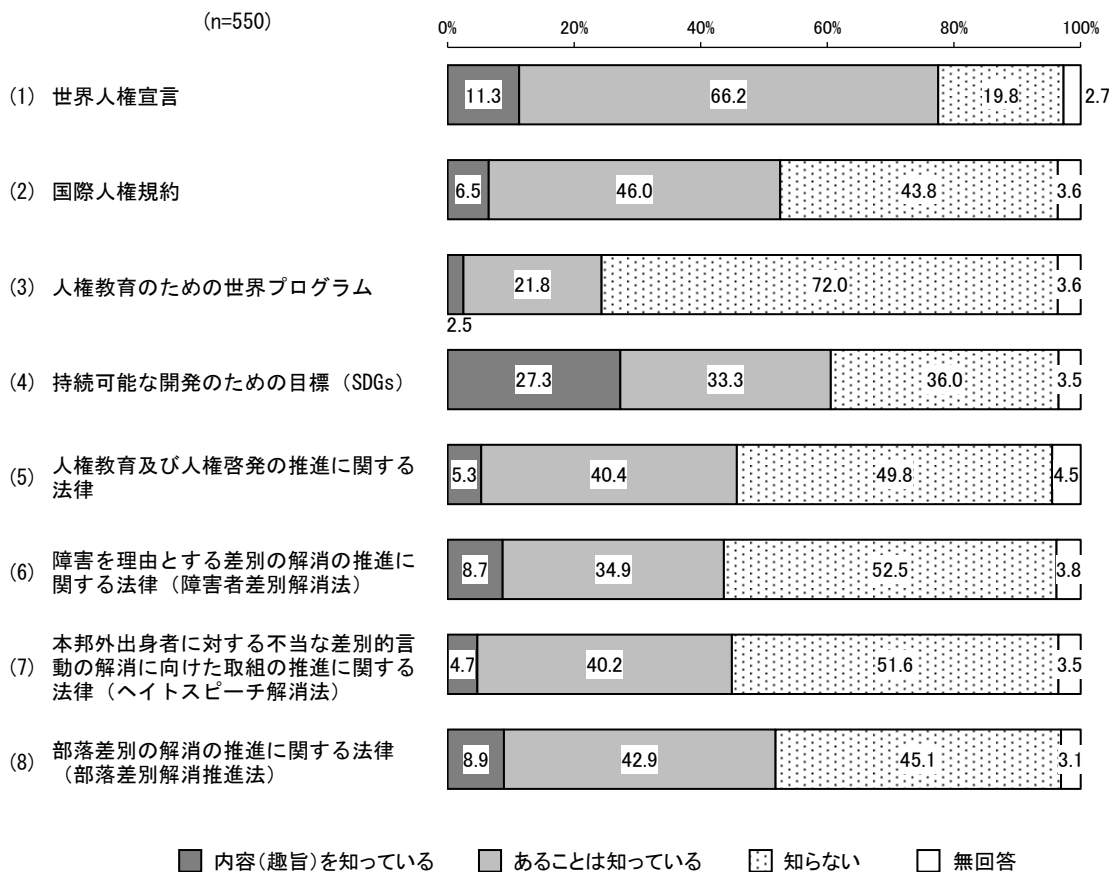
### 1. 法律や条例の認知状況

問8 あなたは、次の法律や条例について知っていますか。(1)～(8)それぞれについて、いずれか1つに○)

法律や条例の認知状況について、『知っている』は「(1)世界人権宣言」が 77.5%で最も高く、次いで「(4)持続可能な開発のための目標 (SDGs)」が 60.6%、「(2)国際人権規約」が 52.5%となっている。一方で「知らない」は「(3)人権教育のための世界プログラム」が 72.0%で最も高く、次いで「(6)障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)」が 52.5%となっている。

※『知っている』は「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」の合計をさす。

図22 法律や条例の認知状況



**(1)世界人権宣言**

性別にみると、『知っている』は男性 80.1%・女性 75.5%と、男性の方が 4.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代は『知っている』が 90.3%と高く、「内容(趣旨)を知っている」は 22.0%となっている。30～60 歳代の各年齢層では、『知っている』は約 8 割となっている。

**(2)国際人権規約**

性別にみると、『知っている』は男性 53.8%・女性 52.2%と、男性の方がわずかに割合が高くなっている。

年齢別にみると、『知っている』の割合は 10・20 歳代で 63.4%、30～60 歳代の各年齢層で 5 割台となっている。

**(3)人権教育のための世界プログラム**

性別にみると、『知っている』は男性 26.3%・女性 23.1%と、男性の方が 3.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代と 40 歳代で『知っている』が約 3 割となっている。

**(4)持続可能な開発のための目標(SDGs)**

性別にみると、『知っている』は男性 62.7%・女性 58.7%と、男性の方が 4.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『知っている』の割合は 30 歳代で 86.1%、10・20 歳代と 40 歳代で約 8 割と高く、また、「内容(趣旨)を知っている」は 10・20 歳代と 50 歳代で 4 割を超えている。一方、60 歳代と 70 歳以上では「知らない」が 5 割を超えている。

**(5)人権教育及び人権啓発の推進に関する法律**

性別にみると、『知っている』は男性 44.1%・女性 46.6%と、女性の方が 2.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代では『知っている』が 53.6%と高くなっている。

**(6)障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)**

性別にみると、『知っている』は男性 43.7%・女性 43.3%と、性別による大きな違いはみられない。

年齢別にみると、10・20 歳代は『知っている』が 58.5%、「内容(趣旨)を知っている」が 19.5%と、他の年齢層と比べて割合が高くなっている。

**(7)本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)**

性別にみると、『知っている』は男性 50.8%・女性 39.4%と、男性の方が 11.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代、40 歳代、50 歳代で『知っている』が 5 割弱となっている。

**(8)部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)**

性別にみると、『知っている』は男性 56.8%・女性 47.5%と、男性の方が 9.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代と 40 歳代では『知っている』が 6 割弱となっている。30 歳代と 60 歳代は「知らない」が 5 割を超えている。

※『知っている』は「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」の合計をさす。

II 町民意識調査の結果

表22 法律や条例の認知状況

	回答者数(人)	(1) 世界人権宣言				(2) 国際人権規約				(3) 人権教育のための世界プログラム				
		知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている
全体	550	11.3	66.2	19.8	2.7	6.5	46.0	43.8	3.6	2.5	21.8	72.0	3.6	
性別	男性	236	12.3	67.8	18.6	1.3	7.2	46.6	44.5	1.7	3.8	22.5	71.6	2.1
	女性	307	10.4	65.1	20.8	3.6	5.9	46.3	43.0	4.9	1.6	21.5	72.3	4.6
	任意記入者	3	-	100.0	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20 歳代	41	22.0	68.3	9.8	-	14.6	48.8	36.6	-	4.9	26.8	68.3	-
	30 歳代	65	9.2	73.8	16.9	-	7.7	49.2	43.1	-	1.5	21.5	76.9	-
	40 歳代	89	11.2	67.4	20.2	1.1	9.0	47.2	43.8	-	2.2	27.0	70.8	-
	50 歳代	103	15.5	67.0	17.5	-	5.8	45.6	47.6	1.0	2.9	23.3	73.8	-
	60 歳代	93	9.7	69.9	20.4	-	4.3	48.4	46.2	1.1	1.1	21.5	76.3	1.1
	70 歳以上	156	7.7	59.6	24.4	8.3	4.5	42.9	41.7	10.9	3.2	17.3	67.9	11.5

	回答者数(人)	(4) 持続可能な開発のための目標(SDGs)				(5) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律				(6) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)				
		知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている
全体	550	27.3	33.3	36.0	3.5	5.3	40.4	49.8	4.5	8.7	34.9	52.5	3.8	
性別	男性	236	28.8	33.9	35.6	1.7	8.1	36.0	53.0	3.0	10.6	33.1	54.2	2.1
	女性	307	26.1	32.6	36.8	4.6	3.3	43.3	47.9	5.5	7.5	35.8	51.8	4.9
	任意記入者	3	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	66.7	-	-	33.3	66.7	-
年齢別	10・20 歳代	41	46.3	36.6	17.1	-	14.6	39.0	46.3	-	19.5	39.0	41.5	-
	30 歳代	65	32.3	53.8	13.8	-	3.1	43.1	53.8	-	7.7	35.4	56.9	-
	40 歳代	89	33.7	44.9	21.3	-	7.9	40.4	51.7	-	10.1	37.1	51.7	1.1
	50 歳代	103	43.7	25.2	31.1	-	4.9	39.8	55.3	-	12.6	32.0	55.3	-
	60 歳代	93	19.4	25.8	53.8	1.1	2.2	41.9	52.7	3.2	4.3	36.6	57.0	2.2
	70 歳以上	156	10.9	26.3	51.9	10.9	4.5	38.5	43.6	13.5	5.8	32.7	50.6	10.9

	回答者数(人)	(7) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)				(8) 部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)				
		知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	無回答	知っている	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない
全体	550	4.7	40.2	51.6	3.5	8.9	42.9	45.1	3.1	
性別	男性	236	5.9	44.9	47.0	2.1	13.6	43.2	41.1	2.1
	女性	307	3.6	35.8	56.4	4.2	5.5	42.0	48.5	3.9
	任意記入者	3	-	100.0	-	-	-	66.7	33.3	-
年齢別	10・20 歳代	41	7.3	41.5	51.2	-	12.2	46.3	41.5	-
	30 歳代	65	1.5	38.5	60.0	-	3.1	38.5	58.5	-
	40 歳代	89	6.7	41.6	51.7	-	11.2	46.1	42.7	-
	50 歳代	103	5.8	43.7	50.5	-	8.7	43.7	47.6	-
	60 歳代	93	3.2	43.0	52.7	1.1	7.5	40.9	50.5	1.1
	70 歳以上	156	4.5	35.3	49.4	10.9	10.3	42.3	37.2	10.3

人権意識スコア別にみると、高いグループでは「内容(趣旨)を知っている」の回答割合が高い傾向で、低いグループでは「知らない」が高い傾向がみられる。

表23 人権意識スコア別 法律や条例の認知状況

	回答者数(n)	(1) 世界人権宣言			(2) 国際人権規約			(3) 人権教育のための世界プログラム			
		内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	
全体	550	11.3	66.2	19.8	6.5	46.0	43.8	2.5	21.8	72.0	
人権や差別についての考え方・態度スコア	高	169	20.7	66.9	11.8	11.2	49.1	39.6	3.0	24.9	71.6
	中	170	9.4	72.9	17.1	6.5	50.6	41.2	2.9	23.5	72.4
	低	172	4.1	64.5	30.8	2.9	43.6	52.3	1.2	18.0	80.2
人権問題別意識・関心スコア(女性)	高	188	17.0	69.7	12.2	10.6	52.7	35.6	3.7	25.5	69.7
	中	154	11.0	71.4	16.2	6.5	46.1	45.5	1.9	24.7	71.4
	低	177	5.6	63.3	29.4	2.8	43.5	51.4	2.3	18.1	78.0
人権問題別意識・関心スコア(子ども)	高	174	15.5	70.1	13.2	9.2	55.7	34.5	3.4	24.7	71.3
	中	171	9.4	74.3	15.8	7.0	46.8	43.9	1.8	27.5	69.0
	低	183	8.2	61.2	27.9	4.4	38.3	54.1	2.7	15.3	78.7
人権問題別意識・関心スコア(高齢者)	高	178	14.6	71.3	13.5	9.6	51.7	37.1	3.4	28.1	67.4
	中	176	10.2	69.3	19.3	5.7	44.9	48.3	1.1	19.3	78.4
	低	168	8.9	61.9	27.4	5.4	42.3	50.6	3.6	19.6	74.4
人権問題別意識・関心スコア(障害者)	高	167	16.2	70.7	13.2	9.0	53.9	35.9	4.2	29.9	65.3
	中	181	11.0	74.6	13.3	6.6	50.3	42.5	1.1	19.9	78.5
	低	174	6.3	60.3	31.6	4.6	37.4	55.2	2.9	17.8	77.0
人権問題別意識・関心スコア(部落差別(同和問題))	高	187	18.7	68.4	12.8	10.2	52.9	36.4	2.7	28.9	67.9
	中	168	8.9	75.6	14.3	6.0	44.0	48.8	2.4	19.6	77.4
	低	173	5.8	59.5	32.9	4.0	42.8	50.3	2.9	17.3	76.9
人権問題別意識・関心スコア(外国人)	高	172	20.3	66.3	12.8	12.2	53.5	34.3	3.5	28.5	67.4
	中	167	7.8	76.0	16.2	3.0	47.9	47.9	0.6	22.8	75.4
	低	174	6.3	61.5	29.3	5.2	38.5	53.4	3.4	14.9	78.7
人権問題別意識・関心スコア(性的マイノリティ)	高	176	18.8	64.8	16.5	10.8	53.4	35.8	2.3	29.0	68.2
	中	167	12.6	77.8	9.0	7.2	48.5	43.1	3.0	24.0	72.5
	低	174	3.4	61.5	33.3	2.9	38.5	56.3	2.9	13.2	81.6
人権問題別意識・関心スコア(インターネットにおける人権侵害)	高	247	14.6	70.9	14.6	8.9	50.2	40.9	3.2	24.7	71.3
	中	92	17.4	65.2	16.3	13.0	42.4	44.6	2.2	22.8	75.0
	低	178	4.5	65.2	28.1	1.1	44.9	50.0	2.2	18.5	76.4

II 町民意識調査の結果

表23 人権意識スコア別 法律や条例の認知状況(続き)

		回答者数 (n)	(4) 持続可能な開発のための 目標(SDGs)			(5) 人権教育及び人権啓発の 推進に関する法律			(6) 障害を理由とする差別の 解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)		
			いる 内容(趣旨)を知って	あることは 知っている	知らない	いる 内容(趣旨)を知って	あることは 知っている	知らない	いる 内容(趣旨)を知って	あることは 知っている	知らない
全体		550	27.3	33.3	36.0	5.3	40.4	49.8	8.7	34.9	52.5
人権や差別について の考え方・態度スコア	高	169	43.2	33.7	23.1	7.7	45.6	46.2	13.6	42.0	43.8
	中	170	27.1	36.5	35.3	6.5	44.1	47.1	8.8	37.6	51.2
	低	172	16.3	34.3	48.8	2.3	34.3	61.0	4.1	27.3	68.0
人権問題別意識・関 心スコア(女性)	高	188	36.7	37.8	24.5	5.9	47.3	45.2	14.4	35.1	49.5
	中	154	29.9	31.8	36.4	7.1	37.0	53.2	5.8	39.6	51.9
	低	177	19.2	33.3	45.8	4.0	39.5	53.1	6.8	32.2	58.2
人権問題別意識・関 心スコア(子ども)	高	174	37.4	36.2	25.9	5.2	46.6	47.1	9.8	35.6	53.4
	中	171	31.6	32.7	33.9	5.3	41.5	51.5	12.3	36.3	49.7
	低	183	16.4	33.9	46.4	6.0	36.1	52.5	5.5	33.3	56.8
人権問題別意識・関 心スコア(高齢者)	高	178	36.0	36.5	26.4	6.7	42.1	50.0	12.9	36.5	49.4
	中	176	26.1	35.2	37.5	2.8	41.5	52.8	8.0	33.5	55.7
	低	168	23.8	32.7	41.1	7.1	39.9	49.4	6.5	35.7	55.4
人権問題別意識・関 心スコア(障害者)	高	167	35.3	37.1	26.9	8.4	45.5	44.9	14.4	40.1	44.9
	中	181	31.5	35.4	32.6	3.9	45.3	49.2	7.2	38.7	53.0
	低	174	19.5	31.6	46.6	4.0	33.3	58.6	5.7	27.0	63.2
人権問題別意識・関 心スコア(部落差別 (同和問題))	高	187	39.6	34.8	25.1	7.5	46.0	46.0	11.2	41.2	46.5
	中	168	27.4	36.3	35.7	4.8	41.7	52.4	8.3	33.3	57.1
	低	173	17.3	32.4	47.4	4.0	35.3	54.9	7.5	30.6	58.4
人権問題別意識・関 心スコア(外国人)	高	172	41.9	35.5	22.7	7.6	48.3	43.6	11.6	44.2	44.2
	中	167	25.7	36.5	36.5	4.8	40.1	53.3	9.6	32.3	55.7
	低	174	19.0	31.6	46.6	4.6	35.6	55.2	6.9	31.0	59.2
人権問題別意識・関 心スコア(性的マイノ リティ)	高	176	42.6	34.7	22.7	6.8	44.3	47.7	13.1	39.2	46.6
	中	167	29.9	38.3	31.1	7.8	47.3	44.3	10.8	37.7	50.9
	低	174	13.2	31.6	52.9	2.3	34.5	59.2	4.0	30.5	62.6
人権問題別意識・関 心スコア(インターネット における人権侵害)	高	247	36.0	35.6	27.9	7.3	45.7	45.7	13.0	38.1	48.6
	中	92	35.9	31.5	32.6	7.6	44.6	46.7	8.7	39.1	51.1
	低	178	14.6	34.8	47.8	2.2	36.0	57.9	4.5	32.0	59.6

表23 人権意識スコア別 法律や条例の認知状況(続き)

		回答者数(n)	(7) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)			(8) 部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)		
			いる 内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない	いる 内容(趣旨)を知っている	あることは知っている	知らない
全体		550	4.7	40.2	51.6	8.9	42.9	45.1
人権や差別についての考え方・態度スコア	高	169	8.3	47.9	43.8	16.0	48.5	35.5
	中	170	3.5	42.9	51.8	8.2	47.1	43.5
	低	172	2.9	35.5	61.0	4.1	35.5	59.9
人権問題別意識・関心スコア(女性)	高	188	6.9	41.5	51.1	12.8	44.1	43.1
	中	154	3.9	46.8	47.4	7.8	46.1	44.8
	低	177	4.0	36.7	57.1	7.3	40.7	49.7
人権問題別意識・関心スコア(子ども)	高	174	5.7	36.2	57.5	11.5	43.1	45.4
	中	171	5.3	48.5	44.4	11.1	47.4	40.4
	低	183	3.8	37.2	55.7	5.5	38.8	52.5
人権問題別意識・関心スコア(高齢者)	高	178	5.6	45.5	47.8	14.0	44.9	39.9
	中	176	4.5	34.1	59.7	6.3	42.6	50.0
	低	168	4.8	42.9	50.6	7.7	41.1	49.4
人権問題別意識・関心スコア(障害者)	高	167	9.0	41.9	48.5	16.8	40.7	41.9
	中	181	2.8	45.9	50.3	4.4	48.1	47.0
	低	174	3.4	36.2	58.0	6.9	40.2	50.6
人権問題別意識・関心スコア(部落差別(同和問題))	高	187	5.3	46.0	48.1	14.4	48.7	36.4
	中	168	4.2	41.1	54.2	6.0	42.3	51.8
	低	173	5.2	35.8	56.1	6.9	37.6	52.6
人権問題別意識・関心スコア(外国人)	高	172	5.8	44.2	50.0	15.7	45.3	39.0
	中	167	4.8	41.9	52.1	5.4	49.1	44.3
	低	174	4.6	36.8	55.7	6.9	37.4	53.4
人権問題別意識・関心スコア(性的マイノリティ)	高	176	6.3	43.2	50.0	15.3	42.6	41.5
	中	167	7.2	45.5	46.7	9.6	50.3	39.5
	低	174	1.7	34.5	62.1	2.9	38.5	56.9
人権問題別意識・関心スコア(インターネットにおける人権侵害)	高	247	6.9	44.5	48.6	13.4	44.9	41.7
	中	92	5.4	40.2	53.3	8.7	47.8	42.4
	低	178	2.2	37.6	57.3	3.9	40.4	52.8

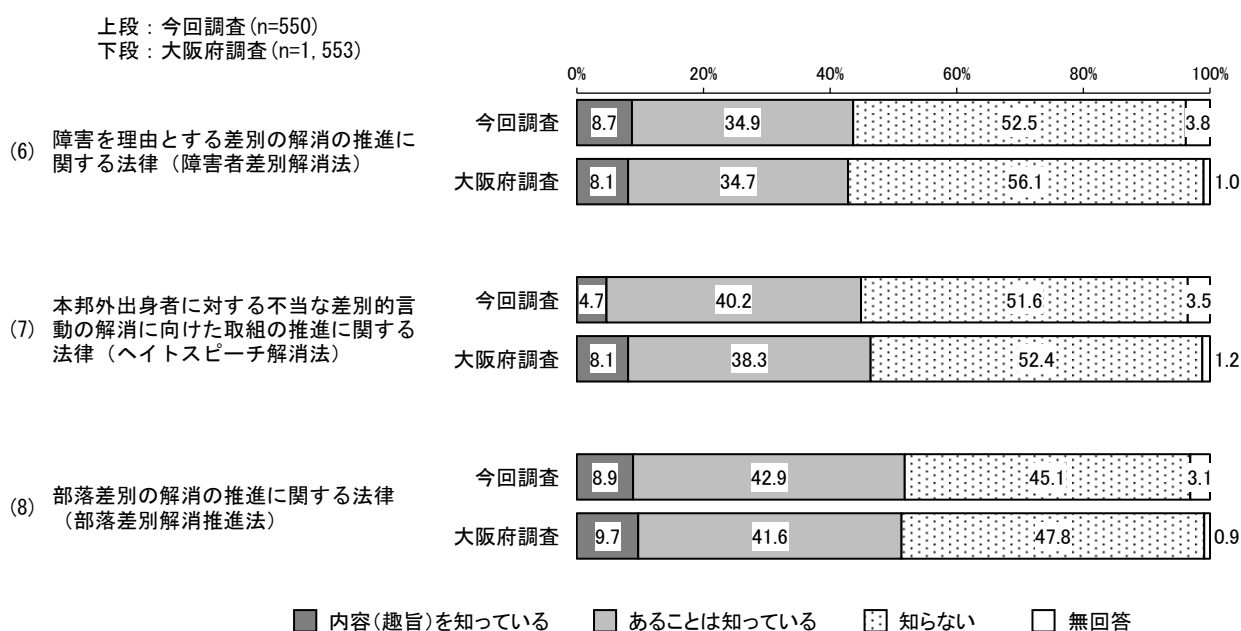
## II 町民意識調査の結果

### 大阪府調査との比較

大阪府調査(2020(令和2)年度)と比較すると、『知っている』の割合は「(6)障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」で今回調査 43.6%・大阪府調査 42.8%、「(8)部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」で今回調査 51.8%・大阪府調査 51.3%と、大阪府調査をわずかに上回っている。「(7)本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)」の『知っている』は今回調査 44.9%・大阪府調査 46.4%と、大阪府調査の方が 1.5 ポイント高い。

※『知っている』は「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」の合計をさす。

図23 法律や条例の認知状況(大阪府調査との比較)





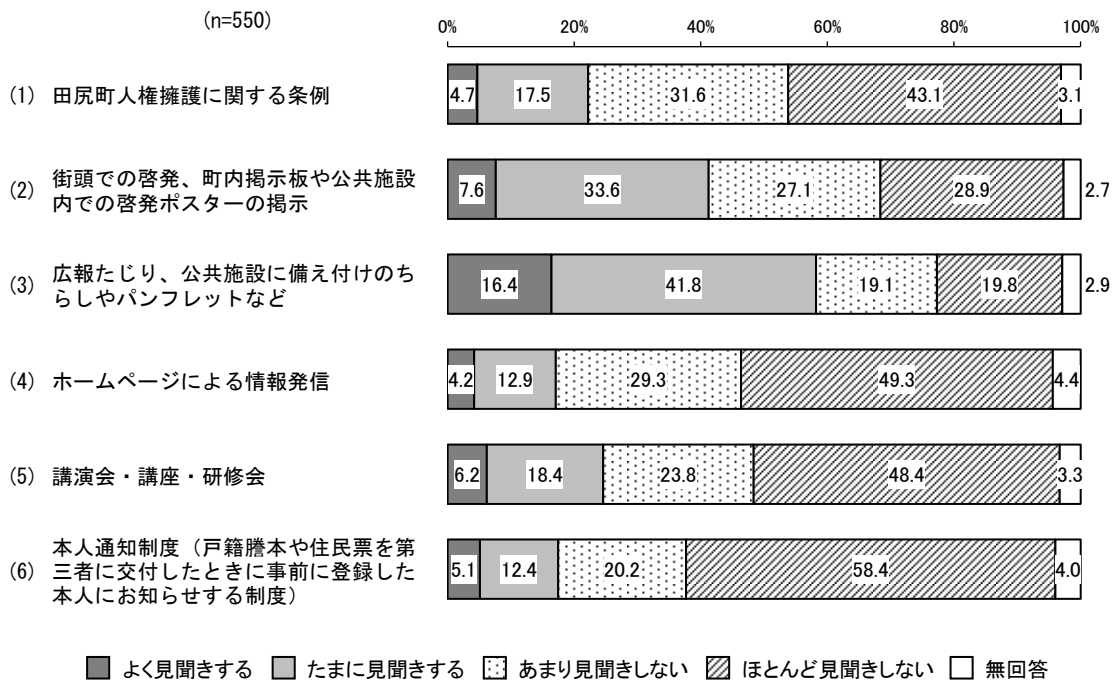
2. 田尻町の取り組みの認知状況

問9 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような田尻町の取り組みを見聞きする（した）ことがありますか。（(1)～(6)それぞれについて、いずれか1つに○）

田尻町の取り組みの認知状況について、『見聞きする』は「(3)広報たじり、公共施設に備え付けのちらしやパンフレットなど」が 58.2%で最も高く、次いで「(2)街頭での啓発、町内掲示板や公共施設内での啓発ポスターの掲示」が 41.2%となっている。それ以外の項目の『見聞きする』は2割前後となっている。

※『見聞きする』は「よく見聞きする」と「たまに見聞きする」の合計をさす。

図24 田尻町の取り組みの認知状況



## II 町民意識調査の結果

### (1)田尻町人権擁護に関する条例

性別にみると、『見聞きする』は男性 24.1%・女性 20.5%と、男性の方が 3.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50 歳未満の各年齢層では『見聞きしない』が約 9 割を占めている。70 歳以上では『見聞きする』が 36.5%と他の年齢層と比べて高くなっている。

### (2)街頭での啓発、町内掲示板や公共施設内での啓発ポスターの掲示

性別にみると、『見聞きする』は男性 41.1%・女性 41.7%と、性別による違いはみられないが、『見聞きしない』は男性 57.2%・女性 55.0%と、男性の方が 2.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代と 40 歳代では『見聞きしない』がそれぞれ 78.5%、69.7%と高くなっている。70 歳以上では『見聞きする』が 5 割を超えている。

### (3)広報たじり、公共施設に備え付けのちらしやパンフレットなど

性別にみると、『見聞きする』は男性 57.2%・女性 59.0%と、女性の方が 1.8 ポイント高く、『見聞きしない』は男性 40.7%・女性 37.8%と、男性の方が 2.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代では『見聞きしない』が 63.1%と高く、『見聞きする』(36.9%)を上回っている。50 歳以上の各年齢層では『見聞きする』が 6 割を超えている。

### (4)ホームページによる情報発信

性別にみると、『見聞きする』は男性 18.6%・女性 16.0%と、男性の方が 2.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『見聞きしない』が 30 歳代で 92.3%、10・20 歳代、40 歳代、50 歳代でも 8 割強と高くなっている。

### (5)講演会・講座・研修会

性別にみると、『見聞きする』は男性 21.2%・女性 26.7%と、女性の方が 5.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50 歳未満の各年齢層では『見聞きしない』が約 8~9 割と高くなっている。

### (6)本人通知制度(戸籍謄本や住民票を第三者に交付したときに事前に登録した本人にお知らせする制度)

性別にみると、『見聞きする』は男性 20.3%・女性 15.6%と、男性の方が 4.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50 歳未満の各年齢層では『見聞きしない』が 8 割台と高くなっている。

※『見聞きする』は「よく見聞きする」と「たまに見聞きする」の合計をさす。

※『見聞きしない』は「あまり見聞きしない」と「ほとんど見聞きしない」の合計をさす。

表24 田尻町の取り組みの認知状況

	回答者数(n)	(1) 田尻町人権擁護に関する条例					(2) 街頭での啓発、町内掲示板や公共施設内での啓発ポスターの掲示					
		する よく見聞き	する たまに見聞き	しない あまり見聞き	ほとんど 見聞きしない	無回答	する よく見聞き	する たまに見聞き	しない あまり見聞き	ほとんど 見聞きしない	無回答	
全体	550	4.7	17.5	31.6	43.1	3.1	7.6	33.6	27.1	28.9	2.7	
性別	男性	236	7.2	16.9	29.2	44.1	2.5	9.3	31.8	27.5	29.7	1.7
	女性	307	2.9	17.6	33.9	42.3	3.3	6.5	35.2	26.7	28.3	3.3
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-	-	33.3	-	66.7	-
年齢別	10・20 歳代	41	-	7.3	41.5	51.2	-	-	43.9	24.4	31.7	-
	30 歳代	65	3.1	3.1	24.6	69.2	-	4.6	16.9	30.8	47.7	-
	40 歳代	89	-	12.4	33.7	53.9	-	3.4	27.0	31.5	38.2	-
	50 歳代	103	1.9	21.4	30.1	45.6	1.0	3.9	39.8	20.4	35.0	1.0
	60 歳代	93	4.3	19.4	38.7	36.6	1.1	4.3	40.9	30.1	23.7	1.1
	70 歳以上	156	11.5	25.0	27.6	26.9	9.0	17.9	34.0	25.6	14.7	7.7

	回答者数(n)	(3) 広報たじり、公共施設に備え付けのちらしやパンフレットなど					(4) ホームページによる情報発信					
		する よく見聞き	する たまに見聞き	しない あまり見聞き	ほとんど 見聞きしない	無回答	する よく見聞き	する たまに見聞き	しない あまり見聞き	ほとんど 見聞きしない	無回答	
全体	550	16.4	41.8	19.1	19.8	2.9	4.2	12.9	29.3	49.3	4.4	
性別	男性	236	19.5	37.7	19.9	20.8	2.1	5.5	13.1	28.8	50.0	2.5
	女性	307	14.0	45.0	18.6	19.2	3.3	3.3	12.7	29.6	48.9	5.5
	任意記入者	3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	66.7	-
年齢別	10・20 歳代	41	9.8	46.3	24.4	19.5	-	2.4	14.6	31.7	51.2	-
	30 歳代	65	7.7	29.2	26.2	36.9	-	4.6	3.1	32.3	60.0	-
	40 歳代	89	11.2	42.7	22.5	23.6	-	3.4	12.4	32.6	51.7	-
	50 歳代	103	14.6	47.6	18.4	19.4	-	1.9	12.6	30.1	53.4	1.9
	60 歳代	93	18.3	48.4	19.4	14.0	-	3.2	16.1	28.0	50.5	2.2
	70 歳以上	156	25.0	37.2	13.5	14.7	9.6	7.1	15.4	25.0	40.4	12.2

	回答者数(n)	(5) 講演会・講座・研修会					(6) 本人通知制度(戸籍謄本や住民票を第三者に交付したときに事前に登録した本人にお知らせする制度)					
		する よく見聞き	する たまに見聞き	しない あまり見聞き	ほとんど 見聞きしない	無回答	する よく見聞き	する たまに見聞き	しない あまり見聞き	ほとんど 見聞きしない	無回答	
全体	550	6.2	18.4	23.8	48.4	3.3	5.1	12.4	20.2	58.4	4.0	
性別	男性	236	7.6	13.6	23.7	52.5	2.5	5.5	14.8	16.9	60.2	2.5
	女性	307	4.9	21.8	23.5	45.9	3.9	4.9	10.7	22.8	56.7	4.9
	任意記入者	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20 歳代	41	2.4	12.2	24.4	61.0	-	4.9	12.2	26.8	56.1	-
	30 歳代	65	3.1	7.7	24.6	64.6	-	4.6	13.8	12.3	69.2	-
	40 歳代	89	3.4	16.9	19.1	60.7	-	5.6	10.1	14.6	69.7	-
	50 歳代	103	1.9	24.3	22.3	51.5	-	4.9	13.6	18.4	61.2	1.9
	60 歳代	93	6.5	19.4	32.3	40.9	1.1	5.4	14.0	25.8	53.8	1.1
	70 歳以上	156	12.8	20.5	21.2	34.6	10.9	5.1	11.5	22.4	49.4	11.5

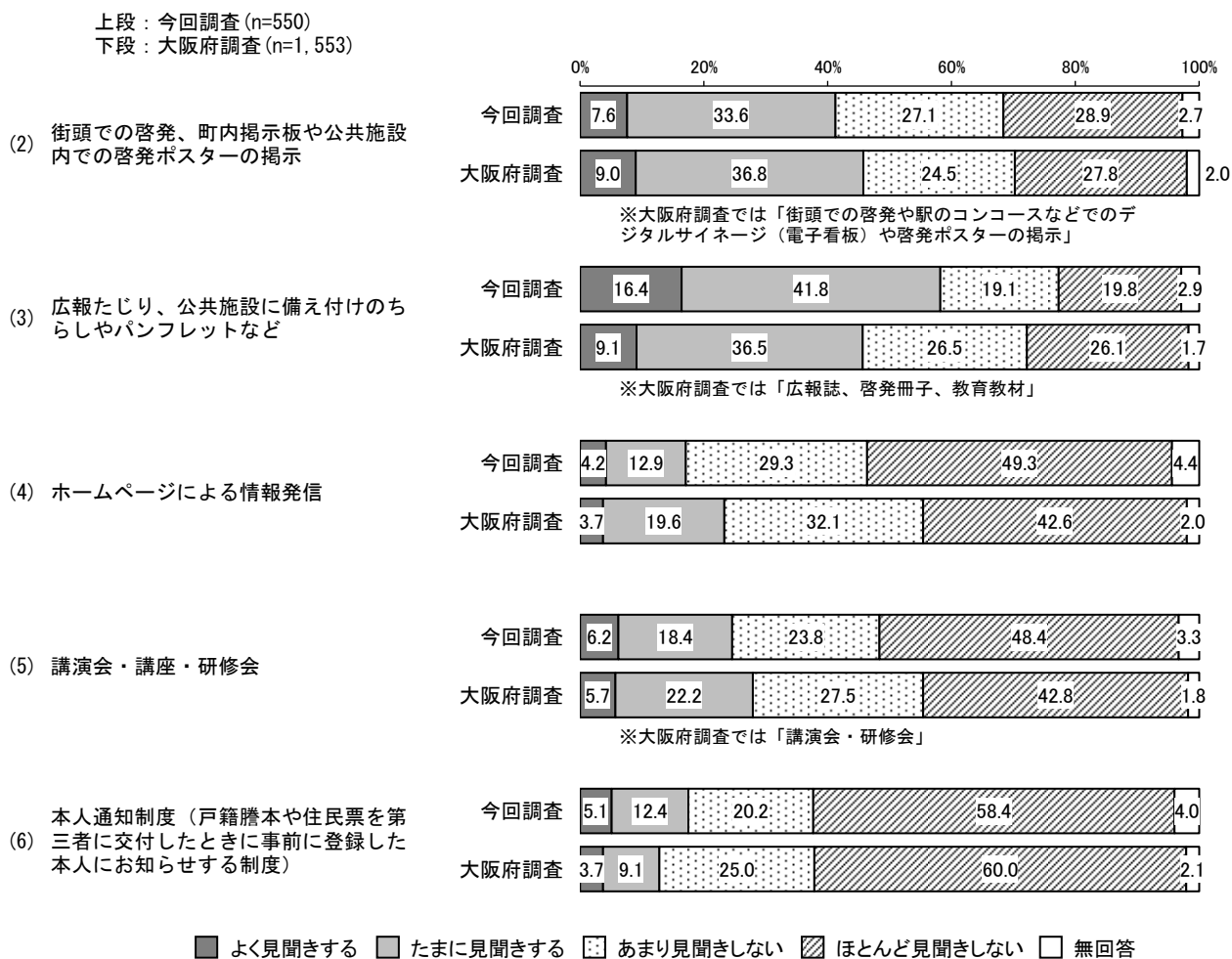
## II 町民意識調査の結果

### 大阪府調査との比較

大阪府調査(2020(令和 2)年度)と比較すると、『見聞きする』の割合は、「(3)広報たじり、公共施設に備え付けのちらしやパンフレットなど」(今回調査 58.2%・大阪府調査 45.6%)で 12.6 ポイント、「(6)本人通知制度(戸籍謄本や住民票を第三者に交付したときに事前に登録した本人にお知らせする制度)」(今回調査 17.5%・大阪府調査 12.8%)で 4.7 ポイント、今回調査の方が高くなっている。一方、「(2)街頭での啓発、町内掲示板や公共施設内での啓発ポスターの掲示」(今回調査 41.2%・大阪府調査 45.8%)、「(4)ホームページによる情報発信」(今回調査 17.1%・大阪府調査 23.3%)、「(5)講演会・講座・研修会」(今回調査 24.6%・大阪府調査 27.9%)ではいずれも大阪府調査の方が『見聞きする』の割合が高くなっている。

※『見聞きする』は「よく見聞きする」と「たまに見聞きする」の合計をさす。

図25 田尻町の取り組みの認知状況(大阪府調査との比較)



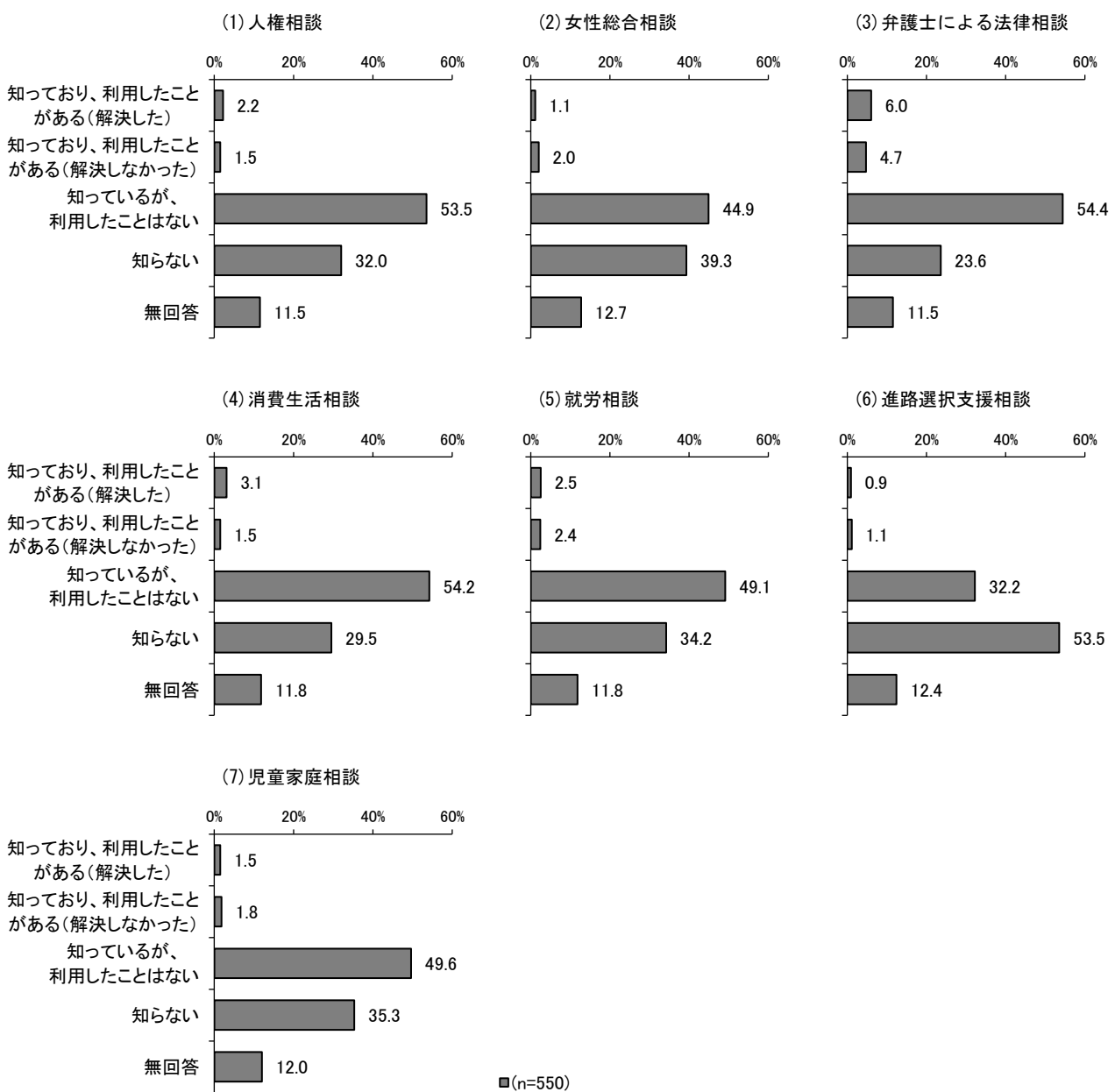
3. 相談窓口の認知・利用状況

問 10 あなたは、さまざまな問題の解決に向けて無料で利用できる次のような相談窓口について、見聞きする(した)ことがありますか。(1)～(7)それぞれについて、○はいくつでも

相談窓口の認知・利用状況について、『利用したことがある』は「(3)弁護士による法律相談」が 10.7%で最も高く、それ以外の項目は 1 割以下となっている。また「知っているが、利用したことはない」は、「(6)進路選択支援相談」を除くすべての項目で 4～5 割台となっている。「(6)進路選択支援相談」は「知らない」が最も高くなっている。

※『利用したことがある』は「知っているが、利用したことがある(解決した)」と「知っているが、利用したことがある(解決しなかった)」の合計をさす。

図26 相談窓口の認知・利用状況



## II 町民意識調査の結果

### (1)人権相談

性別にみると、「知っているが、利用したことはない」(男性 45.8%・女性 59.3%)は女性の方が 13.5 ポイント高く、「知らない」(男性 42.4%・女性 24.1%)は男性の方が 18.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代と 30 歳代は「知らない」が 4 割台となっている。40 歳代と 50 歳代は「知っているが、利用したことはない」が 6 割強となっている。

### (2)女性総合相談

性別にみると、男性では「知らない」(53.4%)、女性では「知っているが、利用したことはない」(53.1%)が、それぞれ最も高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代と 30 歳代は「知らない」、40 歳代と 50 歳代は「知っているが、利用したことはない」が 5 割を超えている。

### (3)弁護士による法律相談

性別にみると、「知らない」は男性 30.1%・女性 19.2%と、男性の方が 10.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代は「知らない」が 48.8%で最も割合が高くなっている。30 歳以上の各年齢層では「知っているが、利用したことはない」の割合が最も高くなっている。

### (4)消費生活相談

性別にみると、「知っているが、利用したことはない」(男性 49.6%・女性 58.0%)は女性の方が 8.4 ポイント高く、「知らない」(男性 35.6%・女性 24.1%)は男性の方が 11.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代、30 歳代では「知らない」が 4 割強と他の年齢層と比べて高くなっている。40 歳代では「知っているが、利用したことはない」が 67.4%と高い。

### (5)就労相談

性別にみると、男性では「知らない」(43.6%)、女性では「知っているが、利用したことはない」(54.4%)が、それぞれ最も高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代では「知らない」が 5 割を超えている。30 歳以上の各年齢層では「知っているが、利用したことはない」の割合が最も高く、特に 40 歳代では 65.2%と高くなっている。30 歳代では「知っており、利用したことがある(解決した)」が 6.2%となっている。

### (6)進路選択支援相談

性別にみると、「知っているが、利用したことはない」(男性 27.1%・女性 36.2%)は女性の方が 9.1 ポイント高く、「知らない」(男性 61.0%・女性 47.6%)は男性の方が 13.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知らない」は 30 歳代で 73.8%、10・20 歳代と 50 歳代で 6 割強となっている。

### (7)児童家庭相談

性別にみると、「知っているが、利用したことはない」(男性 44.1%・女性 54.1%)は女性の方が 10.0 ポイント高く、「知らない」(男性 43.6%・女性 28.7%)は男性の方が 14.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50 歳未満の各年齢層では「知っているが、利用したことはない」が約 6 割となっている。また、「知っており、利用したことがある(解決した)」は 10・20 歳代で 7.3%となっている。

表25 相談窓口の認知・利用状況

	回答者数(n)	(1) 人権相談					(2) 女性総合相談					
		知っているが、利用したことがある(解決した)	知っており、利用したことがある(解決しなかった)	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答	知っているが、利用したことがある(解決した)	知っており、利用したことがある(解決しなかった)	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答	
全体	550	2.2	1.5	53.5	32.0	11.5	1.1	2.0	44.9	39.3	12.7	
性別	男性	236	3.4	0.4	45.8	42.4	8.9	0.8	1.3	34.7	53.4	9.7
	女性	307	1.3	2.3	59.3	24.1	13.4	1.3	2.6	53.1	28.0	15.0
	任意記入者	3	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20 歳代	41	4.9	4.9	39.0	48.8	2.4	4.9	4.9	29.3	58.5	2.4
	30 歳代	65	4.6	3.1	49.2	46.2	1.5	-	4.6	41.5	52.3	1.5
	40 歳代	89	1.1	-	60.7	34.8	3.4	-	2.2	58.4	36.0	3.4
	50 歳代	103	-	-	60.2	35.0	4.9	1.0	1.0	53.4	39.8	4.9
	60 歳代	93	1.1	2.2	53.8	28.0	15.1	-	2.2	41.9	38.7	17.2
	70 歳以上	156	3.2	1.3	50.0	21.2	24.4	1.9	0.6	39.1	30.8	27.6

	回答者数(n)	(3) 弁護士による法律相談					(4) 消費生活相談					
		知っているが、利用したことがある(解決した)	知っており、利用したことがある(解決しなかった)	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答	知っているが、利用したことがある(解決した)	知っており、利用したことがある(解決しなかった)	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答	
全体	550	6.0	4.7	54.4	23.6	11.5	3.1	1.5	54.2	29.5	11.8	
性別	男性	236	4.7	5.1	51.7	30.1	8.9	3.8	2.1	49.6	35.6	8.9
	女性	307	6.8	4.6	56.0	19.2	13.4	2.6	1.0	58.0	24.1	14.3
	任意記入者	3	33.3	-	66.7	-	-	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20 歳代	41	2.4	9.8	36.6	48.8	2.4	4.9	-	51.2	41.5	2.4
	30 歳代	65	4.6	3.1	63.1	27.7	1.5	1.5	-	55.4	41.5	1.5
	40 歳代	89	6.7	3.4	64.0	22.5	3.4	2.2	3.4	67.4	23.6	3.4
	50 歳代	103	2.9	5.8	60.2	26.2	4.9	5.8	1.9	58.3	29.1	4.9
	60 歳代	93	6.5	1.1	58.1	20.4	14.0	2.2	1.1	51.6	29.0	16.1
	70 歳以上	156	9.0	6.4	43.6	16.7	25.0	2.6	1.3	45.5	25.0	25.6

II 町民意識調査の結果

表25 相談窓口の認知・利用状況(続き)

	回答者数(n)	(5) 就労相談					(6) 進路選択支援相談					
		知っているが、利用したことがある(解決しなかった)	知っており、利用したことがある(解決しなかった)	知っており、利用したことがある(解決した)	知らない	無回答	知っているが、利用したことがある(解決しなかった)	知っており、利用したことがある(解決しなかった)	知っており、利用したことがある(解決した)	知らない	無回答	
全体	550	2.5	2.4	49.1	34.2	11.8	0.9	1.1	32.2	53.5	12.4	
性別	男性	2.5	3.0	42.4	43.6	8.5	0.8	1.7	27.1	61.0	9.3	
	女性	307	2.6	2.0	54.4	26.7	14.3	1.0	0.7	36.2	14.7	
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	
年齢別	10・20 歳代	41	2.4	-	43.9	51.2	2.4	4.9	4.9	24.4	63.4	2.4
	30 歳代	65	6.2	3.1	55.4	33.8	1.5	1.5	-	23.1	73.8	1.5
	40 歳代	89	1.1	2.2	65.2	28.1	3.4	-	1.1	39.3	56.2	3.4
	50 歳代	103	1.9	1.0	54.4	37.9	4.9	-	-	34.0	61.2	4.9
	60 歳代	93	3.2	3.2	40.9	37.6	15.1	-	1.1	30.1	52.7	16.1
	70 歳以上	156	1.9	3.2	39.7	29.5	25.6	1.3	1.3	33.3	37.2	26.9

	回答者数(n)	(7) 児童家庭相談					
		知っているが、利用したことがある(解決しなかった)	知っており、利用したことがある(解決しなかった)	知っており、利用したことがある(解決した)	知らない	無回答	
全体	550	1.5	1.8	49.6	35.3	12.0	
性別	男性	236	1.3	1.7	44.1	43.6	9.3
	女性	307	1.6	2.0	54.1	28.7	14.0
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20 歳代	41	7.3	-	61.0	29.3	2.4
	30 歳代	65	3.1	1.5	60.0	35.4	1.5
	40 歳代	89	1.1	4.5	59.6	31.5	3.4
	50 歳代	103	-	1.0	49.5	45.6	3.9
	60 歳代	93	-	2.2	47.3	35.5	15.1
	70 歳以上	156	1.3	1.3	37.8	32.7	26.9

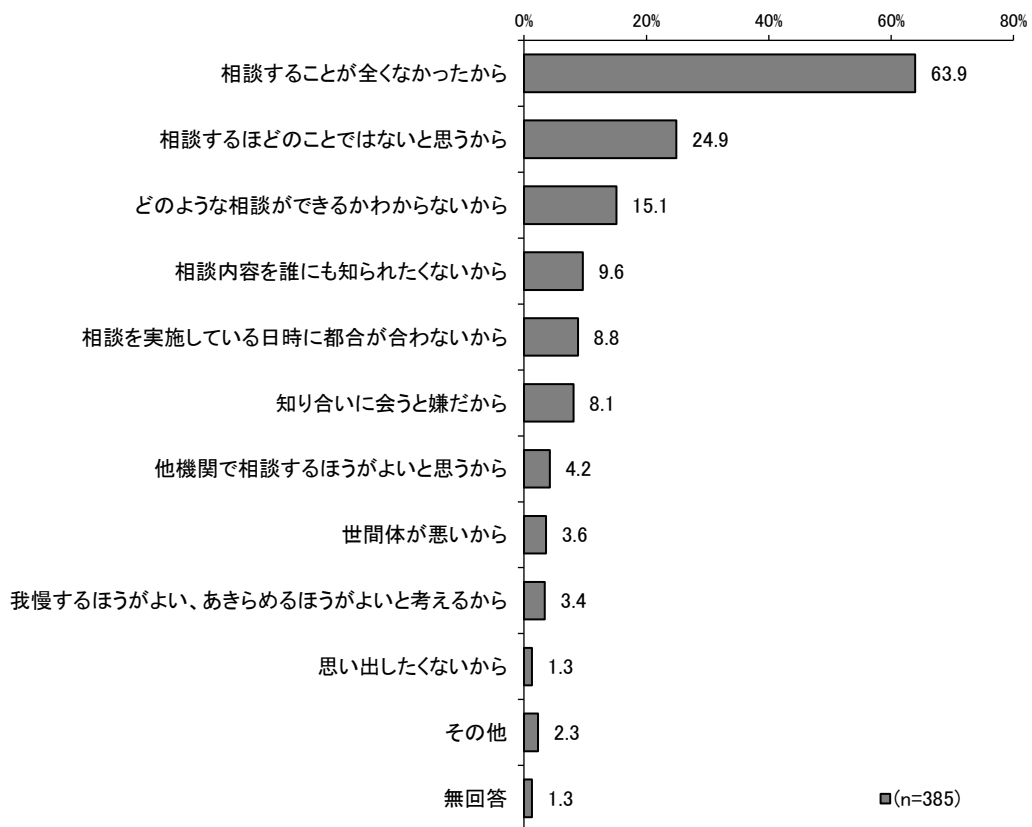


4. 相談窓口を利用しない理由

問 10-1 問 10 に1つでも「知っているが、利用したことはない」と答えた方におうかがいします。  
 利用しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

相談窓口を利用しない理由について、「相談することが全くなかったから」が 63.9%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思うから」が 24.9%、「どのような相談ができるかわからないから」が 15.1%となっている。

図27 相談窓口を利用しない理由



## II 町民意識調査の結果

性別にみると、男性は女性よりも「相談するほどのことではないと思うから」(男性 29.1%・女性 22.7%)で6.4ポイント、「他機関で相談するほうがよいと思うから」(男性 7.3%・女性 2.2%)で 5.1 ポイント割合が高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代は「知り合いに会うと嫌だから」「思い出したくないから」、40 歳代は「相談を実施している日時に都合が合わないから」「知り合いに会うと嫌だから」、50 歳代は「相談することが全くなかったから」が全体と比べて割合が高くなっている。

表26 相談窓口を利用しない理由

	回答者数(n)	から相談することが全くなかった	相談するほどのことではないと思うから	どのような相談ができるかわからないから	相談内容を誰にも知られたくないから	相談を実施している日時に都合が合わないから	知り合いに会うと嫌だから	他機関で相談するほうがよいと思うから	世間体が悪いから	我慢するほうがよい、あきらめるほうがよいと考えるから	思い出したくないから	その他	無回答
全体	385	63.9	24.9	15.1	9.6	8.8	8.1	4.2	3.6	3.4	1.3	2.3	1.3
性別													
男性	151	64.2	29.1	15.9	8.6	9.9	6.0	7.3	5.3	2.0	2.6	1.3	1.3
女性	229	63.8	22.7	14.8	10.5	8.3	9.2	2.2	2.6	4.4	0.4	2.6	0.9
任意記入者	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
年齢別													
10・20 歳代	30	60.0	23.3	20.0	10.0	13.3	13.3	3.3	3.3	3.3	6.7	-	-
30 歳代	50	68.0	24.0	14.0	6.0	10.0	4.0	2.0	2.0	6.0	-	2.0	-
40 歳代	71	66.2	25.4	16.9	12.7	14.1	14.1	1.4	7.0	2.8	1.4	4.2	1.4
50 歳代	82	70.7	23.2	15.9	7.3	4.9	6.1	2.4	1.2	1.2	1.2	2.4	-
60 歳代	62	59.7	29.0	14.5	6.5	9.7	6.5	6.5	1.6	3.2	-	1.6	-
70 歳以上	88	58.0	25.0	12.5	13.6	5.7	6.8	8.0	5.7	4.5	1.1	2.3	3.4

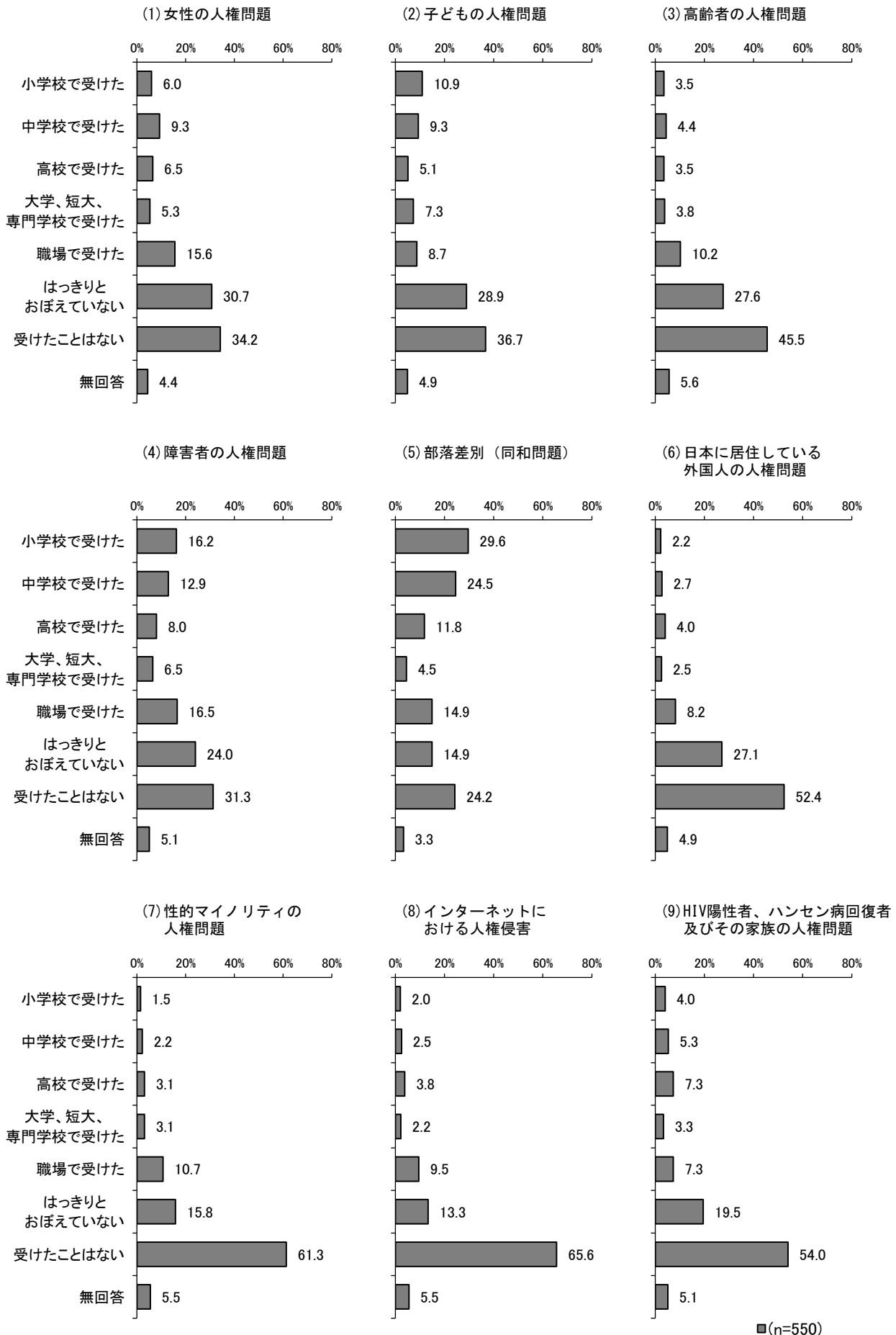
## 7 人権学習の状況

### 1. 人権問題の学習状況

問 11 あなたは、学校や職場で、次にあげる人権学習を受けたことがありますか。((1)～(9)それぞれについて、○はいくつでも)

人権問題の学習状況について、「(4)障害者の人権問題」と「(5)部落差別(同和問題)」の2分野が、他の分野と比べて学習を受けた割合が高くなっており、特に「(5)部落差別(同和問題)」については「小学校で受けた」が29.6%、「中学校で受けた」が24.5%と高くなっている。一方で「(7)性的マイノリティの人権問題」と「(8)インターネットにおける人権侵害」については、「受けたことはない」がともに6割を超えている。

図28 人権問題の学習状況



**(1)女性の人権問題**

性別にみると、「職場で受けた」(男性22.5%・女性10.7%)と「受けたことはない」(男性39.4%・女性30.6%)は男性の方が約10ポイント高く、「はっきりとおぼえていない」(男性26.3%・女性34.2%)は女性の方が7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20歳代は「小学校で受けた」「中学校で受けた」「高校で受けた」「大学、短大、専門学校で受けた」がいずれも2割を超えている。30歳代も、「小学校で受けた」「中学校で受けた」「高校で受けた」の割合は40歳以上の年齢層と比べて高くなっている。30～50歳代の各年齢層では「はっきりとおぼえていない」の割合が最も高く、50歳代は「職場で受けた」(28.2%)が他の年齢層よりも高い。60歳以上の年齢層では「受けたことはない」の割合が最も高い。

**(2)子どもの人権問題**

性別にみると、「職場で受けた」(男性12.3%・女性6.2%)、「受けたことはない」(男性41.5%・女性33.6%)は男性の方が割合が高く、「小学校で受けた」「中学校で受けた」「高校で受けた」「大学、短大、専門学校で受けた」はいずれも女性の方が割合が高い。

年齢別にみると、10・20歳代と30歳代は40歳以上の年齢層と比較して、「小学校で受けた」「中学校で受けた」「高校で受けた」「大学、短大、専門学校で受けた」の割合がいずれも高くなっている。70歳以上の年齢層では「受けたことはない」が5割を超えている。

**(3)高齢者の人権問題**

性別にみると、「職場で受けた」(男性13.1%・女性8.1%)、「受けたことはない」(男性48.3%・女性43.6%)はいずれも男性の方が割合が高くなっている。

年齢別にみると、10・20歳代と30歳代は「はっきりとおぼえていない」の割合が最も高く、次いで10・20歳代では「高校で受けた」が22.0%となっている。40歳以上の年齢層では「受けたことはない」の割合が最も高く、70歳以上では59.0%となっている。

**(4)障害者の人権問題**

性別にみると、「職場で受けた」(男性22.0%・女性12.7%)は男性の方が9.3ポイント高く、「中学校で受けた」「大学、短大、専門学校で受けた」は女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別にみると、10・20歳代では「中学校で受けた」が46.3%で最も高く、また「小学校で受けた」(39.0%)、「高校で受けた」(31.7%)が3割を超えている。30歳代では「小学校で受けた」が43.1%で最も高く、次いで「中学校で受けた」が30.8%となっている。40歳代と50歳代では「はっきりとおぼえていない」、60歳以上の年齢層では「受けたことはない」の割合が最も高くなっている。

**(5)部落差別(同和問題)**

性別にみると、「職場で受けた」(男性22.5%・女性9.4%)は男性の方が13.1ポイント高く、「中学校で受けた」(男性20.8%・女性27.0%)は女性の方が6.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20歳代では「中学校で受けた」が31.7%で最も高く、次いで「高校で受けた」(29.3%)の順となっている。30～50歳代では「小学校で受けた」の割合が最も高く、30歳代と40歳代では5割を超えている。70歳以上では「受けたことはない」(42.3%)の割合が最も高くなっている。

## II 町民意識調査の結果

### (6)日本に居住している外国人の人権問題

性別にみると、「職場で受けた」(男性 11.4%・女性 5.9%)は男性の方が 5.5 ポイント高く、「はっきりとおぼえていない」(男性 24.6%・女性 29.3%)は女性の方が 4.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代と 30 歳代は「はっきりとおぼえていない」の割合が最も高く、これに次いで 10・20 歳代では「高校で受けた」が 26.8%となっている。40 歳以上では「受けたことはない」の割合が最も高く、50 歳以上では 5 割を超えている。

### (7)性的マイノリティの人権問題

性別にみると、「職場で受けた」(男性 15.3%・女性 7.5%)は 7.8 ポイント、「はっきりとおぼえていない」(男性 18.2%・女性 14.0%)は 4.2 ポイント、それぞれ男性の方が高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代では「はっきりとおぼえていない」が 31.7%で最も高く、「高校で受けた」(19.5%)、「大学、短大、専門学校で受けた」(17.1%)が約 2 割、「中学校で受けた」(12.2%)、「小学校で受けた」(9.8%)が約 1 割となっている。30 歳以上の年齢層では「受けたことはない」が最も高くなっている。

### (8)インターネットにおける人権侵害

性別にみると、「職場で受けた」(男性 12.3%・女性 7.5%)は男性の方が 4.8 ポイント高く、「受けたことはない」(男性 63.1%・女性 68.1%)は女性の方が 5.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代では「高校で受けた」が 34.1%で最も高く、次いで「中学校で受けた」が 26.8%、「大学、短大、専門学校で受けた」が 19.5%、「小学校で受けた」が 17.1%となっている。30 歳以上の年齢層ではいずれも「受けたことはない」の割合が最も高くなっている。

### (9)HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題

性別にみると、「職場で受けた」(男性 9.7%・女性 5.5%)、「受けたことはない」(男性 56.8%・女性 52.4%)は男性の方が、「高校で受けた」(男性 4.2%・女性 9.1%)、「大学、短大、専門学校で受けた」(男性 0.8%・女性 4.9%)は女性の方が、やや割合が高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代は「はっきりとおぼえていない」が 36.6%で最も高く、次いで「高校で受けた」が 26.8%となっている。30 歳以上の年齢層では「受けたことはない」の割合が最も高く、50 歳以上では約 6~7 割となっている。30 歳代は「中学校で受けた」(20.0%)が他の年齢層よりも高くなっている。

表27 人権問題の学習状況

		(1) 女性の人権問題								
		回答者数(n)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえていない	受けたことは ない	無回答
全体		550	6.0	9.3	6.5	5.3	15.6	30.7	34.2	4.4
性別	男性	236	5.9	5.9	3.0	2.5	22.5	26.3	39.4	3.0
	女性	307	6.2	11.7	9.1	7.2	10.7	34.2	30.6	4.9
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	66.7	33.3	-
年齢別	10・20 歳代	41	22.0	29.3	22.0	22.0	4.9	26.8	17.1	-
	30 歳代	65	16.9	24.6	16.9	6.2	13.8	43.1	13.8	-
	40 歳代	89	6.7	9.0	6.7	7.9	18.0	39.3	23.6	-
	50 歳代	103	2.9	5.8	4.9	4.9	28.2	36.9	23.3	1.9
	60 歳代	93	2.2	2.2	1.1	2.2	16.1	32.3	41.9	3.2
	70 歳以上	156	1.3	3.8	2.6	1.3	9.6	17.3	56.4	10.9

		(2) 子どもの人権問題								
		回答者数(n)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえていない	受けたことは ない	無回答
全体		550	10.9	9.3	5.1	7.3	8.7	28.9	36.7	4.9
性別	男性	236	8.5	5.5	3.0	3.0	12.3	29.7	41.5	3.4
	女性	307	13.0	12.4	6.2	10.4	6.2	28.3	33.6	5.5
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	66.7	33.3	-
年齢別	10・20 歳代	41	31.7	29.3	17.1	24.4	2.4	22.0	17.1	-
	30 歳代	65	24.6	24.6	10.8	12.3	4.6	33.8	10.8	1.5
	40 歳代	89	14.6	6.7	3.4	11.2	9.0	33.7	33.7	-
	50 歳代	103	12.6	8.7	3.9	5.8	11.7	36.9	33.0	1.9
	60 歳代	93	1.1	1.1	1.1	2.2	15.1	38.7	38.7	3.2
	70 歳以上	156	2.6	4.5	3.2	2.6	6.4	15.4	56.4	12.2

		(3) 高齢者の人権問題								
		回答者数(n)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえていない	受けたことは ない	無回答
全体		550	3.5	4.4	3.5	3.8	10.2	27.6	45.5	5.6
性別	男性	236	3.4	3.4	1.7	1.3	13.1	28.8	48.3	3.4
	女性	307	3.6	5.2	4.2	5.9	8.1	27.0	43.6	6.8
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-
年齢別	10・20 歳代	41	9.8	12.2	22.0	14.6	4.9	31.7	22.0	-
	30 歳代	65	9.2	12.3	9.2	6.2	4.6	41.5	27.7	1.5
	40 歳代	89	3.4	2.2	2.2	6.7	9.0	31.5	47.2	-
	50 歳代	103	1.9	3.9	-	2.9	12.6	31.1	46.6	2.9
	60 歳代	93	2.2	1.1	-	1.1	16.1	32.3	44.1	4.3
	70 歳以上	156	1.3	2.6	0.6	0.6	9.6	14.1	59.0	13.5

II 町民意識調査の結果

表27 人権問題の学習状況(続き)

		(4) 障害者の人権問題								
		回答者数(n)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえていない	受けたことはない	無回答
全体		550	16.2	12.9	8.0	6.5	16.5	24.0	31.3	5.1
性別	男性	236	14.0	9.3	6.8	2.5	22.0	25.8	33.5	2.5
	女性	307	17.6	15.6	8.5	9.4	12.7	22.8	30.0	6.5
	任意記入者	3	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-
年齢別	10・20 歳代	41	39.0	46.3	31.7	22.0	7.3	17.1	9.8	-
	30 歳代	65	43.1	30.8	21.5	10.8	13.8	29.2	9.2	-
	40 歳代	89	24.7	19.1	4.5	9.0	15.7	33.7	19.1	-
	50 歳代	103	16.5	6.8	4.9	4.9	22.3	31.1	25.2	1.9
	60 歳代	93	3.2	4.3	2.2	3.2	20.4	28.0	35.5	5.4
	70 歳以上	156	1.9	2.6	3.2	2.6	14.7	11.5	55.1	12.2

		(5) 部落差別(同和問題)								
		回答者数(n)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえていない	受けたことはない	無回答
全体		550	29.6	24.5	11.8	4.5	14.9	14.9	24.2	3.3
性別	男性	236	30.9	20.8	11.0	3.0	22.5	13.6	25.4	2.1
	女性	307	29.0	27.0	12.4	5.5	9.4	16.0	23.8	3.9
	任意記入者	3	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	24.4	31.7	29.3	14.6	4.9	24.4	17.1	-
	30 歳代	65	52.3	33.8	15.4	1.5	12.3	13.8	15.4	-
	40 歳代	89	50.6	34.8	13.5	11.2	9.0	11.2	14.6	-
	50 歳代	103	46.6	31.1	17.5	2.9	15.5	12.6	14.6	1.0
	60 歳代	93	18.3	24.7	10.8	1.1	16.1	16.1	23.7	3.2
	70 歳以上	156	5.8	8.3	1.9	2.6	21.2	15.4	42.3	8.3

		(6) 日本に居住している外国人の人権問題								
		回答者数(n)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえていない	受けたことはない	無回答
全体		550	2.2	2.7	4.0	2.5	8.2	27.1	52.4	4.9
性別	男性	236	3.0	2.1	2.5	1.7	11.4	24.6	55.1	3.0
	女性	307	1.6	3.3	4.9	2.9	5.9	29.3	50.8	5.9
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-
年齢別	10・20 歳代	41	4.9	9.8	26.8	9.8	2.4	41.5	24.4	-
	30 歳代	65	7.7	6.2	6.2	-	7.7	41.5	33.8	1.5
	40 歳代	89	2.2	3.4	2.2	5.6	10.1	36.0	43.8	-
	50 歳代	103	1.0	2.9	2.9	2.9	11.7	28.2	53.4	1.9
	60 歳代	93	1.1	-	-	1.1	8.6	30.1	57.0	3.2
	70 歳以上	156	0.6	0.6	0.6	0.6	6.4	10.3	69.9	12.2



表27 人権問題の学習状況(続き)

	回答者数(n)	(7) 性的マイノリティの人権問題								
		小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえしていない	はつきりとおぼえていない	受けたことはない	無回答
全体	550	1.5	2.2	3.1	3.1	10.7	15.8	61.3	5.5	
性別	男性	236	1.7	1.7	1.3	1.7	15.3	18.2	59.3	3.4
	女性	307	1.3	2.6	4.2	4.2	7.5	14.0	63.2	6.5
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-
年齢別	10・20歳代	41	9.8	12.2	19.5	17.1	2.4	31.7	24.4	-
	30歳代	65	6.2	7.7	9.2	6.2	7.7	24.6	46.2	1.5
	40歳代	89	-	1.1	2.2	3.4	14.6	14.6	66.3	-
	50歳代	103	-	-	-	1.9	19.4	15.5	61.2	2.9
	60歳代	93	-	-	-	1.1	12.9	16.1	66.7	4.3
	70歳以上	156	-	0.6	-	-	5.1	9.0	72.4	12.8

	回答者数(n)	(8) インターネットにおける人権侵害								
		小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえしていない	はつきりとおぼえていない	受けたことはない	無回答
全体	550	2.0	2.5	3.8	2.2	9.5	13.3	65.6	5.5	
性別	男性	236	2.1	2.1	4.2	2.1	12.3	15.3	63.1	3.0
	女性	307	2.0	2.9	3.6	2.3	7.5	11.7	68.1	6.5
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-
年齢別	10・20歳代	41	17.1	26.8	34.1	19.5	-	17.1	26.8	-
	30歳代	65	4.6	4.6	6.2	1.5	10.8	21.5	55.4	1.5
	40歳代	89	-	-	2.2	2.2	13.5	14.6	69.7	-
	50歳代	103	-	-	1.0	1.0	14.6	14.6	68.0	1.9
	60歳代	93	1.1	-	-	-	12.9	14.0	68.8	3.2
	70歳以上	156	-	-	-	-	3.8	7.1	75.6	13.5

	回答者数(n)	(9) HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題								
		小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大、専門学校で受けた	職場で受けた	おぼえしていない	はつきりとおぼえていない	受けたことはない	無回答
全体	550	4.0	5.3	7.3	3.3	7.3	19.5	54.0	5.1	
性別	男性	236	3.4	4.2	4.2	0.8	9.7	20.8	56.8	3.4
	女性	307	4.6	5.9	9.1	4.9	5.5	18.2	52.4	6.2
	任意記入者	3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-
年齢別	10・20歳代	41	9.8	14.6	26.8	4.9	2.4	36.6	22.0	-
	30歳代	65	13.8	20.0	13.8	1.5	3.1	27.7	32.3	1.5
	40歳代	89	4.5	6.7	15.7	9.0	6.7	23.6	43.8	-
	50歳代	103	4.9	2.9	1.9	1.9	7.8	20.4	63.1	1.9
	60歳代	93	-	-	2.2	3.2	14.0	19.4	59.1	3.2
	70歳以上	156	-	0.6	0.6	1.3	6.4	8.3	69.2	13.5

II 町民意識調査の結果

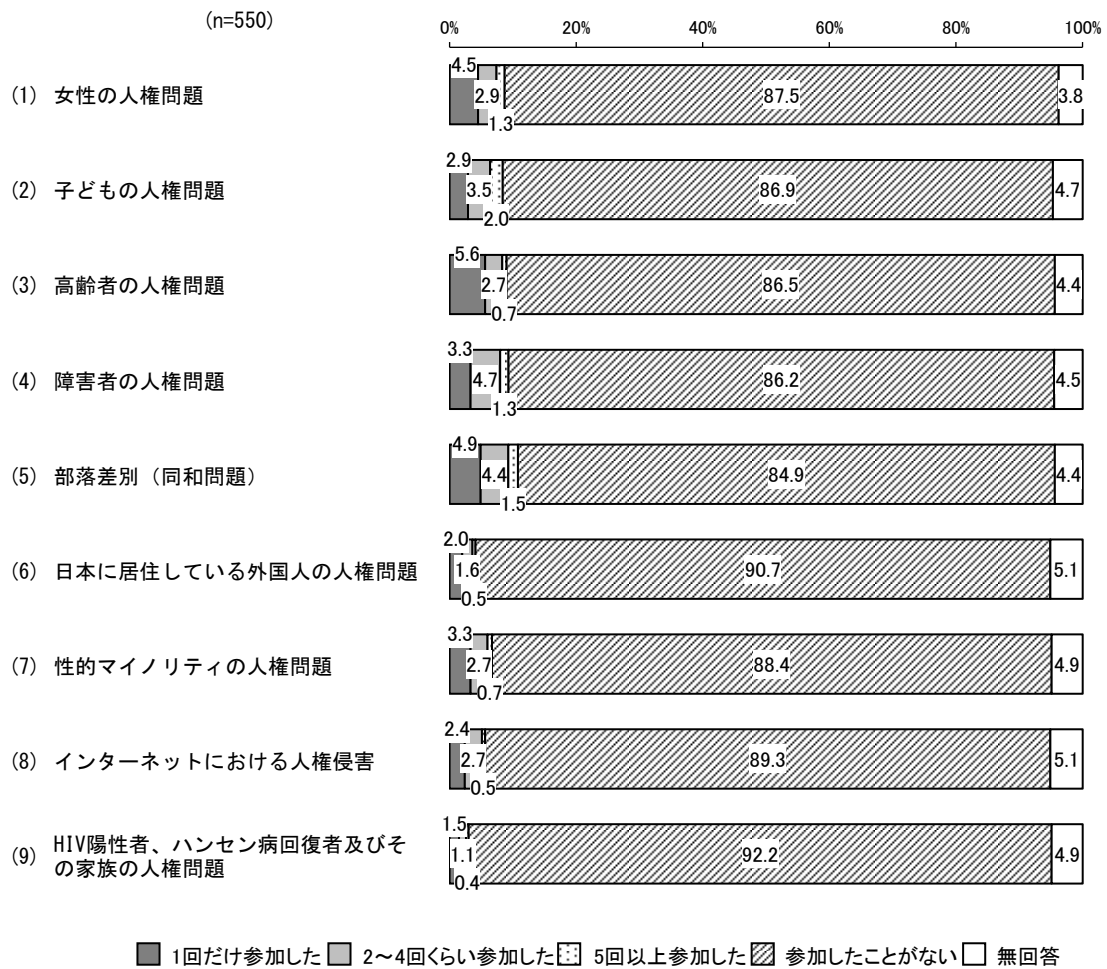
2. 人権問題に関するイベント等への参加状況

問 12 あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。(1)～(9)それぞれについて、いずれか1つに○)

人権問題に関するイベント等への参加状況について、『参加した』は「(5)部落差別(同和問題)」が 10.8%で最も高く、次いで「(3)高齢者の人権問題」が 9.0%、「(1)女性の人権問題」が 8.7%となっている。一方で「参加したことがない」は、いずれの項目も 8～9 割台と高くなっている。

※『参加した』は「1 回だけ参加した」と「2～4 回くらい参加した」と「5 回以上参加した」の合計をさす。

図29 人権問題に関するイベント等への参加状況



**(1)女性の人権問題**

性別にみると、『参加した』は男性 10.1%・女性 7.9%と、男性の方が 2.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高くなっているが、50 歳代では『参加した』が 12.6%と、他の年齢層よりやや高くなっている。

**(2)子どもの人権問題**

性別にみると、『参加した』は男性 8.9%・女性 8.2%で、性別による違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高く、10・20 歳代と 30 歳代では 9 割を超えている。40 歳代と 50 歳代では『参加した』がそれぞれ 11.2%、11.6%となっている。

**(3)高齢者の人権問題**

性別にみると、『参加した』は男性 10.6%・女性 8.2%と、男性の方が 2.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高く、50 歳未満の年齢層では 9 割を超えている。『参加した』の割合は、50 歳代で 10.7%、60 歳代で 10.8%、70 歳以上で 12.8%となっている。

**(4)障害者の人権問題**

性別にみると、『参加した』は男性 9.8%・女性 9.2%で、性別による違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高く、10・20 歳代と 30 歳代では 9 割を超えている。『参加した』の割合は、40 歳代と 50 歳代でそれぞれ 11.2%、11.7%となっている。

**(5)部落差別(同和問題)**

性別にみると、『参加した』は男性 11.4%・女性 10.1%と、男性の方が 1.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高く、30 歳代と 50 歳代では 9 割を超えている。『参加した』の割合は、40 歳代で 10.0%、60 歳代で 13.0%、70 歳以上で 13.5%となっている。

**(6)日本に居住している外国人の人権問題**

性別にみると、『参加した』は男性 5.9%・女性 3.0%と、男性の方が 2.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高く、70 歳未満の年齢層ではいずれも 9 割を超えている。

**(7)性的マイノリティの人権問題**

性別にみると、『参加した』は男性 7.6%・女性 6.1%と、男性の方が 1.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高く、60 歳未満の年齢層ではいずれも 9 割を超えている。『参加した』の割合は、40 歳代と 60 歳代でそれぞれ 10.0%、10.8%となっている。

**(8)インターネットにおける人権侵害**

性別にみると、『参加した』は男性 6.3%・女性 5.2%で、男性の方が 1.1 ポイント高い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高くなっている。『参加した』の割合は、10・20 歳代と 40 歳代でそれぞれ 9.7%、9.0%となっている。

**(9)HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題**

性別にみると、『参加した』は男性 3.8%・女性 2.3%で、男性の方が 1.5 ポイント高い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「参加したことがない」が最も高く、10・20 歳代と 30 歳代では『参加した』が 0%となっている。

※『参加した』は「1 回だけ参加した」と「2~4 回くらい参加した」と「5 回以上参加した」の合計をさす。

II 町民意識調査の結果

表28 人権問題に関するイベント等への参加状況

	回答者数(n)	(1) 女性の人権問題					(2) 子どもの人権問題					
		参加した 1回だけ	参加した 2〜4回くらい	参加した 5回以上	参加した ことがない	無回答	参加した 1回だけ	参加した 2〜4回くらい	参加した 5回以上	参加した ことがない	無回答	
全体	550	4.5	2.9	1.3	87.5	3.8	2.9	3.5	2.0	86.9	4.7	
性別	男性	236	4.2	4.2	1.7	86.9	3.0	3.8	3.4	1.7	88.1	3.0
	女性	307	4.9	2.0	1.0	87.9	4.2	2.3	3.6	2.3	86.0	5.9
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20歳代	41	7.3	-	-	92.7	-	2.4	2.4	-	95.1	-
	30歳代	65	4.6	-	-	93.8	1.5	1.5	1.5	1.5	93.8	1.5
	40歳代	89	4.5	3.4	-	91.0	1.1	3.4	5.6	2.2	87.6	1.1
	50歳代	103	5.8	2.9	3.9	87.4	-	5.8	1.9	3.9	88.3	-
	60歳代	93	5.4	3.2	-	89.2	2.2	4.3	4.3	1.1	87.1	3.2
	70歳以上	156	2.6	4.5	1.9	80.8	10.3	0.6	3.8	1.9	80.8	12.8

	回答者数(n)	(3) 高齢者の人権問題					(4) 障害者の人権問題					
		参加した 1回だけ	参加した 2〜4回くらい	参加した 5回以上	参加した ことがない	無回答	参加した 1回だけ	参加した 2〜4回くらい	参加した 5回以上	参加した ことがない	無回答	
全体	550	5.6	2.7	0.7	86.5	4.4	3.3	4.7	1.3	86.2	4.5	
性別	男性	236	6.8	3.0	0.8	86.4	3.0	3.4	5.1	1.3	87.7	2.5
	女性	307	4.9	2.6	0.7	86.6	5.2	3.3	4.6	1.3	85.0	5.9
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20歳代	41	2.4	-	-	97.6	-	4.9	2.4	-	92.7	-
	30歳代	65	3.1	-	-	95.4	1.5	1.5	3.1	1.5	92.3	1.5
	40歳代	89	3.4	3.4	-	92.1	1.1	2.2	7.9	1.1	87.6	1.1
	50歳代	103	7.8	1.9	1.0	89.3	-	3.9	3.9	3.9	88.3	-
	60歳代	93	8.6	2.2	-	86.0	3.2	5.4	4.3	-	88.2	2.2
	70歳以上	156	5.8	5.1	1.9	75.6	11.5	2.6	5.1	0.6	78.8	12.8

	回答者数(n)	(5) 部落差別(同和問題)					(6) 日本に居住している外国人の人権問題					
		参加した 1回だけ	参加した 2〜4回くらい	参加した 5回以上	参加した ことがない	無回答	参加した 1回だけ	参加した 2〜4回くらい	参加した 5回以上	参加した ことがない	無回答	
全体	550	4.9	4.4	1.5	84.9	4.4	2.0	1.6	0.5	90.7	5.1	
性別	男性	236	5.9	4.7	0.8	85.2	3.4	3.4	2.1	0.4	91.1	3.0
	女性	307	4.2	3.9	2.0	84.7	5.2	1.0	1.3	0.7	90.6	6.5
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20歳代	41	7.3	4.9	-	87.8	-	7.3	-	-	92.7	-
	30歳代	65	1.5	1.5	-	95.4	1.5	-	1.5	-	96.9	1.5
	40歳代	89	1.1	6.7	2.2	88.8	1.1	3.4	2.2	-	93.3	1.1
	50歳代	103	4.9	1.9	1.9	91.3	-	1.0	1.9	1.9	95.1	-
	60歳代	93	6.5	6.5	-	83.9	3.2	3.2	1.1	-	91.4	4.3
	70歳以上	156	7.1	3.8	2.6	74.4	12.2	0.6	1.9	0.6	83.3	13.5

表28 人権問題に関するイベント等への参加状況(続き)

	回答者数(n)	(7) 性的マイノリティの人権問題					(8) インターネットにおける人権侵害					
		1回だけ 参加した	2〜4回 くらい 参加した	5回以上 参加した	参加した ことが ない	無回答	1回だけ 参加した	2〜4回 くらい 参加した	5回以上 参加した	参加した ことが ない	無回答	
全体	550	3.3	2.7	0.7	88.4	4.9	2.4	2.7	0.5	89.3	5.1	
性別	男性	236	3.8	2.5	1.3	89.4	3.0	3.0	2.5	0.8	90.7	3.0
	女性	307	2.9	2.9	0.3	87.6	6.2	2.0	2.9	0.3	88.3	6.5
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20 歳代	41	4.9	2.4	-	92.7	-	4.9	2.4	2.4	90.2	-
	30 歳代	65	1.5	1.5	-	95.4	1.5	4.6	1.5	-	92.3	1.5
	40 歳代	89	2.2	6.7	1.1	88.8	1.1	3.4	4.5	1.1	89.9	1.1
	50 歳代	103	1.9	2.9	1.9	93.2	-	1.0	4.9	1.0	93.2	-
	60 歳代	93	9.7	1.1	-	86.0	3.2	3.2	3.2	-	89.2	4.3
	70 歳以上	156	1.3	1.9	0.6	82.7	13.5	0.6	0.6	-	85.3	13.5

	回答者数(n)	(9) HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題					
		1回だけ 参加した	2〜4回 くらい 参加した	5回以上 参加した	参加した ことが ない	無回答	
全体	550	1.5	1.1	0.4	92.2	4.9	
性別	男性	236	1.7	1.7	0.4	93.2	3.0
	女性	307	1.3	0.7	0.3	91.5	6.2
	任意記入者	3	-	-	-	100.0	-
年齢別	10・20 歳代	41	-	-	-	100.0	-
	30 歳代	65	-	-	-	98.5	1.5
	40 歳代	89	2.2	2.2	-	94.4	1.1
	50 歳代	103	1.0	-	1.0	98.1	-
	60 歳代	93	4.3	2.2	-	90.3	3.2
	70 歳以上	156	0.6	1.3	0.6	84.0	13.5

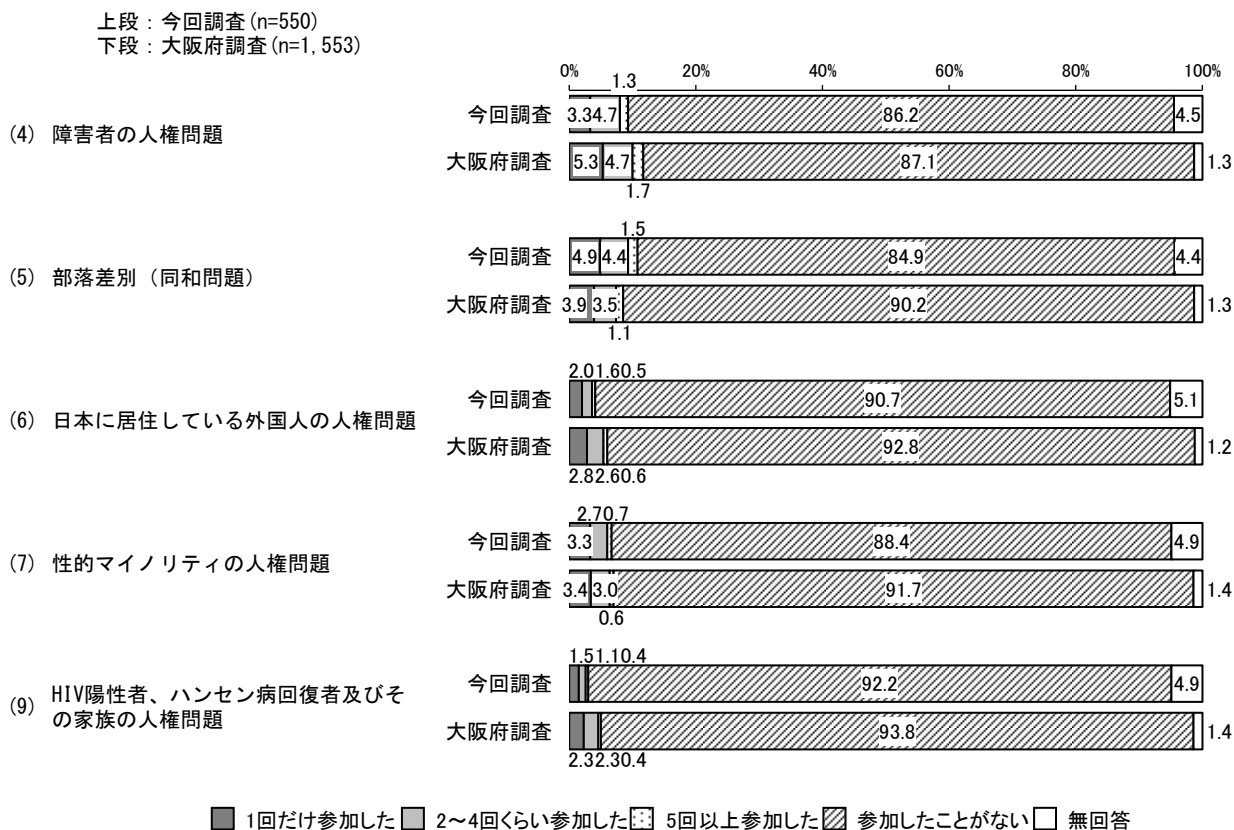
## II 町民意識調査の結果

### 大阪府調査との比較

大阪府調査(2020(令和2)年度)と比較すると、『参加した』の割合は「(5)部落差別(同和問題)」(今回調査 10.8%・大阪府調査 8.5%)では今回調査の方が 2.3 ポイント高くなっているが、その他の項目はいずれも大阪府調査の方が『参加した』の割合が高くなっている。

※『参加した』は「1回だけ参加した」と「2～4回くらい参加した」と「5回以上参加した」の合計をさす。

図30 人権問題に関するイベント等への参加状況(大阪府調査との比較)

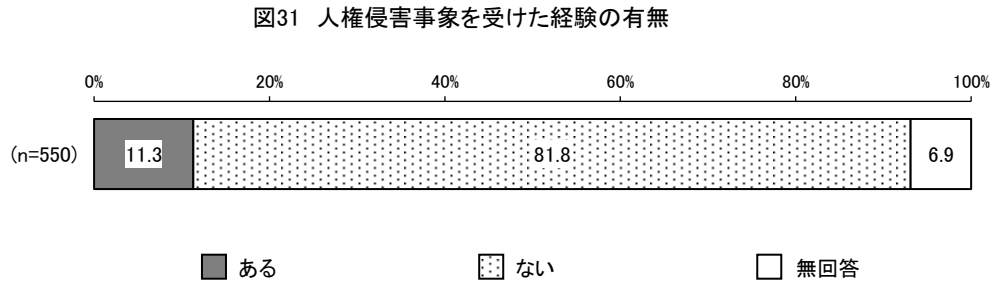


## 8 人権侵害事象を受けた経験

### 1. 人権侵害事象を受けた経験の有無

問 13 あなたは、最近5年間に人権侵害だと思える言動を受けたことがありますか。(いずれか1つに○)

人権侵害事象を受けた経験の有無について、「ある」が 11.3%、「ない」が 81.8%となっている。



性別にみると、「ある」は男性 6.8%・女性 14.7%となっており、女性の方が 7.9 ポイント高い。  
 年齢別にみると、「ある」は 40 歳代で 21.3%、30 歳代で 15.4%、50 歳代で 14.6%となっている。

表29 人権侵害事象を受けた経験の有無

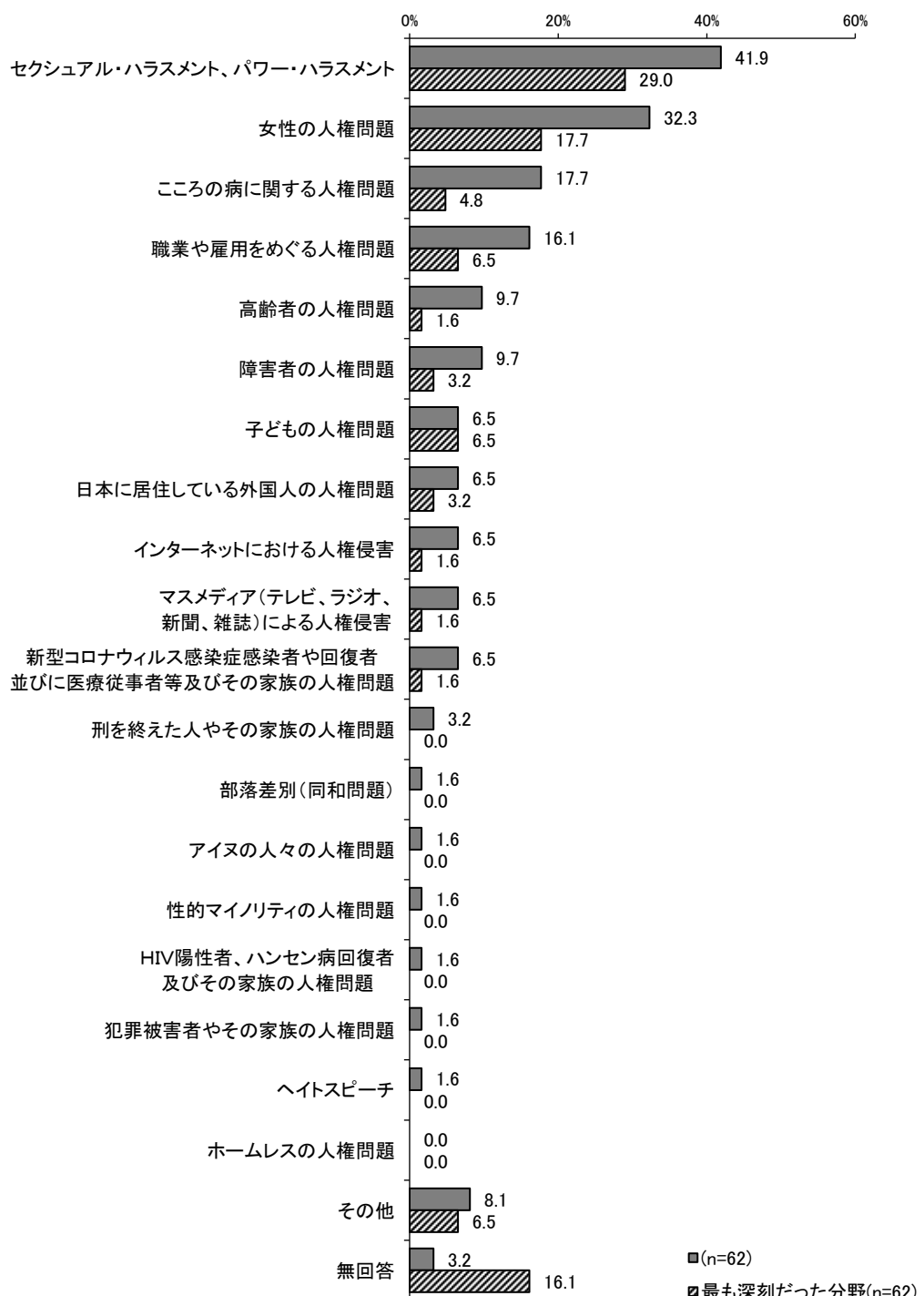
	回答者数 (n)	ある	ない	無回答
全体	550	11.3	81.8	6.9
性別	男性	6.8	85.6	7.6
	女性	14.7	78.8	6.5
	任意記入者	33.3	66.7	-
年齢別	10・20 歳代	9.8	87.8	2.4
	30 歳代	15.4	84.6	-
	40 歳代	21.3	74.2	4.5
	50 歳代	14.6	81.6	3.9
	60 歳代	3.2	92.5	4.3
	70 歳代	7.1	76.9	16.0
	70 歳以上	156	7.1	76.9

2. 受けた人権侵害事象の分野

問 13-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか。複数ある場合は、該当するものすべてに○をつけてください。また、そのうち最も深刻であったものに◎をつけてください。

受けた人権侵害事象の分野について、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が 41.9%で最も高く、次いで「女性の人権問題」が 32.3%、「こころの病に関する人権問題」が 17.7%、「職業や雇用をめぐる人権問題」が 16.1%となっている。そのうち最も深刻であった分野について、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が 29.0%で最も高く、次いで「女性の人権問題」が 17.7%、「職業や雇用をめぐる人権問題」、「子どもの人権問題」、「その他」がいずれも 6.5%となっている。

図32 受けた人権侵害事象の分野





性別にみると、男性は「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が 50.0% (8 件) で最も高く、次いで「こころの病に関する人権問題」が 18.8% (3 件)、「職業や雇用をめぐる人権問題」「障害者の人権問題」「新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題」がそれぞれ 12.5% (2 件) となっている。女性は、「女性の人権問題」が 42.2% (19 件) で最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が 37.8% (17 件)、「こころの病に関する人権問題」と「職業や雇用をめぐる人権問題」がともに 17.8% (8 件) となっている。

年齢別にみると、10・20 歳代は「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」「女性の人権問題」がともに 75.0% (3 件)、30 歳代は「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」「女性の人権問題」「こころの病に関する人権問題」「日本に居住している外国人の人権問題」がいずれも 20.0% (2 件)、40 歳代は「女性の人権問題」が 47.4% (9 件)、50 歳代と 60 歳代は「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」がそれぞれ 60.0% (9 件)、100.0% (3 件)、70 歳以上は「高齢者の人権問題」が 45.5% (5 件) で最も高くなっている。

表30 受けた人権侵害事象の分野

	回答者数 (n)	セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント	女性の人権問題	こころの病に関する人権問題	職業や雇用をめぐる人権問題	高齢者の人権問題	障害者の人権問題	子どもの人権問題	日本に居住している外国人の人権問題	インターネットにおける人権侵害	新聞、雑誌による人権侵害	マスメディア(テレビ、ラジオ、等及びその家族の人権問題)	新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題
全体	62	41.9	32.3	17.7	16.1	9.7	9.7	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	
性別	男性	16	50.0	6.3	18.8	12.5	6.3	12.5	-	6.3	-	12.5	
	女性	45	37.8	42.2	17.8	17.8	11.1	8.9	8.9	6.7	8.9	4.4	
	任意記入者	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
年齢別	10・20 歳代	4	75.0	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	-	
	30 歳代	10	20.0	20.0	20.0	10.0	-	-	10.0	20.0	10.0	10.0	
	40 歳代	19	42.1	47.4	21.1	26.3	-	10.5	5.3	-	-	-	
	50 歳代	15	60.0	13.3	13.3	-	-	20.0	-	-	6.7	6.7	
	60 歳代	3	100.0	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
	70 歳以上	11	9.1	18.2	18.2	27.3	45.5	-	9.1	9.1	18.2	18.2	

	回答者数 (n)	刑を終えた人やその家族の人権問題	部落差別(同和問題)	アイヌの人々の人権問題	性的マイノリティの人権問題	家族の人権問題	HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	ヘイトスピーチ	ホームレスの人権問題	その他	無回答
全体	62	3.2	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	-	8.1	3.2	
性別	男性	16	-	-	-	-	-	-	-	6.3	-	
	女性	45	4.4	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	6.7	4.4	
	任意記入者	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
年齢別	10・20 歳代	4	25.0	-	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-
	30 歳代	10	-	-	-	-	-	-	10.0	-	10.0	10.0
	40 歳代	19	-	-	-	-	-	-	-	-	10.5	-
	50 歳代	15	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	6.7
	60 歳代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70 歳以上	11	9.1	9.1	9.1	-	-	-	-	-	9.1	-

II 町民意識調査の結果

最も深刻であった人権侵害事象の分野を性別にみると、男性は「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が50.0%(8件)、女性は「女性の人権問題」が24.4%(11件)で最も高くなっている。

年齢別にみると、30歳代は「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」と「女性の人権問題」、40歳代は「女性の人権問題」、50歳代は「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」の割合が最も高くなっている。

表31 最も深刻であった人権侵害事象の分野

	回答者数(n)	セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント	女性の人権問題	こころの病に関する人権問題	職業や雇用をめぐる人権問題	高齢者の人権問題	障害者の人権問題	子どもの人権問題	日本に居住している外国人の人権問題	インターネットにおける人権侵害	マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌)による人権侵害	新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題
全体	62	29.0	17.7	4.8	6.5	1.6	3.2	6.5	3.2	1.6	1.6	1.6
性別	男性	16	50.0	-	12.5	12.5	6.3	6.3	-	-	-	6.3
	女性	45	22.2	24.4	2.2	4.4	-	2.2	8.9	4.4	2.2	-
	任意記入者	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	10・20歳代	4	50.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-
	30歳代	10	20.0	20.0	10.0	-	-	10.0	10.0	-	-	-
	40歳代	19	21.1	26.3	5.3	15.8	-	5.3	5.3	5.3	-	-
	50歳代	15	60.0	6.7	6.7	-	-	6.7	-	-	-	6.7
	60歳代	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	11	-	9.1	-	9.1	9.1	-	9.1	9.1	-	-

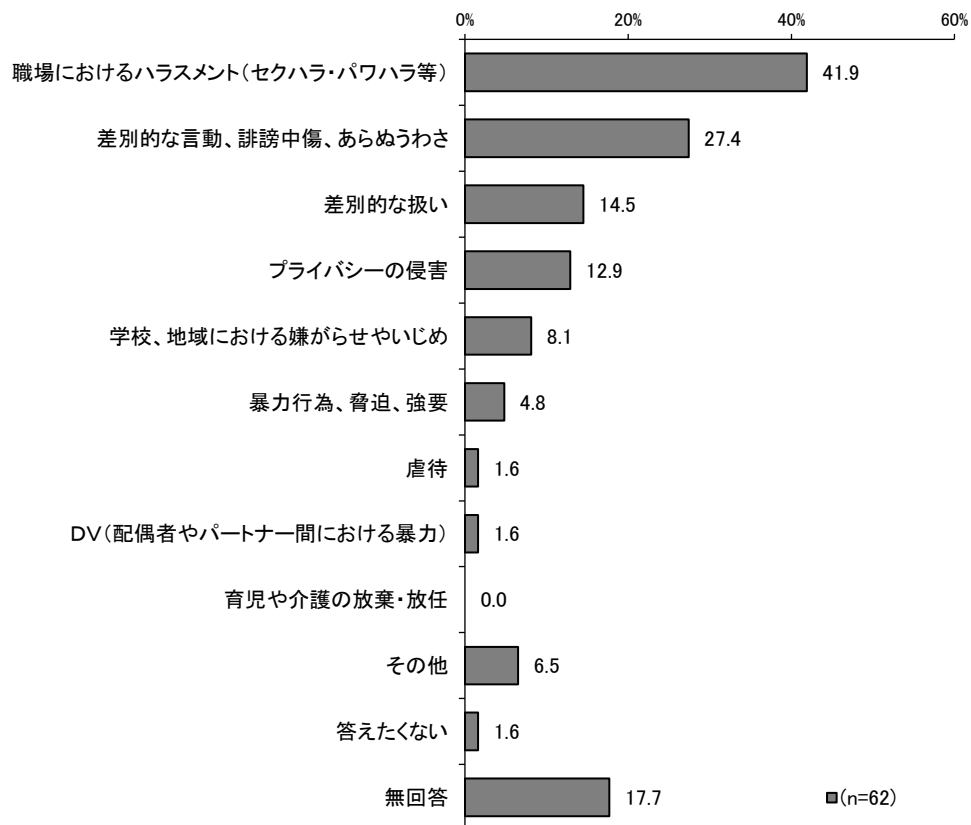
	回答者数(n)	刑を終えた人やその家族の人権問題	部落差別(同和問題)	アイヌの人々の人権問題	性的マイノリティの人権問題	HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	ヘイトスピーチ	ホームレスの人権問題	その他	無回答
全体	62	-	-	-	-	-	-	-	6.5	16.1	
性別	男性	16	-	-	-	-	-	-	6.3	-	
	女性	45	-	-	-	-	-	-	4.4	22.2	
	任意記入者	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
年齢別	10・20歳代	4	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30歳代	10	-	-	-	-	-	-	10.0	20.0	
	40歳代	19	-	-	-	-	-	-	5.3	10.5	
	50歳代	15	-	-	-	-	-	-	6.7	6.7	
	60歳代	3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	
	70歳以上	11	-	-	-	-	-	-	9.1	36.4	

## 3. 受けた人権侵害事象の内容

問 13-2 問 13-1 で◎をつけた最も深刻であったものに対してお答えください。それはどのような内容でしたか。(〇はいくつでも)

受けた人権侵害事象の内容について、「職場におけるハラスメント(セクハラ・パワハラ等)」が 41.9%で最も高く、次いで「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が 27.4%、「差別的な扱い(人種・信条・性別・社会的身分・出生地等により、職業・雇用や結婚等の社会生活のうえで不平等又は不利益な扱いをされた)」が 14.5%、「プライバシーの侵害」が 12.9%となっている。

図33 受けた人権侵害事象の内容



## II 町民意識調査の結果

性別にみると、「職場におけるハラスメント(セクハラ・パワハラ等)」(男性 50.0% 8 件・女性 40.0% 18 件)は男性の方が、「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」(男性 18.8% 3 件・女性 31.1% 14 件)、「学校、地域における嫌がらせやいじめ」(男性 0.0% 0 件・女性 11.1% 5 件)は女性の方が10ポイント以上高くなっている。

年齢別にみると、30～50 歳代のいずれも「職場におけるハラスメント(セクハラ・パワハラ等)」の割合が最も高く、加えて30 歳代は「差別的な扱い」、40 歳代は「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」の割合も最も高くなっている。

表32 受けた人権侵害事象の内容

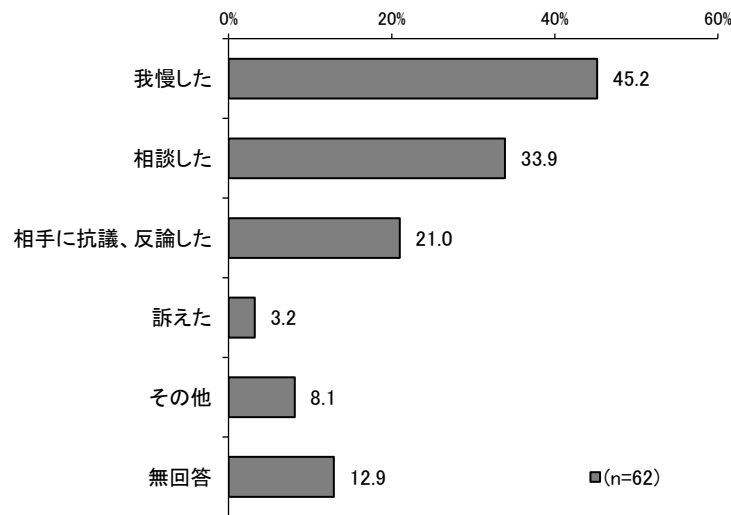
	回答者数(n)	職場におけるハラスメント (セクハラ・パワハラ等)	差別的な言動、誹謗中傷、 あらぬうわさ	差別的な扱い	プライバシーの侵害	学校、地域における嫌が らせやいじめ	暴力行為、脅迫、強要	虐待	DV(配偶者やパートナ ー間における暴力)	育児や介護の放棄・放任	その他	答えたくない	無回答
全体	62	41.9	27.4	14.5	12.9	8.1	4.8	1.6	1.6	-	6.5	1.6	17.7
性別													
男性	16	50.0	18.8	12.5	18.8	-	6.3	6.3	-	-	6.3	-	12.5
女性	45	40.0	31.1	15.6	11.1	11.1	2.2	-	2.2	-	6.7	2.2	20.0
任意記入者	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
年齢別													
10・20 歳代	4	75.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-
30 歳代	10	30.0	-	30.0	-	-	-	-	-	-	10.0	10.0	20.0
40 歳代	19	47.4	47.4	15.8	10.5	10.5	15.8	-	5.3	-	-	-	10.5
50 歳代	15	60.0	20.0	13.3	20.0	-	-	-	-	-	6.7	-	13.3
60 歳代	3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-	-
70 歳以上	11	9.1	36.4	9.1	9.1	18.2	-	9.1	-	-	-	-	45.5

4. 人権侵害事象を受けた際の対応

問 13-3 そのことに対して、どう対応しましたか。(〇はいくつでも)

人権侵害事象を受けた際の対応について、「我慢した」が45.2%で最も高く、次いで「相談した」が33.9%、「相手に抗議、反論した」が21.0%となっている。

図34 人権侵害事象を受けた際の対応



性別にみると、「我慢した」は男性 62.5% (10 件)・女性 40.0% (18 件)で男性の方が 22.5 ポイント高く、「相談した」は男性 43.8% (7 件)・女性 28.9% (13 件)で、女性の方が 14.9 ポイント低くなっている。

年齢別にみると、30～50 歳代ではいずれも「我慢した」の割合が最も高く、50 歳代では 66.7% (10 件)となっている。

表33 人権侵害事象を受けた際の対応

	回答者数 (n)	我慢した	相談した	相手に抗議、反論した	訴えた	その他	無回答	
全体	62	45.2	33.9	21.0	3.2	8.1	12.9	
性別	男性	62.5	43.8	25.0	-	6.3	-	
	女性	40.0	28.9	20.0	4.4	8.9	17.8	
	任意記入者	1	-	100.0	-	-	-	
年齢別	10・20 歳代	4	50.0	50.0	25.0	25.0	-	-
	30 歳代	10	40.0	10.0	20.0	10.0	-	20.0
	40 歳代	19	52.6	36.8	21.1	-	15.8	5.3
	50 歳代	15	66.7	40.0	13.3	-	6.7	6.7
	60 歳代	3	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-
	70 歳以上	11	-	36.4	27.3	-	-	36.4

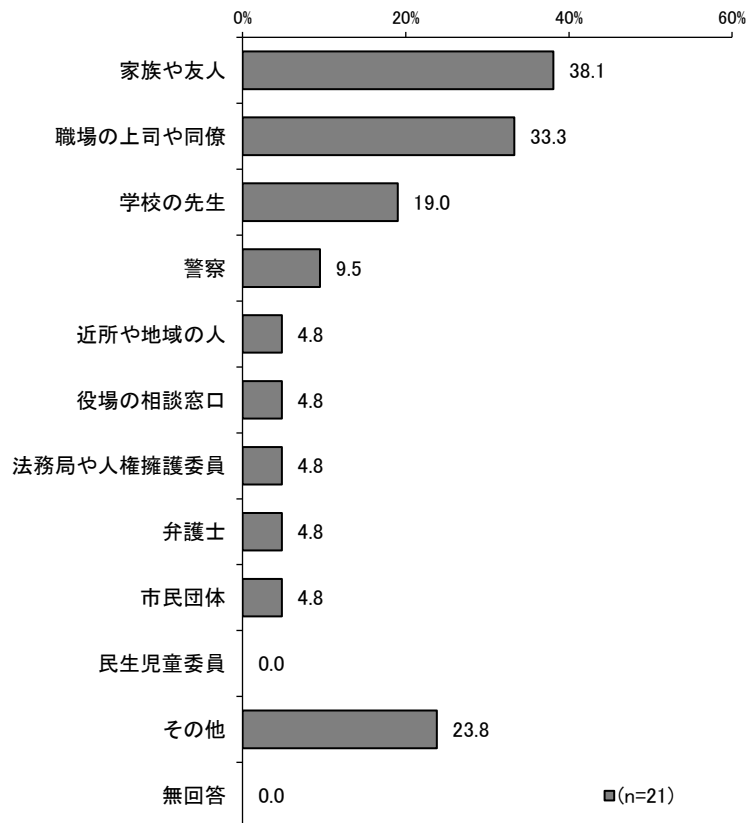
## II 町民意識調査の結果

### 5. 人権侵害事象を受けた際の相談先

問 13-4 問 13-3 で「相談した」と答えた方におうかがいします。どこ（誰）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

人権侵害事象を受けた際の相談先について、「家族や友人」が 38.1%で最も高く、次いで「職場の上司や同僚」が 33.3%、「学校の先生」が 19.0%となっている。

図35 人権侵害事象を受けた際の相談先



性別にみると、男性は「職場の上司や同僚」が 57.1% (4 件)、女性は「家族や友人」が 61.5% (8 件) で最も高くなっている。

年齢別にみると、40 歳代は「家族や友人」と「職場の上司や同僚」がともに 42.9% (3 件)、50 歳代は「職場の上司や同僚」と「その他」がともに 50.0% (3 件) となっている。

表34 人権侵害事象を受けた際の相談先

	回答者数(n)	家族や友人	職場の上司や同僚	学校の先生	警察	近所や地域の人の	役場の相談窓口	員 法務局や人権擁護委員	弁護士	市民団体	民生児童委員	その他	無回答
全体	21	38.1	33.3	19.0	9.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	-	23.8	-
性別													
男性	7	-	57.1	-	14.3	-	-	-	-	14.3	-	42.9	-
女性	13	61.5	23.1	30.8	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	-	-	7.7	-
任意記入者	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
年齢別													
10・20 歳代	2	50.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30 歳代	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
40 歳代	7	42.9	42.9	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-	28.6	-
50 歳代	6	33.3	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
60 歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70 歳以上	4	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-

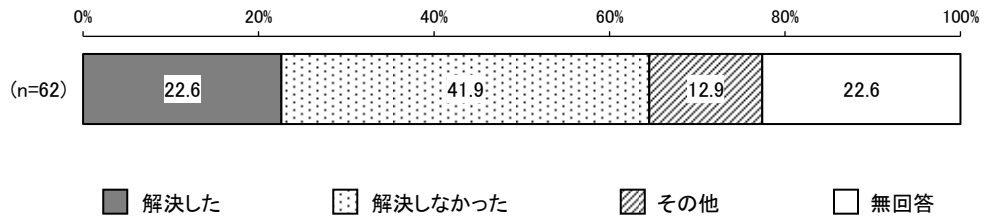
II 町民意識調査の結果

6. 人権侵害事象の結果

問 13-5 そのことは最終的に解決しましたか。(いずれか1つに○)

人権侵害事象の結果について、「解決しなかった」が41.9%で、「解決した」が22.6%となっている。

図36 人権侵害事象の結果



性別にみると、男性は「解決した」(37.5% 6件)、女性は「解決しなかった」(46.7% 21件)の割合が最も高くなっている。

年齢別にみると、70歳未満の年齢層はいずれも「解決しなかった」の割合が最も高くなっている。

表35 人権侵害事象の結果

	回答者数(n)	解決した	解決しなかった	その他	無回答
全体	62	22.6	41.9	12.9	22.6
性別	男性	37.5	31.3	18.8	12.5
	女性	17.8	46.7	8.9	26.7
	任意記入者	-	-	100.0	-
年齢別	10・20歳代	-	100.0	-	-
	30歳代	10.0	30.0	10.0	50.0
	40歳代	31.6	42.1	10.5	15.8
	50歳代	20.0	40.0	26.7	13.3
	60歳代	33.3	66.7	-	-
	70歳以上	27.3	27.3	9.1	36.4

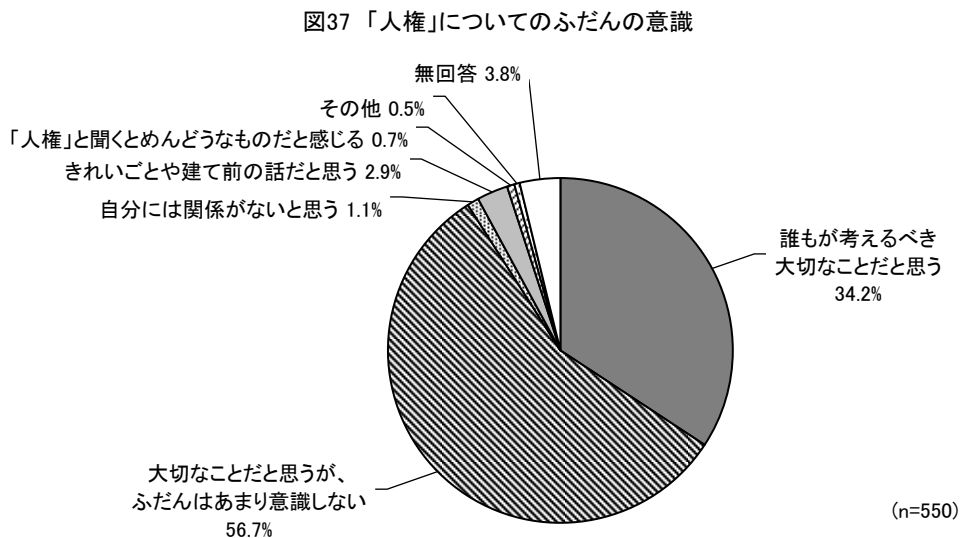


## 9 人権問題解決のための取り組みについて

### 1. 「人権」についてのふだんの意識

問 14 あなたは、「人権」について、ふだんどのように意識していますか。(いずれか1つに○)

「人権」についてのふだんの意識について、「大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない」が 56.7%で最も高く、次いで「誰もが考えるべき大切なことだと思う」が 34.2%となっている。



性別にみると、「誰もが考えるべき大切なことだと思う」は男性 30.9%・女性 36.8%と、女性の方が 5.9 ポイント高く、男性は「大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない」が 59.7%と女性の 55.4%より 4.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40 歳代以外はいずれも「大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない」の割合が最も高く、特に 30 歳代では 73.8%と高くなっている。40 歳代では「誰もが考えるべき大切なことだと思う」が 48.3%で最も高くなっている。

表36 「人権」についてのふだんの意識

	回答者数(○)	誰もが考えるべき大切なことだと思う	大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない	自分には関係がないと思う	きれいごとや建て前の話だと思う	「人権」と聞くとめんどろなものであると感じる	その他	無回答
全体	550	34.2	56.7	1.1	2.9	0.7	0.5	3.8
性別	男性	236	30.9	59.7	0.8	3.0	1.7	3.4
	女性	307	36.8	55.4	1.3	2.6	-	3.3
	任意記入者	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	36.6	56.1	2.4	2.4	2.4	-
	30 歳代	65	21.5	73.8	-	3.1	-	1.5
	40 歳代	89	48.3	42.7	-	3.4	-	1.1
	50 歳代	103	33.0	60.2	1.0	2.9	1.0	1.0
	60 歳代	93	33.3	60.2	1.1	4.3	-	1.1
	70 歳以上	156	32.7	54.5	1.9	1.9	1.3	-

## II 町民意識調査の結果

人権意識スコア別にみると、高いグループでは「誰もが考えるべき大切なことだと思う」の回答割合が高い傾向で、低いグループでは「大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない」「自分には関係がないと思う」「きれいごとや建て前の話だと思う」が高い傾向がみられる。

表37 人権意識スコア別「人権」についてのふだんの意識

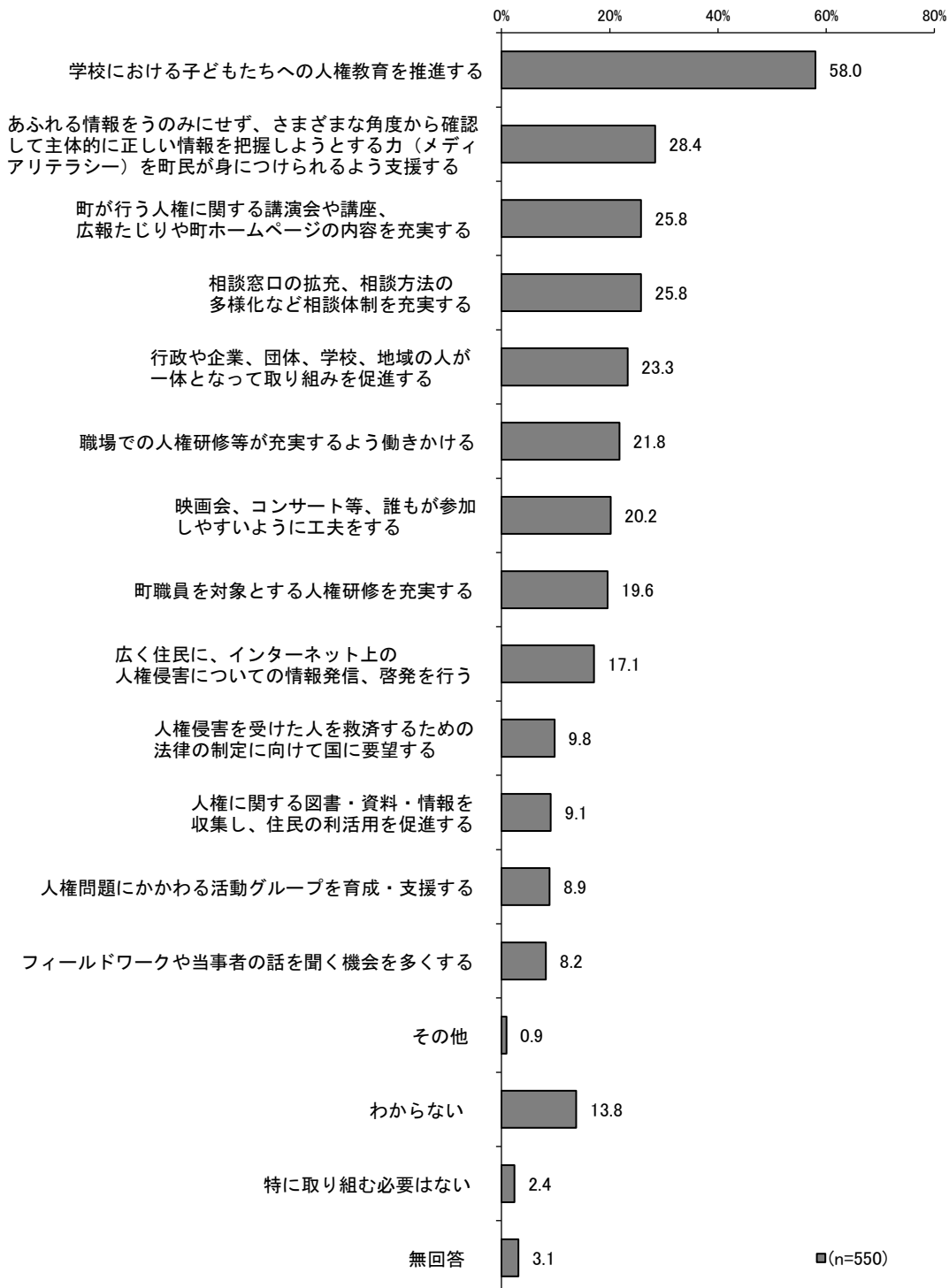
		回答者数(n)	誰もが考えるべき大切なことだと思う	大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない	自分には関係がないと思う	きれいごとや建て前の話だと思う	「人権」と聞くとめんどろなものだと感じる
全体		550	34.2	56.7	1.1	2.9	0.7
人権や差別についての考え方・態度スコア	高	169	55.6	42.6	-	-	-
	中	170	30.6	62.9	0.6	2.4	0.6
	低	172	18.6	66.3	2.3	5.8	1.2
人権問題別意識・関心スコア(女性)	高	188	48.9	45.7	-	2.7	-
	中	154	27.9	63.0	-	3.9	1.3
	低	177	26.0	64.4	2.8	2.8	1.1
人権問題別意識・関心スコア(子ども)	高	174	41.4	52.9	-	2.9	-
	中	171	35.7	57.3	-	3.5	-
	低	183	26.8	61.2	2.7	2.7	2.2
人権問題別意識・関心スコア(高齢者)	高	178	47.2	48.3	-	1.7	-
	中	176	31.8	60.8	-	3.4	-
	低	168	24.4	64.3	3.0	3.0	2.4
人権問題別意識・関心スコア(障害者)	高	167	50.3	45.5	-	1.8	-
	中	181	29.8	62.4	0.6	2.2	-
	低	174	24.1	63.8	2.3	4.0	2.3
人権問題別意識・関心スコア(部落差別(同和問題))	高	187	48.1	47.6	-	1.6	-
	中	168	28.6	61.3	-	4.2	1.2
	低	173	25.4	65.3	2.9	2.3	1.2
人権問題別意識・関心スコア(外国人)	高	172	47.7	47.7	-	1.2	-
	中	167	32.9	59.3	1.8	3.0	0.6
	低	174	24.7	64.4	1.1	4.0	1.7
人権問題別意識・関心スコア(性的マイノリティ)	高	176	52.3	42.6	-	1.7	-
	中	167	34.1	60.5	0.6	2.4	-
	低	174	19.0	68.4	2.3	4.0	2.3
人権問題別意識・関心スコア(インターネットにおける人権侵害)	高	247	44.5	49.4	-	2.8	0.4
	中	92	33.7	62.0	-	1.1	-
	低	178	23.6	64.0	2.8	3.4	1.7

2. 人権問題解決のために田尻町が取り組むべきこと

問 15 あなたは、人権問題解決のために、田尻町ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

人権問題解決のために田尻町が取り組むべきことについて、「学校における子どもたちへの人権教育を推進する」が58.0%で6割近くが掲げているが、その他の項目を掲げたのは3割以下となっている。

図38 人権問題解決のために田尻町が取り組むべきこと



II 町民意識調査の結果

性別にみると、「町が行う人権に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する」(男性 33.1%・女性 20.5%)は男性の方が 12.6 ポイント、「映画会、コンサート等、誰もが参加しやすいように工夫をする」(男性 15.3%・女性 24.4%)は女性の方が 9.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「学校における子どもたちへの人権教育を推進する」の割合が最も高く、これに次いで 50 歳未満の年齢層では「あふれる情報をうのみにせず、さまざまな角度から確認して主体的に正しい情報を把握しようとする力(メディアリテラシー)を町民が身につけられるよう支援する」、50 歳代では「相談窓口の拡充、相談方法の多様化など相談体制を充実する」、60 歳以上の年齢層では「町が行う人権に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する」の割合が高くなっている。

表38 人権問題解決のために田尻町が取り組むべきこと

	回答者数(n)	学校における子どもたちへの人権教育を推進する	あふれる情報をうのみにせず、さまざまな角度から確認して主体的に正しい情報を把握しようとする力(メディアリテラシー)を町民が身につけられるよう支援する	町が行う人権に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する	相談窓口の拡充、相談方法の多様化など相談体制を充実する	行政や企業、団体、学校、地域の人が一体となって取り組みを促進する	職場での人権研修等が充実するよう働きかける	映画会、コンサート等、誰もが参加しやすいように工夫をする	町職員を対象とする人権研修を充実する	広く住民に、インターネット上の人権侵害についての情報発信、啓発を行う	人権侵害を受けた人を救済するための法律の制定に向けて国に要望する	
全体	550	58.0	28.4	25.8	25.8	23.3	21.8	20.2	19.6	17.1	9.8	
性別	男性	236	59.7	29.2	33.1	23.7	23.7	15.3	19.9	19.9	10.2	
	女性	307	57.0	27.4	20.5	27.7	23.1	22.1	19.5	14.7	9.1	
	任意記入者	3	66.7	66.7	33.3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	
年齢別	10・20 歳代	41	63.4	29.3	17.1	22.0	14.6	26.8	12.2	14.6	9.8	7.3
	30 歳代	65	64.6	41.5	13.8	24.6	20.0	24.6	18.5	23.1	15.4	10.8
	40 歳代	89	67.4	32.6	19.1	21.3	30.3	24.7	22.5	16.9	23.6	14.6
	50 歳代	103	58.3	34.0	28.2	35.0	20.4	26.2	17.5	20.4	20.4	8.7
	60 歳代	93	65.6	22.6	36.6	35.5	24.7	21.5	24.7	23.7	21.5	10.8
	70 歳以上	156	44.9	20.5	29.5	18.6	24.4	15.4	21.2	18.6	11.5	7.7

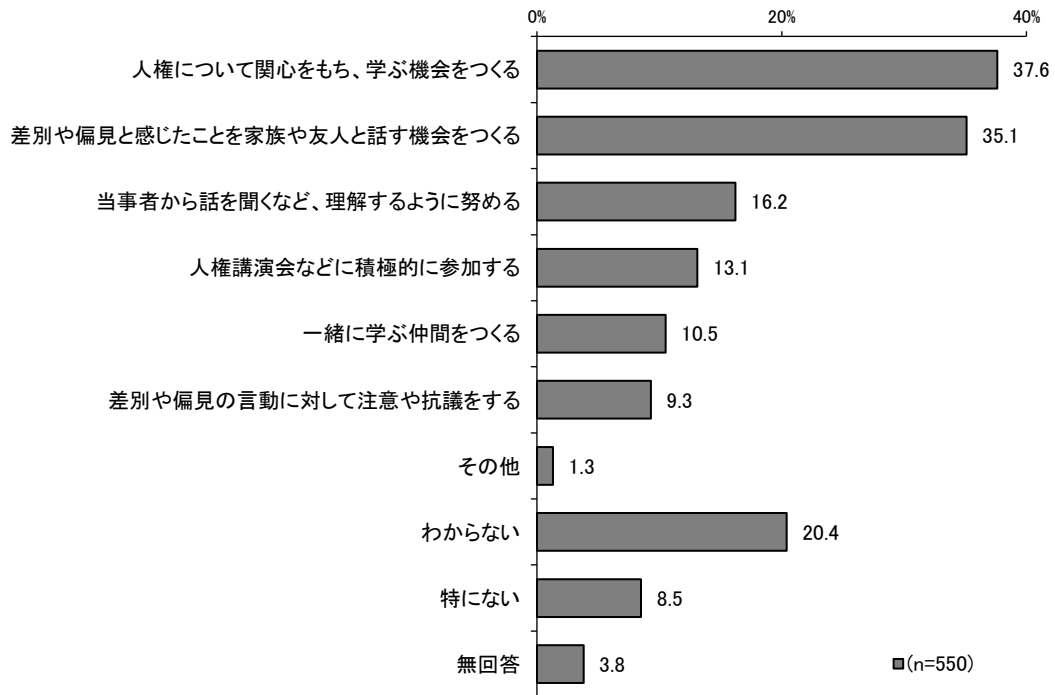
	回答者数(n)	人権に関する図書・資料・情報を収集し、住民の利活用を促進する	人権問題にかかわる活動グループを育成・支援する	フィードバックや当事者の話を聞く機会を多くする	その他	わからない	特に取り組む必要はない	無回答	
全体	550	9.1	8.9	8.2	0.9	13.8	2.4	3.1	
性別	男性	236	9.7	9.3	8.5	0.8	12.7	3.8	2.1
	女性	307	8.5	8.8	8.1	1.0	14.7	1.3	2.9
	任意記入者	3	33.3	-	-	-	33.3	-	-
年齢別	10・20 歳代	41	9.8	4.9	9.8	-	17.1	2.4	2.4
	30 歳代	65	10.8	3.1	9.2	3.1	10.8	4.6	-
	40 歳代	89	7.9	5.6	9.0	-	11.2	1.1	-
	50 歳代	103	9.7	13.6	10.7	1.9	11.7	1.0	2.9
	60 歳代	93	8.6	12.9	9.7	-	15.1	-	-
	70 歳以上	156	9.0	9.0	4.5	0.6	16.7	4.5	6.4

3. 人権問題解決のために自身ができること

問 16 人権問題の解決のために、あなたはどのようなことができますか。(〇はいくつでも)

人権問題解決のために自身ができることについて、「人権について関心をもち、学ぶ機会をつくる」(37.6%)と「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」(35.1%)がほぼ同じ割合で、他の項目は 2 割以下となっている。一方、「わからない」が 20.4%、「特にない」が 8.5%となっている。

図39 人権問題解決のために自身ができること



## II 町民意識調査の結果

性別にみると、「人権講演会などに積極的に参加する」(男性 16.1%・女性 11.1%)は男性の方が 5.0 ポイント高く、「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」(男性 33.1%・女性 37.1%)、「一緒に学ぶ仲間をつくる」(男性 7.6%・女性 13.0%)は女性の方がそれぞれ 4.0 ポイント、5.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、10・20 歳代、30 歳代、50 歳代、70 歳以上は「人権について関心をもち、学ぶ機会をつくる」、40 歳代と 60 歳代では「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」の割合が最も高くなっている。また、10・20 歳代では「当事者から話を聞くなど、理解するように努める」(22.0%)と「一緒に学ぶ仲間をつくる」(22.0%)、30 歳代では「当事者から話を聞くなど、理解するように努める」(23.1%)、40 歳代では「差別や偏見の言動に対して注意や抗議をする」(18.0%)が約 2 割となっている。

表39 人権問題解決のために自身ができること

	回答者数(n)	人権について関心をもち、学ぶ機会をつくる	差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる	当事者から話を聞くなど、理解するように努める	人権講演会などに積極的に参加する	一緒に学ぶ仲間をつくる	差別や偏見の言動に対して注意や抗議をする	その他	わからない	特にない	無回答
全体	550	37.6	35.1	16.2	13.1	10.5	9.3	1.3	20.4	8.5	3.8
性別											
男性	236	37.3	33.1	16.1	16.1	7.6	10.2	0.8	18.6	10.2	3.8
女性	307	37.8	37.1	16.6	11.1	13.0	8.1	1.6	22.1	7.2	2.9
任意記入者	3	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	33.3	-
年齢別											
10・20 歳代	41	41.5	36.6	22.0	12.2	22.0	9.8	-	17.1	12.2	2.4
30 歳代	65	44.6	41.5	23.1	4.6	10.8	9.2	4.6	15.4	7.7	-
40 歳代	89	43.8	49.4	15.7	6.7	10.1	18.0	1.1	14.6	7.9	1.1
50 歳代	103	46.6	34.0	17.5	16.5	7.8	8.7	1.9	17.5	5.8	2.9
60 歳代	93	34.4	37.6	12.9	18.3	6.5	5.4	-	29.0	4.3	-
70 歳以上	156	26.9	23.7	13.5	15.4	12.2	7.1	0.6	23.7	12.8	8.3

人権意識スコア別にみると、高いグループでは「人権について関心をもち、学ぶ機会をつくる」など自ら行動することの回答割合が高い傾向で、低いグループでは「わからない」が高い傾向がみられる。

表40 人権意識スコア別 人権問題解決のために自身ができること

		回答者数(n)	人権について関心をもち、学ぶ機会をつくる	差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる	差別や偏見と感ずることを家族や友人と話す機会をつくる	当事者から話を聞くなど、理解するよう努める	人権講演会などに積極的に参加する	一緒に学ぶ仲間をつくる	差別や偏見の言動に対して注意や抗議をする	その他	わからない	特になし
全体		550	37.6	35.1	16.2	13.1	10.5	9.3	1.3	20.4	8.5	
人権や差別についての考え方・態度スコア	高	169	55.6	48.5	26.6	23.7	12.4	15.4	0.6	9.5	1.8	
	中	170	41.8	35.3	12.9	11.8	10.0	10.0	1.2	20.0	7.6	
	低	172	20.9	24.4	10.5	7.0	8.7	2.9	1.7	31.4	15.1	
人権問題別意識・関心スコア(女性)	高	188	48.4	44.7	23.4	15.4	13.3	12.2	2.7	16.5	2.1	
	中	154	40.3	33.8	13.6	11.7	7.8	9.7	1.3	18.2	9.7	
	低	177	27.7	27.1	11.9	11.9	10.7	6.8	-	27.1	13.6	
人権問題別意識・関心スコア(子ども)	高	174	46.6	47.7	19.0	16.1	12.1	10.9	1.7	16.7	3.4	
	中	171	46.2	31.0	20.5	12.9	10.5	12.9	2.3	19.3	6.4	
	低	183	24.6	27.9	10.4	10.4	9.3	5.5	-	25.7	14.2	
人権問題別意識・関心スコア(高齢者)	高	178	45.5	45.5	21.3	16.9	12.4	13.5	1.1	16.9	4.5	
	中	176	43.2	32.4	19.3	13.1	11.9	9.7	-	19.3	7.4	
	低	168	28.6	29.8	9.5	10.1	8.3	6.0	2.4	25.6	11.3	
人権問題別意識・関心スコア(障害者)	高	167	49.1	46.7	22.8	18.6	15.0	13.8	1.2	16.8	1.2	
	中	181	44.8	35.9	16.6	12.2	7.7	9.4	1.7	16.6	8.8	
	低	174	24.1	25.9	11.5	9.8	10.3	6.3	0.6	28.7	13.2	
人権問題別意識・関心スコア(部落差別(同和問題))	高	187	52.9	51.9	22.5	18.7	12.8	12.8	1.1	12.3	3.2	
	中	168	39.3	28.0	14.9	11.9	10.1	9.5	1.8	23.2	6.5	
	低	173	22.5	25.4	12.1	9.2	9.8	5.8	0.6	26.6	15.0	
人権問題別意識・関心スコア(外国人)	高	172	51.7	50.6	25.0	18.6	12.8	12.2	1.2	12.8	2.3	
	中	167	39.5	32.3	13.2	12.6	9.0	13.2	1.2	22.2	7.8	
	低	174	27.6	25.3	12.6	9.8	10.3	2.9	1.1	24.7	14.4	
人権問題別意識・関心スコア(性的マイノリティ)	高	176	53.4	50.0	23.9	17.6	13.6	13.6	2.3	11.4	2.8	
	中	167	38.9	36.5	18.0	15.6	12.0	9.6	1.2	19.2	6.0	
	低	174	25.9	22.4	9.8	8.0	7.5	5.7	-	29.3	15.5	
人権問題別意識・関心スコア(インターネットにおける人権侵害)	高	247	47.0	43.7	19.8	17.0	11.7	13.8	1.2	15.0	4.5	
	中	92	44.6	40.2	18.5	16.3	13.0	7.6	1.1	15.2	5.4	
	低	178	26.4	24.7	12.9	7.3	9.6	5.1	1.1	29.2	14.0	

## Ⅲ 田尻町人権に関する町民意識調査を受けて

関西大学社会学部 教授

内田 龍史

大阪府では2020(令和2)年に調査<sup>1</sup>を実施しており、府全体の人権に関する意識の状況は把握できるが、「人権行政推進基本方針・基本計画」を策定するための基礎資料として、田尻町が独自に調査を行って住民意識を把握することは、今後の方針を検討し庁内の関係部署と連携して取り組みを進めていくうえで意義のあることである。以下では、本調査結果を見て、筆者のこれまでの意識調査の経験と照らして感じたことを述べる。

人権のイメージ(問1)は、全体としては「平等」「権利」「差別」を選択する人が多いが、年齢別でみると若年層は「自由」が、高齢層は「義務」が多いなど、年齢によってとらえ方に異なる傾向があることがうかがえる。それぞれの人権問題においては個別の視点が求められるが、人権概念については誰もがもつ人としての基本的な権利であるという普遍的な価値を住民に届けていく必要がある。特に、高齢層に対してより一層その理解を促していくことが必要である。

特に深刻と認識されている人権問題(問2-1)では、「子どもの人権問題」「インターネットにおける人権侵害」が上位に挙げられているなど全体的な傾向は、大阪府や他市町の傾向と同様である。私の専門である「部落差別(同和問題)」に着目すると、大阪市の調査<sup>2</sup>では2.5%、大阪府調査でも6.4%と低いのに比べると田尻町の15.1%は高い割合である。なお、この設問の結果を解釈するうえで気をつけるべきことは、ここで上位に挙げられているからといって、その人権問題を優先するのではなく、いずれの人権問題も重要であることを念頭においてもらいたい。

部落差別(同和問題)の結婚差別に関する設問(問5)については、高齢層は反対する人が多く、若年層は反対しない人が多い傾向である。この設問で「わからない」の回答が多いのは、若年層ほど部落差別について学んでいない傾向があるので、知らないから判断がつかないという現実があると考えられ、それは他市町の調査でも同様である。はっきり「反対する」人は少ないが、「やむを得ない」を含めると約25%で4分の1を占める。差別の実態をまずは知ってもらったうえで、なくしていくべき差別だと認識してもらうことが重要である。

部落差別の解決(問6)については、「解決に向けて自分にできることは取り組みたい」が2割を切っており、かなり人まかせ、他人ごとのような結果になっている。他県で行っている調査で同様の設問の経年変化をみると、「自分も積極的に取り組まなければいけない」という意見が仮に建て前であったとしても以前は多かったが、調査をするごとに減ってきているのが現状である。どの人権問題でも当事者が差別をなくそうとだけでは解決せず、当事者でない人もしっかり問題を認識して行動を起こさないと社会は変革されないのが厳しい結果である。部落差別(同和問題)に関しては重点課題であるということがこの結果から感じられる。関心のある人は一定数いるが、自分からは動こうとしないという状況をどう変えていくかが課題である。

人権や差別をめぐる考え方(問7)では、「差別されている人がまず努力する」「差別されている人にも問題がある」「抗議することでかえって解決しにくくなる」「権利ばかり主張する人が増えている」「福祉に頼らず個人が努力すべき」といった意識は、近年の新自由主義的な自己責任論につながる意識であり、差別の責任を被差別当事者に負わせる考えである。こうした意識をもつ人とそうでない人とで認識が二分されている。大阪府調査と比較した結果をみると、自己責任論的な意識が大阪府に比べてやや高い傾向がみられるものの大きく

<sup>1</sup> 人権問題に関する府民意識調査(大阪府、2020(令和2)年度)

<sup>2</sup> 令和2年度人権問題に関する市民意識調査(大阪市)



は違っていない。

差別は社会の仕組みが生み出していて、行政や当事者以外の人も含めて社会全体で解決していかなければならない問題だが、そうではないという認識が一定広がっていることを危惧する。

年齢別では、30歳代にその傾向が強いことが分かる。他市町の調査でもその傾向は共通しており、その年代の意識実態が田尻町の調査結果でも現れているということである。30歳代がこのままの意識で、今後の社会を動かす中心的な世代になるとすると、差別が放置され、人権がないがしろにされかねないので、この年代にどのように啓発していくかは大きな課題である。この年代は、仕事や子育てなどで慌ただしい年代である。

メディア利用の調査結果をみると、若年層でインターネット、SNSの利用が高く、インターネットにおける人権侵害の認知率も高いので、人権問題全般に関心をもってもらうために、インターネット上の人権侵害や誹謗中傷の問題を啓発していくという入り口から広げていくのは可能性があると考えられる。ただし、そのためにはWEBメディアの発信をかなり意図的にやらないと届かないだろう。情報化社会のなかで、良くも悪くも人権問題にかかわってインターネットの重要性が増しているので、「人権行政推進基本方針・基本計画」の策定において、インターネット上の人権侵害は大きなトピックになる。

法律や条例の認知状況(問8)は人権の認識に大きく関連する設問である。人権の認識を高めるためには共通の理解が必要であり、その前提となる知識・認識が法律や条例認知である。行政の立場では、住民におけるこれらの認知はひとつの人権行政の基準であり、周知して認知度を上げていくことが目標となる。今後は5年後、10年後にも調査を実施して認知度を今よりも上げることを目標にしていきたい。「世界人権宣言」や「国際人権規約」などは、あることは知っている人は多いが、内容・趣旨までしっかり知っている人を増やしていくことで、先に指摘した自己責任や当事者責任論を克服する考え方を広げていくことになる。いわゆる人権三法(障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法)にしても、制定から5年を経過して一定の認知が広がっているが、まだ半数くらいは知らないという状況だ。引き続きいねいに周知していくことに努めていきたい。

年齢別にみると、若年層に認知がやや高い傾向がみられるのは、最近の新しい情報なので若年層の方が情報に接する機会が多いことが影響していると考えられる。特に「SDGs」は、大学、企業、行政などが積極的に発信していて50歳代以下の認知度は高いが、60歳代以上には情報が届いていないことがうかがえる。この結果は、情報が届いていない年齢層に集中して啓発に取り組むうえでの基礎資料になるものだ。

田尻町の取り組みの認知状況(問9)については、施策の現状に対するひとつの評価だといえる。この結果をみて、町としてどこを伸ばしていくのかを考える時の資料になる。

相談窓口(問10)は、知っている人は多いが、知らない人も一定割合いる。相談窓口は知られていないと意味がないので、知らない人をできるだけ減らしていかなければならない。相談する必要があるときには相談窓口の情報を調べたりしないが、相談窓口があることを知っている人を増やせば増やすほど、実際に困ったときに相談につながるので、認知されていることは重要になる。

人権問題の学習状況(問11)に関しては、どの人権問題についても概ね若年層は学校での学習経験が中心となっている。若年層では学校での人権学習が広がっている様子がうかがえるなかで、特徴的なのが部落差別(同和問題)である。10・20歳代の小学校で受けた経験が顕著に低い。これは大阪府調査でも同様の傾向がみられている。大阪府では、小学校で受けた割合が40歳代では約6割に対して20歳代では約2割と極めて大きな差がある。

若年層で、部落差別(同和問題)を知らない人が増えているという現実の背景には、小学校の段階での人権教育の変化が挙げられる。2002(平成14)年に同和对策事業特別措置法が終了し、人権教育の課題はたくさんあるなかで部落差別(同和問題)の優先順位が下がってきたということが大きい。調査結果をみても、障

### Ⅲ 田尻町人権に関する町民意識調査を受けて

害者、子ども、女性などは若年層ほど小学校・中学校で学習している。このこと自体は良いことだが、学習時間が限られるなかで優先順位をつけるとこうなってくる。重要な人権問題であっても、学習や啓発の機会が減少すると、その認識は低くなる。そのことへの危機感から部落差別解消推進法が制定され、同和問題(部落差別)に関する教育・啓発の推進が規定されていることを改めて認識する必要がある。

性的マイノリティの課題は、かつてはほとんど取り上げられていなかったが、若年層の学習は増えている。インターネットにおける人権侵害も同様である。これらは、それぞれ社会状況の反映とみることができる。今後は、教育部局と連携しながら、現状の数値をもっと高めていくために後押しする施策が必要である。

人権問題に関するイベント等への参加(問 12)は、それほど多くない。大阪府調査でも同様の傾向であり、参加者が固定化していて新たな参加者を増やすのが難しいという点は共通していると考えられる。参加したことがない人が大半を占める現状のなかで参加者をどのように増やしていくのかは「人権行政推進基本方針・基本計画」策定における大きな課題のひとつである。

人権侵害を受けた経験の有無(問 13)は、「ある」が約 1 割で、40 歳代の人が多く、内容はセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントが多いという結果は、他市町の調査結果と概ね共通しており傾向は変わらない。この結果を受け止めたうえで、人権侵害を受けた人がきちんと相談につながれるかどうか、というところが行政的に問われる点である。

人権侵害を受けたときの対応(問 13-3)は、相談した人よりも我慢した人の方が多い。相談した人も公的な相談窓口よりも家族や職場の身近な人に相談している。一般的に、よほどひどい事象でなければ行政や専門的な相談窓口相談しようと思うことは少ないと考えられるが、もう少し行政が住民から頼られてもよい。行政の相談につながるような仕掛けがあるとよい。相談窓口は多いほうがよいので、選択肢を広げるような情報発信もしていくべきである。

人権についての意識(問 14)では、ネガティブな内容の回答はわずかだが、ふだんはあまり意識しないという回答が多いのは、他市町の調査とも同様の傾向である。

田尻町が取り組む必要があること(問 15)は、住民からの要望なのでどれも大切であり、要望を受け止めて「人権行政推進基本方針・基本計画」に具体的に反映することを検討していただきたい。

次に、「人権行政推進基本方針・基本計画」の策定においては、人権教育・人権啓発は大きな柱となることから、そのことについて述べる。

田尻町は、海外の外交官や研究者が来日した際に利用する日本語研修施設が町内にあり、近年は外国人住民も増加しているという状況だが、人権擁護審議会の委員からは外国人の人権に対する意識が低い傾向への懸念が示されている。

外国人の人権問題については、当事者理解が最も基本となる。文化や歴史的背景が異なる外国人と接するときに、知識がないことで不安に感じたり、避けたりすることが起こり得るが、知る・学ぶことで、そうしたことが避けられる。当事者との交流・出会いが、差別や偏見の解消には重要であり、座学による知識の習得だけでなく実際にふれあったり、交流したりすることが大切である。

このことは、障害者、高齢者、性的マイノリティ、被差別部落の人びとなど社会的マイノリティに対しても同様で、当事者から話を聞くなどの交流事業を通じて、マジョリティ側が当事者と出会って、当事者がしんどい状況にあるのは私たちがそうさせているからだと感じきっかけが必要である。

部落差別(同和問題)の解決についての考えに対して他人ごとの意識が強まる傾向であると述べたが、これは大きな課題で一筋縄では行かないと感じている。どのような人権問題についても自分ごとにするためには、

まずは課題があることを認識しないとできない。そのきっかけになるのが「種まき」としての学校教育である。社会のなかでこんな現状があることを子どもたちが知り、大人になってどのように解決していくのかを考えるきっかけという位置づけである。その「種まき」があるかどうかは非常に大切で、こういう課題があると知って社会に出ると、知らないまま出るとは、人権問題に出会った時の向き合い方が全く違う。たとえば小学校の人権教育では、みんなの人権が大切、私もあなたも大切にされないといけない、だけど大切にされていない人がいる、それはみんなでなくしていかないといけない、などといった展開で、共通する人権感覚を持たせる。そういった人権感覚が養えていたら、大人になって自己責任論的な考えに接したとしても、それはおかしいと判断できるが、そうでなければ、誤った情報をうのみにしてしまう恐れがある。

また、人権問題を自分ごとにするのは、人によって「刺さる(共感する)言葉」が違うことを認識しておく必要がある。その人がその時に置かれている状況によって、どんな言葉が刺さるかわからない。あとから気づくこともある。教育や啓発は効果測定が難しいが、あきらめずに粘り強く何度も何度も手を変え品を変えやっていくしかないと思うが、自分も人権問題を解決できる主体である、自分が動けば社会が変わるかもしれない、という感覚を身につけていくことがカギになる。

人権問題の最初の出会いが偏見や誤った情報で、それが内面化されると、差別意識や偏見を払拭するのが難しいので、最初に接するのがポジティブな情報であることが重要である。部落差別(同和問題)であれば、部落に対して「怖い」「治安が悪い」というイメージが残念ながら根強いが、自分たちのまちを良くしていこうと積極的に活動している地域は多く、実際に訪れてみると、インターネットや世間の噂が間違いと気づける。

最近では、小学校でもインターネットを学習のツールとして使うようになっているので、学校での地域学習で子どもたちが地域のことを調べようとしたときに、そこが部落だという情報とセットになって検索されることが現実起こっている。最初の出会いで差別や偏見が植え付けられないようにすることは喫緊の課題である。

女性の人権や障害者の人権など、多くの人権問題に共通するのは、本人が選べないことで人を見下したり、排除したりするのはおかしいということ、当事者が声をあげることで差別の認識が変わっていった歴史がある。差別を受けた人が立ち上がったからこそ、以前に比べて状況が改善されてきた。今年、水平社宣言百年の節目の年である。部落の人たちが声をあげて多くの人の共感を呼んだ。水平社が立ち上がって差別が認識されるようになり社会が変わっていった歴史を知ってもらうチャンスでもある。

学校の人権教育については、近年は、教員養成課程で部落差別(同和問題)や同和教育を十分に学ぶ機会が減少している。若手の教員の多くは、自分たちが部落差別(同和問題)を学校で学んだ経験が少なく、教員として指導する知識や経験もないので子どもたちに教えられない状況である。教員に対しても、人権研修・人権問題に関する研修をきちんと推進していくことが当然に重要なことである。

小学校は、人権意識を養成するための「種まき」の時期なので、人として普遍的な価値や生まれたところや育ったところで人を貶めたり、仲間はずれにしたりするのは良くないということを伝えて人権感覚を育むことが重要である。最近では、部落が食肉生産や皮革生産といった職業で人々の生活を支えてきた人たちという視点での取り組みも増えている。

中学校では子どもたちの社会性も広がってくるので、歴史や社会状況、インターネット上で問題になっていることなどもっと詳しく知る段階である。

ということで、小学校では本当に基礎的な人権感覚を身につけさせることをめざせばよいと考えるが、そのためにも、教員自身が人権感覚を磨き、人権問題に対する正しい認識を持つておくことが必要である。

### Ⅲ 田尻町人権に関する町民意識調査を受けて

最後に、今回田尻町が「人権行政推進基本方針・基本計画」を策定するための基礎資料とすべく、初めて人権に関する住民意識を把握するための調査を行ったことは意義のあることだと先に述べたとおりである。その調査結果である本報告書や様々な基礎データをベースとして、庁内連携を図りながら、「人権行政推進基本方針・基本計画」を策定し、人権の取り組みを積極的に進めていくことを期待したい。

今後は、本調査結果を真に生きたものとして活用していくためにも、計画に基づく施策実施の進捗管理に努めるとともに、定期的かつ継続的に調査を重ね、経時的に住民意識の変化の把握にも努めていただければと考える。

## IV 職員意識調査の結果

### 【職員意識調査設計】

- ①調査対象：田尻町職員(2021(令和3)年10月1日現在)
- ②標本数：128人
- ③調査方法：手渡しによる配布と回収箱投函による回収及びインターネット回答
- ④調査期間：2021(令和3)年11月16日～12月7日

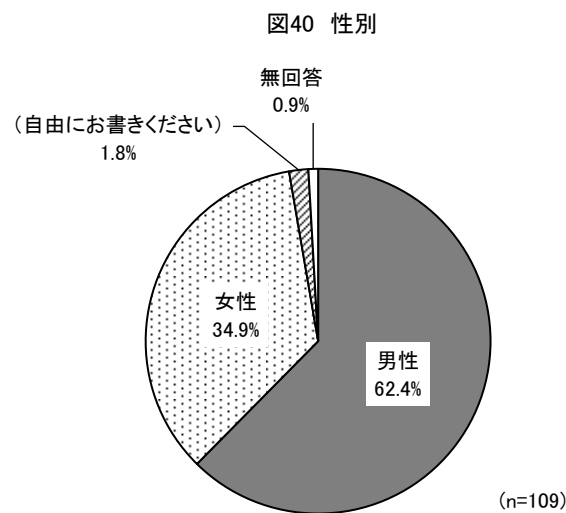
### 【回収結果】

	標本数	回収数 (回収率)	無効数	有効回収数 (有効回収率)
職員意識調査	128件	109件 (85.2%)	-	109件 (85.2%)
紙調査票回収	-	28件	-	28件
インターネット回答	-	81件	-	81件

## 1 回答者の属性

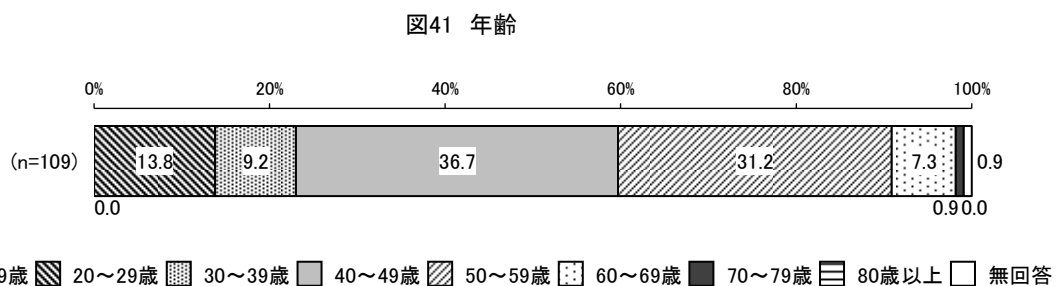
### 1. 性別

性別について、「男性」が62.4%で最も高く、次いで「女性」が34.9%、「(自由にお書きください)」が1.8%となっている。



### 2. 年齢

年齢について、「40～49歳」が36.7%で最も高く、次いで「50～59歳」が31.2%、「20～29歳」が13.8%、「30～39歳」が9.2%となっている。

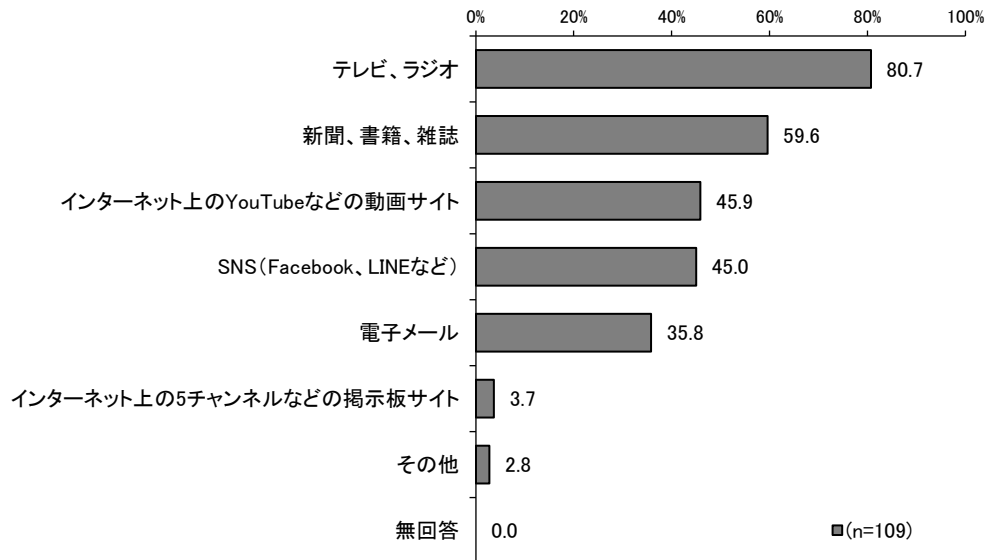


#### IV 職員意識調査の結果

### 3. 利用メディア

利用するメディアについて、「テレビ、ラジオ」が 80.7%で最も高く、次いで「新聞、書籍、雑誌」が 59.6%、「インターネット上の YouTube などの動画サイト」が 45.9%、「SNS (Facebook、LINE など)」が 45.0%となっている。

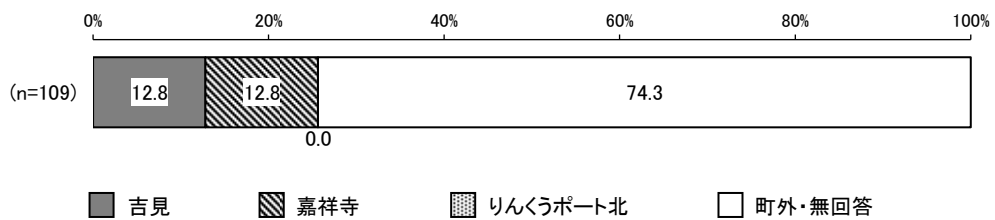
図42 利用メディア



### 4. 居住地区

居住地区について、町内の居住は、「吉見」と「嘉祥寺」がともに 12.8%となっている。

図43 居住地区



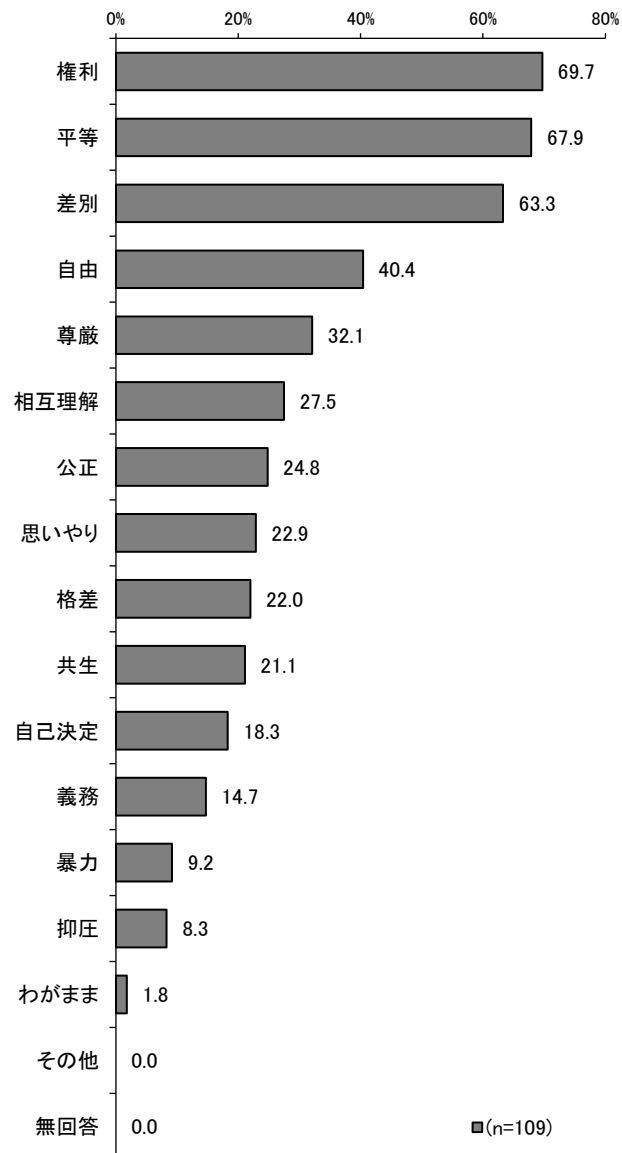
## 2 人権問題の認知状況

### 1. 「人権」と聞いたときに思いつく言葉

問1 あなたが「人権」と聞いたとき、思いつく言葉は何ですか。(〇はいくつでも)

「人権」と聞いたときに思いつく言葉について、「権利」が 69.7%で最も高く、次いで「平等」が 67.9%、「差別」が 63.3%となっている。

図44 「人権」と聞いたときに思いつく言葉

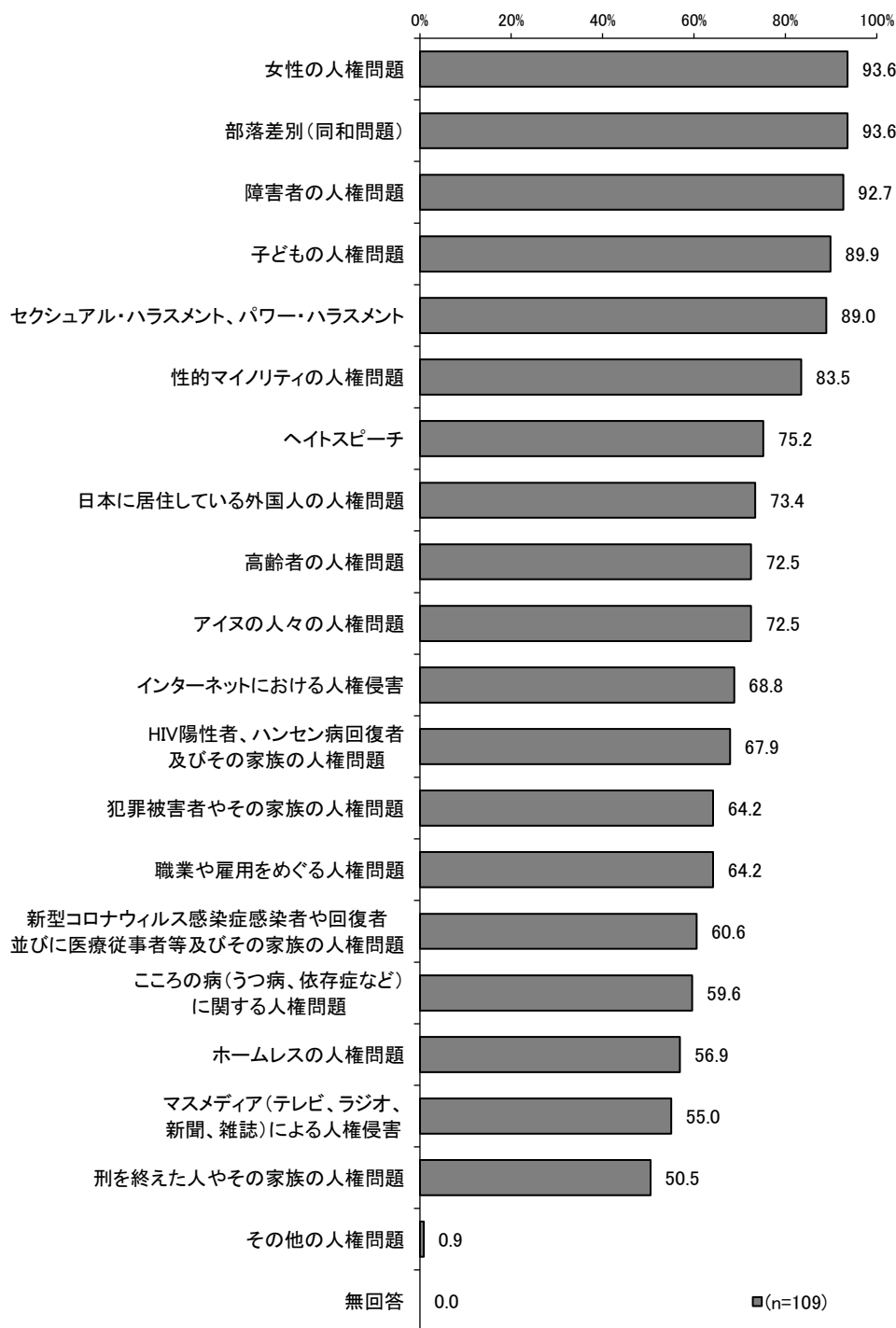


2. 個別の人権問題の認知

問2 あなたが多少なりとも知っている人権問題を次のなかから選んでください。(〇はいくつでも)

個別の人権問題の認知について、「女性の人権問題」と「部落差別(同和問題)」がともに 93.6%で最も高く、次いで「障害者の人権問題」が 92.7%、「子どもの人権問題」が 89.9%、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が 89.0%となっている。総じて、町民に比べると認知は高い。

図45 個別の人権問題の認知



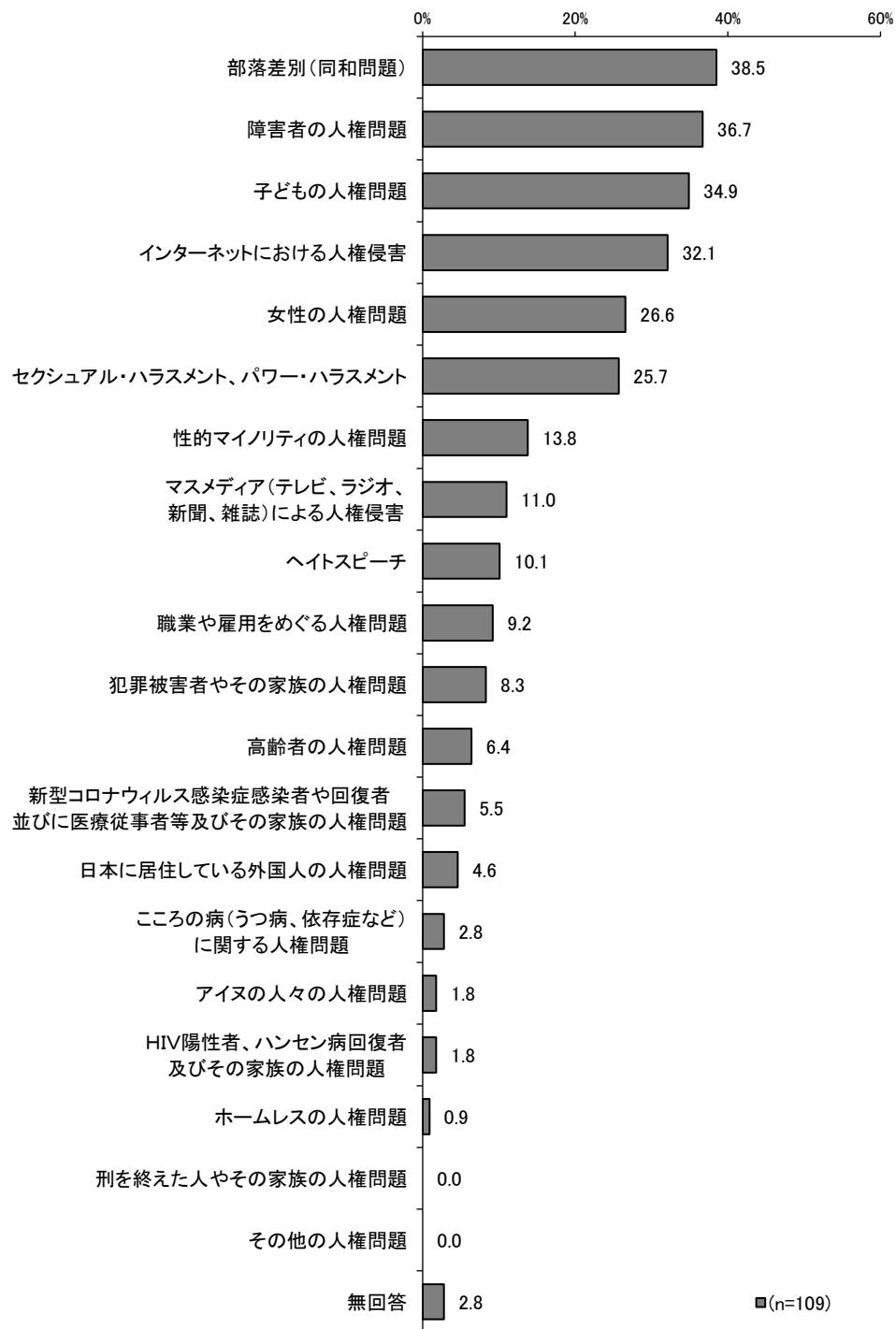


## 3. 特に人権上の深刻な問題

問2-1 問2のさまざまな人権問題のなかで、あなたが、特に人権上の深刻な問題と考えるものは、1～20のうちどれですか。(該当する番号を3つ記入)

特に人権上の深刻な問題について、「部落差別(同和問題)」が38.5%で最も高く、次いで「障害者の人権問題」が36.7%、「子どもの人権問題」が34.9%、「インターネットにおける人権侵害」が32.1%となっている。

図46 特に人権上の深刻な問題



### 3 様々な人権問題への意識

#### 1. 人権上問題があると思うこと

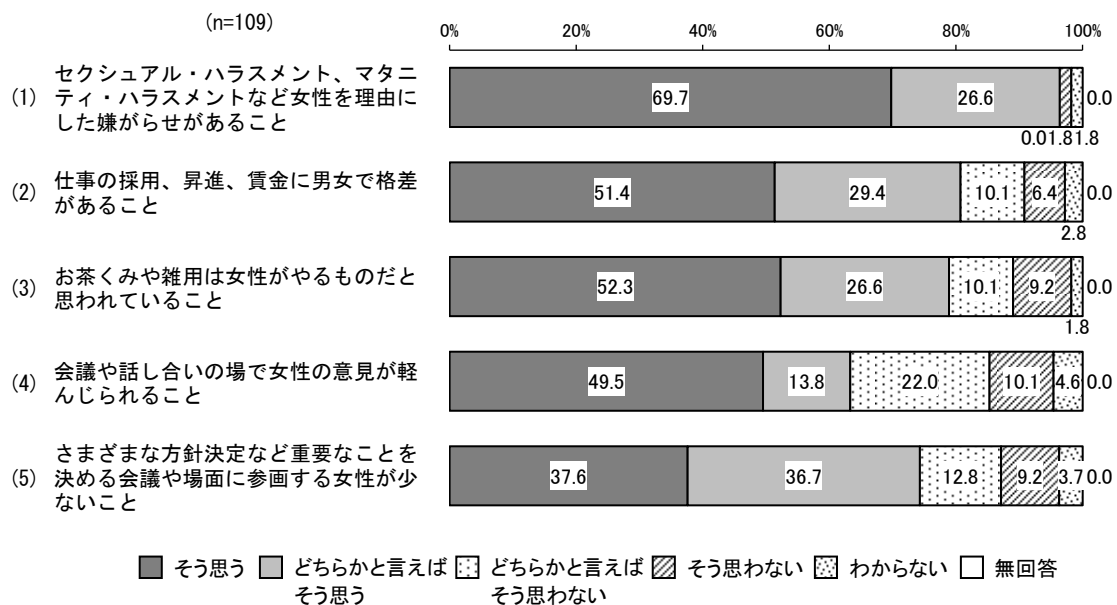
問3 あなたは、次のようなことを人権上、問題があると思いますか。(それぞれについて、いずれか1つに○)

#### 女性の人権

女性の人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(1)セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど女性を理由にした嫌がらせがあること」が 96.3%で最も高く、次いで「(2)仕事の採用、昇進、賃金に男女で格差があること」が 80.8%、「(3)お茶くみや雑用は女性がやるものだと思われること」が 78.9%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図47 女性の人権に関して問題があると思うこと

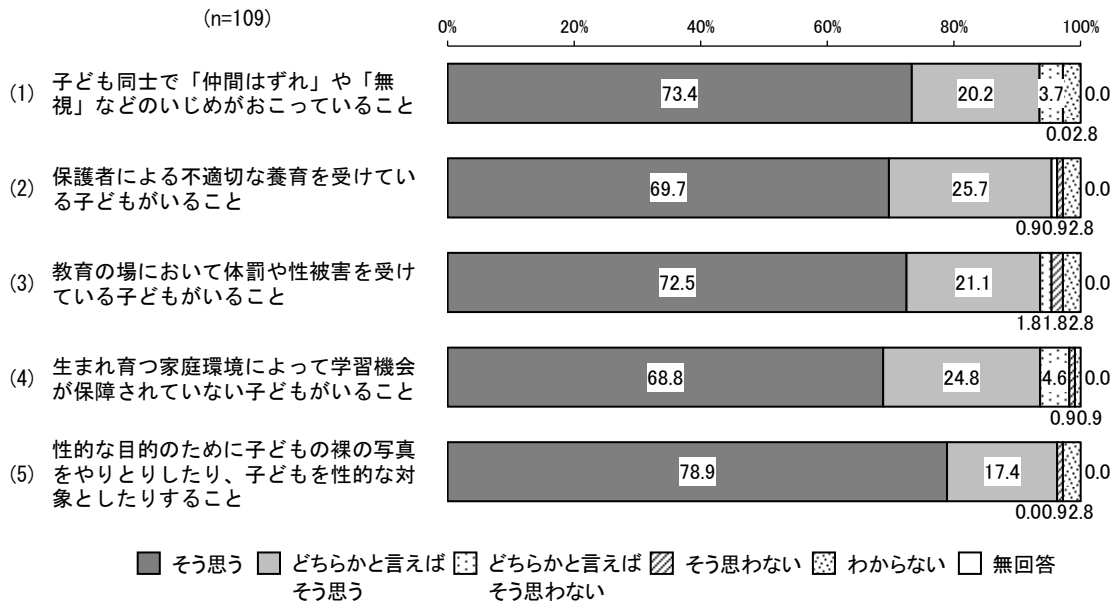


子どもの人権

子どもの人権で人権上問題があると思うことについて、いずれの項目も『そう思う』が9割を超えており、特に「(5)性的な目的のために子どもの裸の写真をやとりしたり、子どもを性的な対象としたりすること」が96.3%で最も高く、次いで「(2)保護者による不適切な養育を受けている子どもがいること」が95.4%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図48 子どもの人権に関して問題があると思うこと

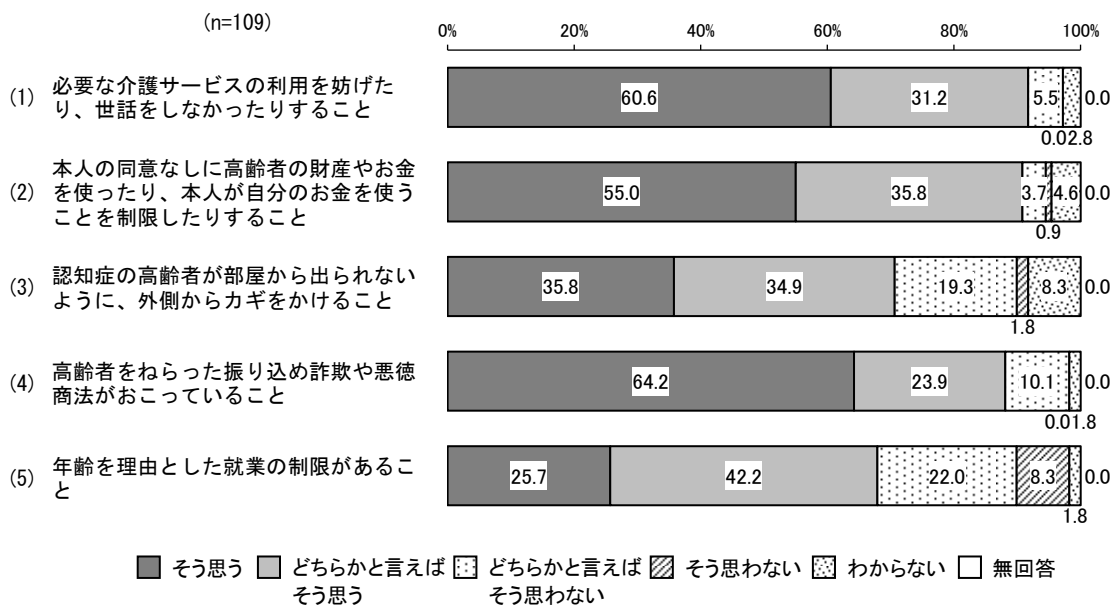


高齢者の人権

高齢者の人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(1)必要な介護サービスの利用を妨げたり、世話をしなかつたりすること」が 91.8%で最も高く、次いで「(2)本人の同意なしに高齢者の財産やお金を使ったり、本人が自分のお金を使うことを制限したりすること」が 90.8%、「(4)高齢者をねらった振り込め詐欺や悪徳商法がおこっていること」が 88.1%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図49 高齢者の人権に関して問題があると思うこと

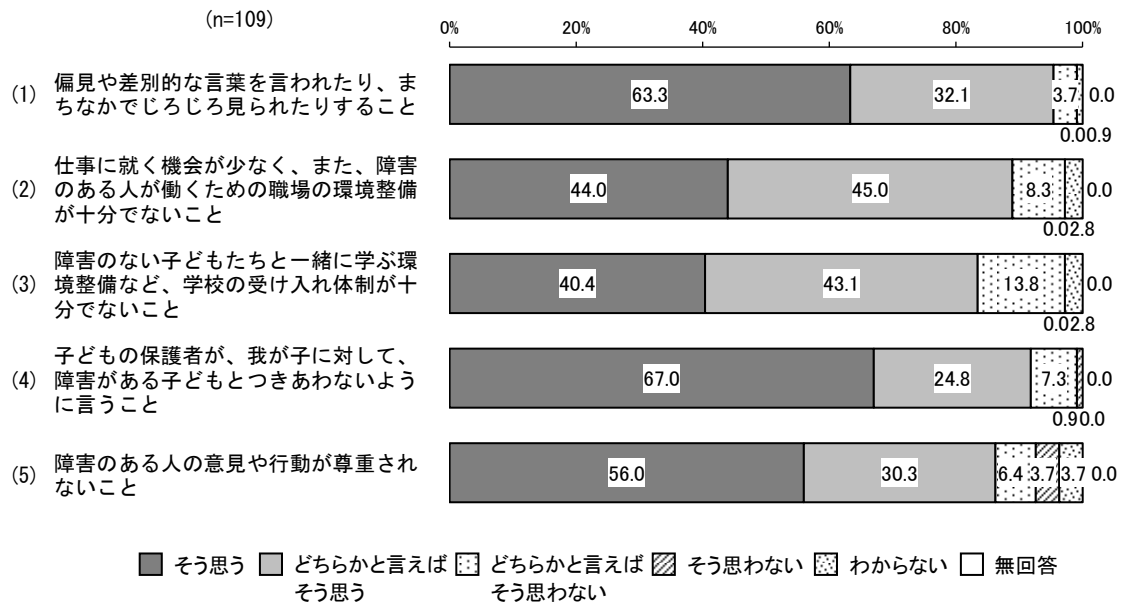


## 障害者の人権

障害者の人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(1)偏見や差別的な言葉を言われたり、まちなかでじろじろ見られたりすること」が 95.4%で最も高く、次いで「(4)子どもの保護者が、我が子に対して、障害がある子どもとつきあわないように言うこと」が 91.8%、「(2)仕事に就く機会が少なく、また、障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でないこと」が 89.0%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図50 障害者の人権に関して問題があると思うこと



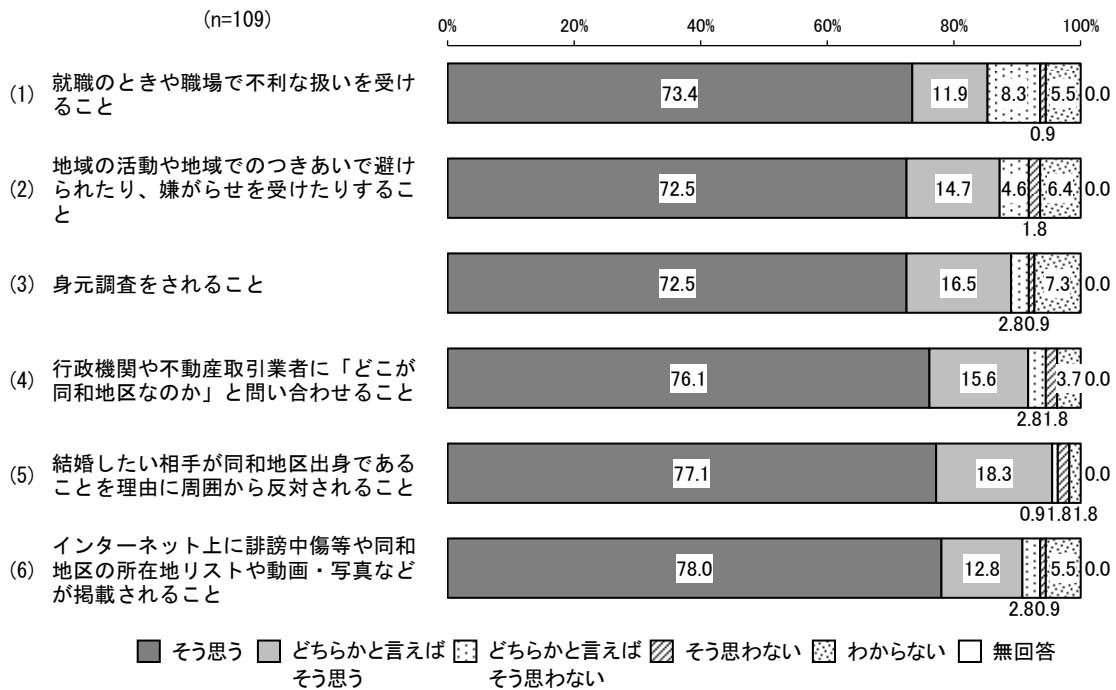
IV 職員意識調査の結果

部落差別(同和問題)

部落差別(同和問題)で人権上問題があると思うことについて、いずれの項目も『そう思う』が8割を超えており、特に「(5)結婚したい相手が同和地区出身であることを理由に周囲から反対されること」が95.4%で最も高く、次いで「(4)行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問い合わせること」が91.7%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図51 部落差別(同和問題)に関して問題があると思うこと

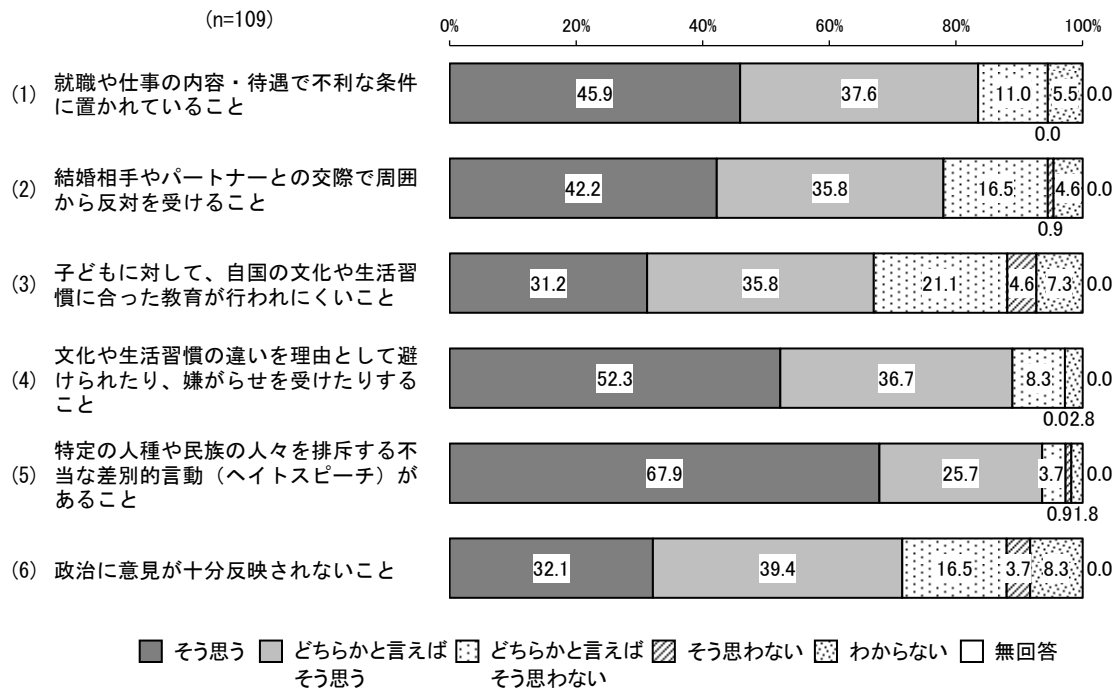


## 外国人の人権

外国人の人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(5)特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)があること」が 93.6%で最も高く、次いで「(4)文化や生活習慣の違いを理由として避けられたり、嫌がらせを受けたりすること」が 89.0%、「(1)就職や仕事の内容・待遇で不利な条件に置かれていること」が 83.5%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図52 外国人の人権に関して問題があると思うこと

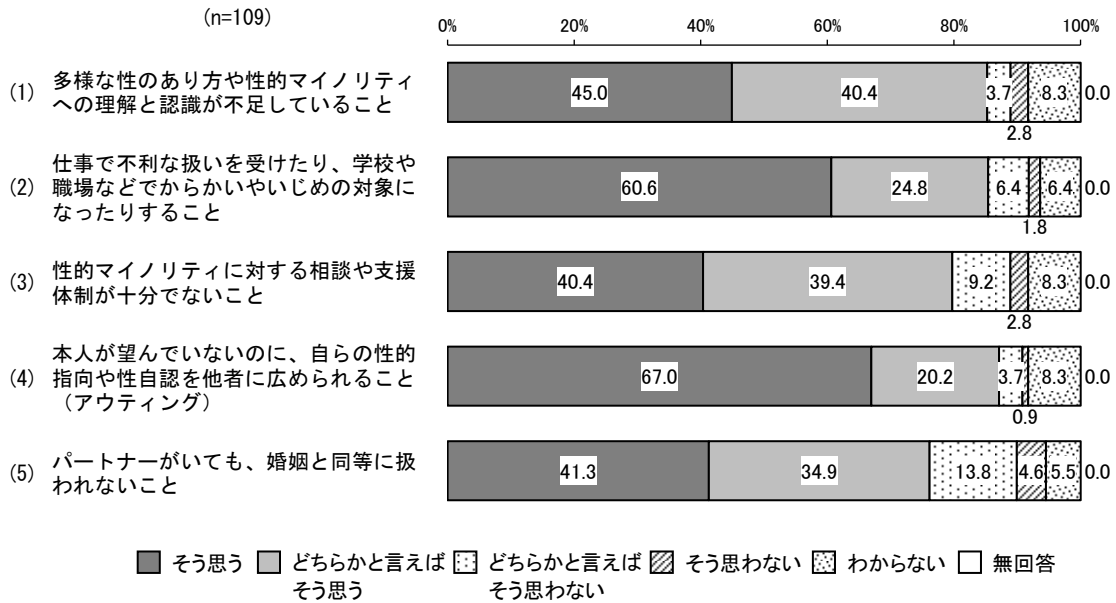


性的マイノリティの人権

性的マイノリティの人権で人権上問題があると思うことについて、『そう思う』は「(4)本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められること(アウティング)」が 87.2%で最も高く、次いで「(1)多様な性のあり方や性的マイノリティへの理解と認識が不足していること」と「(2)仕事で不利な扱いを受けたり、学校や職場などでからかひやいじめの対象になったりすること」がともに 85.4%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図53 性的マイノリティの人権に関して問題があると思うこと



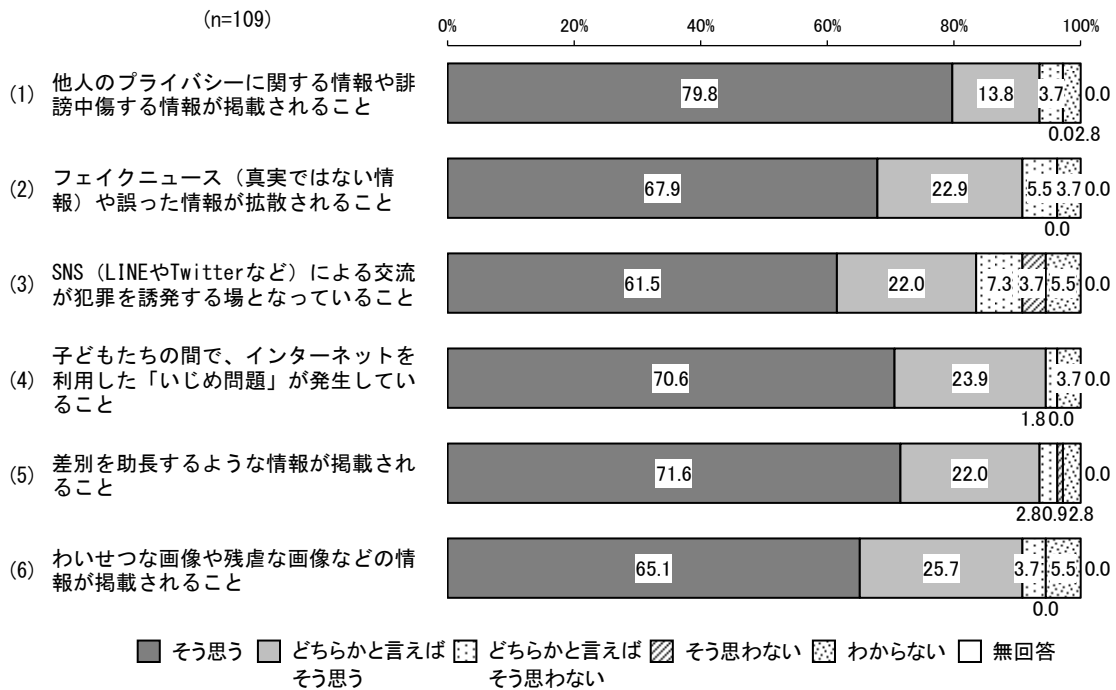


インターネットにおける人権侵害

インターネットにおける人権侵害で人権上問題があると思うことについて、いずれの項目も『そう思う』が8割を超えており、特に「(4)子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること」が94.5%で最も高く、次いで「(1)他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること」と「(5)差別を助長するような情報が掲載されること」がともに93.6%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。

図54 インターネットに関して問題があると思うこと



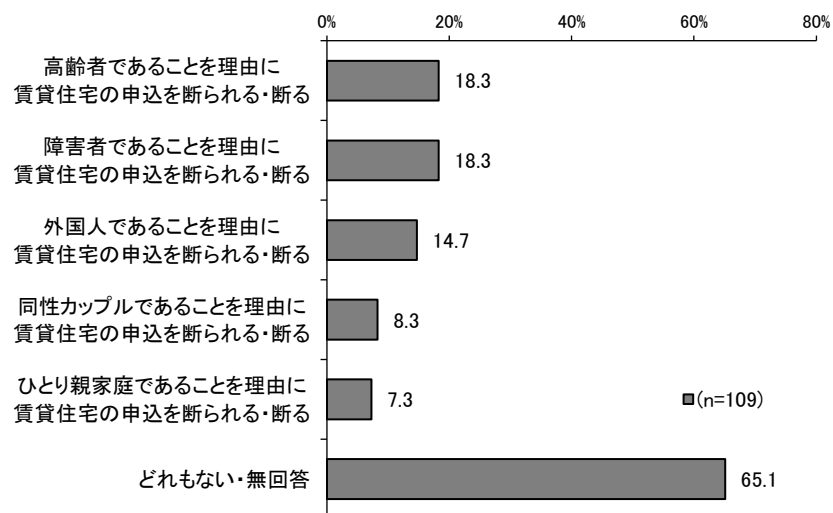
## 4 具体的な事象における人権意識の状況

### 1. 住まいに関して経験したり見聞きしたこと

問4 あなたは、住まいに関して次のようなことを自分自身が経験したり、見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)

住まいに関して経験したり見聞きしたことについて、「高齢者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」と「障害者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」がともに 18.3%で最も高く、「外国人であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る」が 14.7%となっている。

図55 住まいに関して経験したり見聞きしたこと

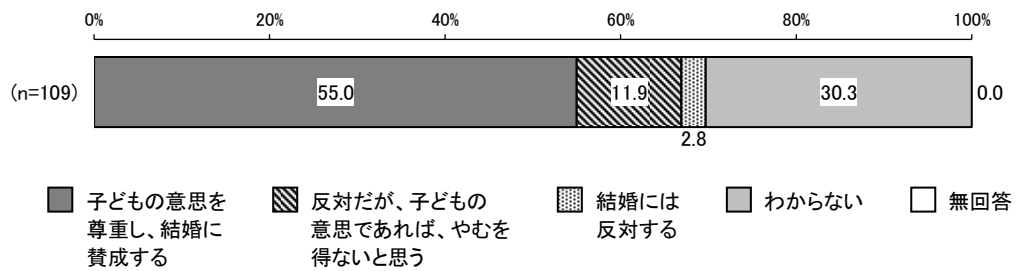


## 2. 子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応

問5 仮に、あなたに子どもがおり、あなたの子どもが、結婚しようとする相手が、被差別部落(同和地区)出身であるとわかったとき、あなたはどのようにしますか。(いずれか1つに○)

子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応について、「子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する」が 55.0%で最も高く、次いで「わからない」が 30.3%、「反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う」が 11.9%となっている。

図56 子どもの結婚相手が被差別部落(同和地区)出身であるとわかったときの対応

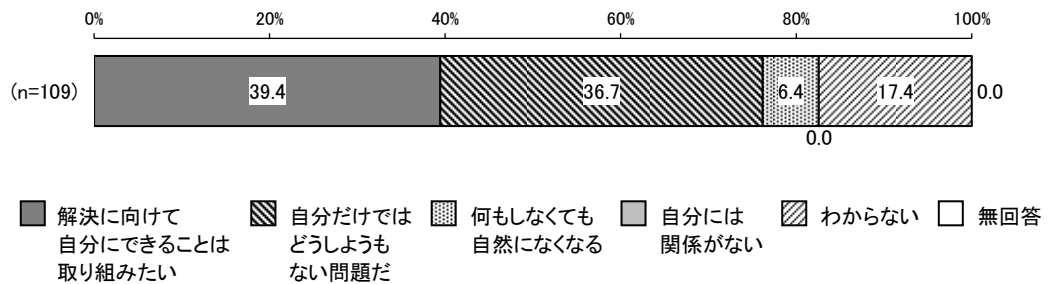


3. 部落差別(同和問題)解決についての考え方

問6 あなたは、部落差別(同和問題)の解決についてどのように思いますか。(いずれか1つに○)

部落差別(同和問題)解決についての考え方について、「解決に向けて自分にできることは取り組みたい」が39.4%で最も高く、次いで「自分だけではどうしようもない問題だ」が36.7%、「わからない」が17.4%となっている。

図57 部落差別(同和問題)解決についての考え方



## 5 人権や差別をめぐる基本的な意識

### 1. 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について

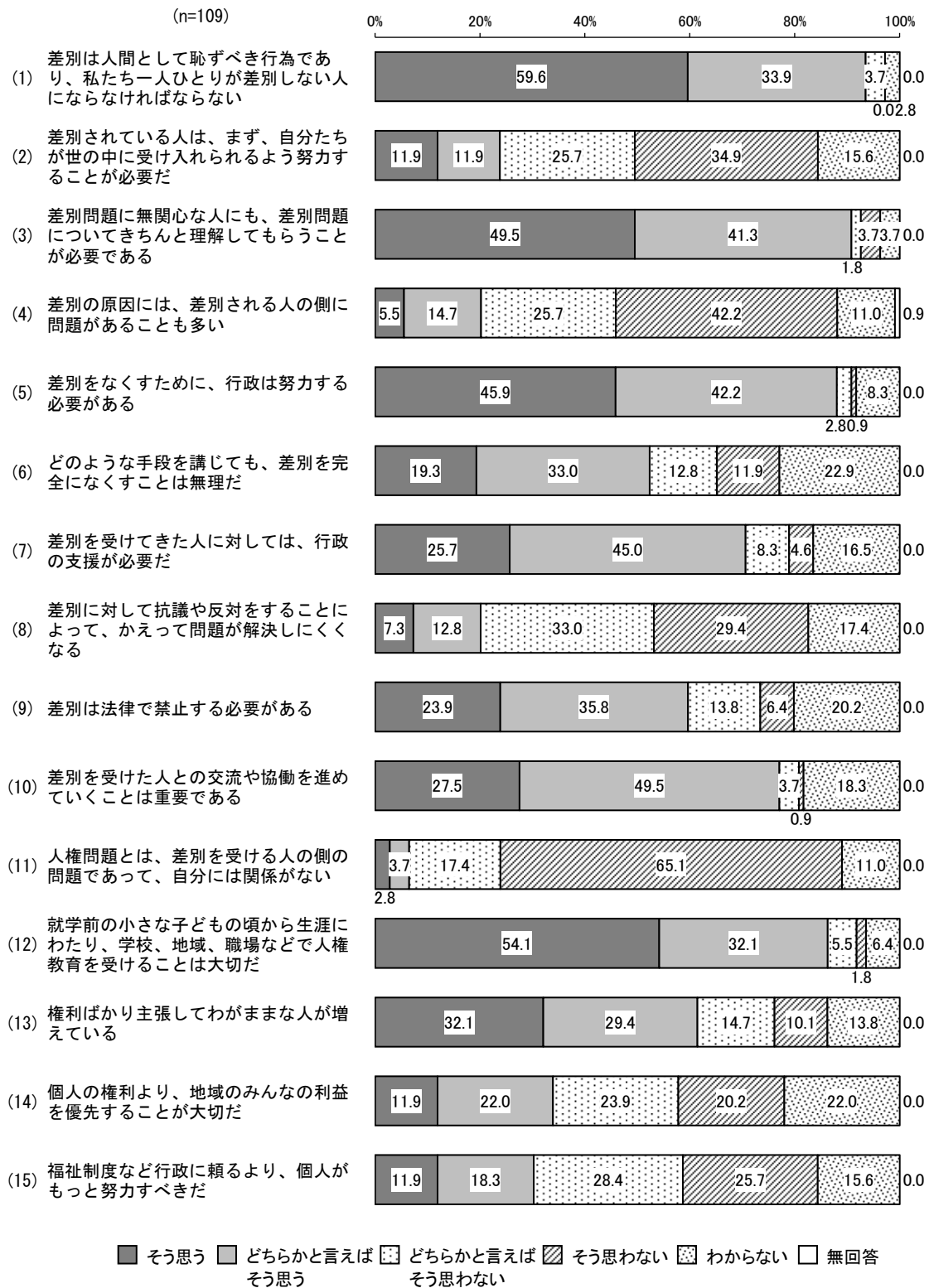
問7 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。(1)～(15)それぞれについて、いずれか1つに○)

人権や差別をめぐるいろいろな考え方について、『そう思う』は「(1)差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」が 93.5%で最も高く、次いで「(3)差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」が 90.8%、「(5)差別をなくすために、行政は努力する必要がある」が 88.1%となっている。一方で『そう思わない』は「(11)人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない」が 82.5%で最も高く、次いで「(4)差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」が 67.9%、「(8)差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」が 62.4%となっている。

※『そう思う』は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計をさす。  
『そう思わない』は「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計をさす。

IV 職員意識調査の結果

図58 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について



## 6 行政の取り組みの認知状況

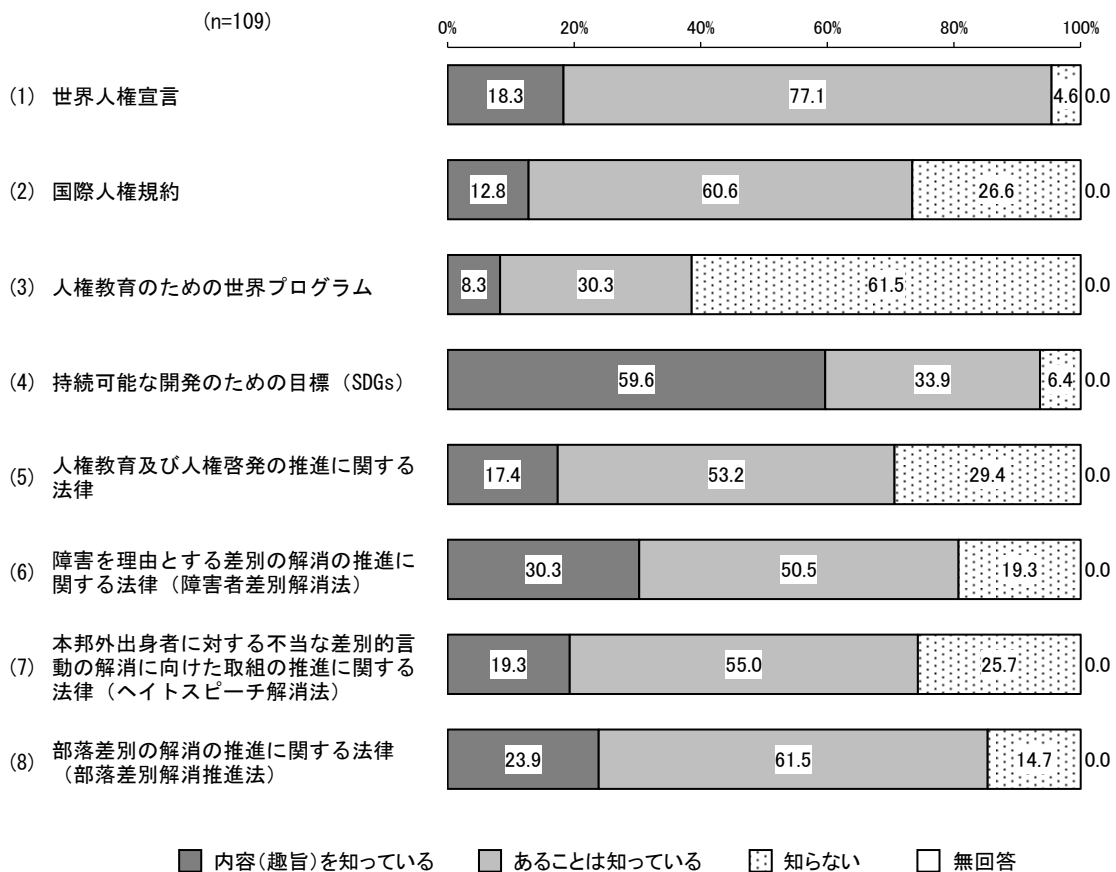
### 1. 法律や条例の認知状況

問8 あなたは、次の法律や条例について知っていますか。(1)～(8)それぞれについて、いずれか1つに○)

法律や条例の認知状況について、『知っている』は「(1)世界人権宣言」が95.4%で最も高く、次いで「(4)持続可能な開発のための目標(SDGs)」が93.5%、「(8)部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」が85.4%となっている。総じて町民に比べて認知は高いものの、「(3)人権教育のための世界プログラム」は61.5%が「知らない」と回答している。

※『知っている』は「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」の合計をさす。

図59 法律や条例の認知状況



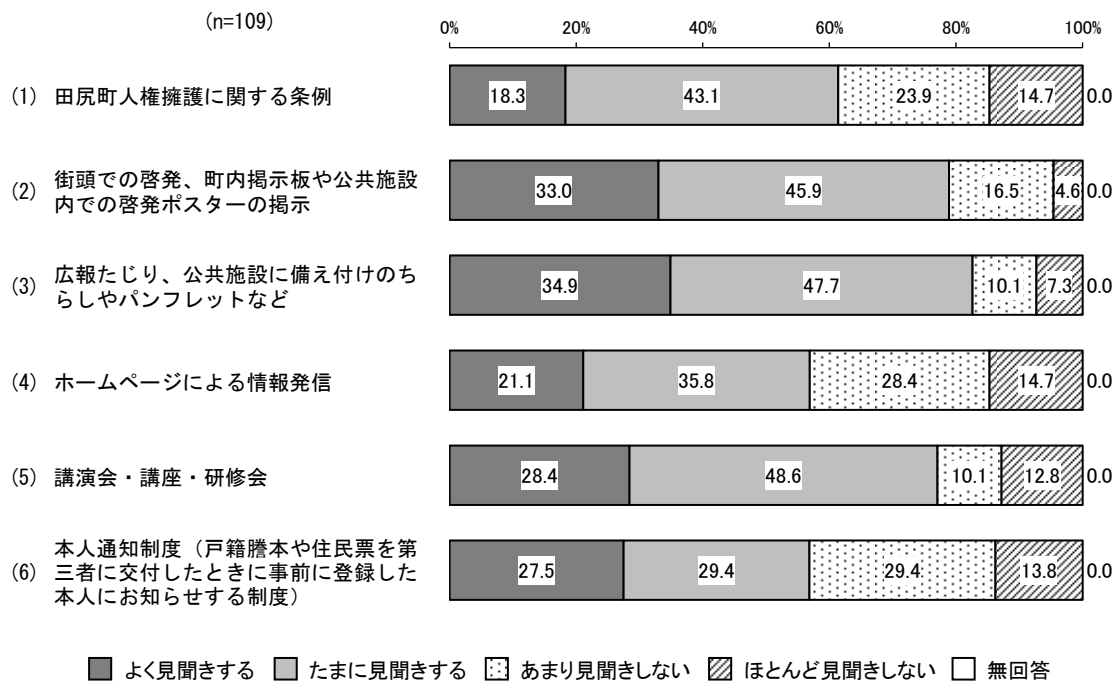
2. 田尻町の取り組みの認知状況

問9 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような田尻町の取り組みを見聞きする（した）ことがありますか。(1)～(6)それぞれについて、いずれか1つに○

田尻町の取り組みの認知状況について、『見聞きする』は「(3)広報たじり、公共施設に備え付けのちらしやパンフレットなど」が 82.6%で最も高く、次いで「(2)街頭での啓発、町内掲示板や公共施設内での啓発ポスターの掲示」が 78.9%、「(5)講演会・講座・研修会」が 77.0%となっている。それ以外の項目の『見聞きする』は5～6割程度となっている。

※『見聞きする』は「よく見聞きする」と「たまに見聞きする」の合計をさす。

図60 田尻町の取り組みの認知状況





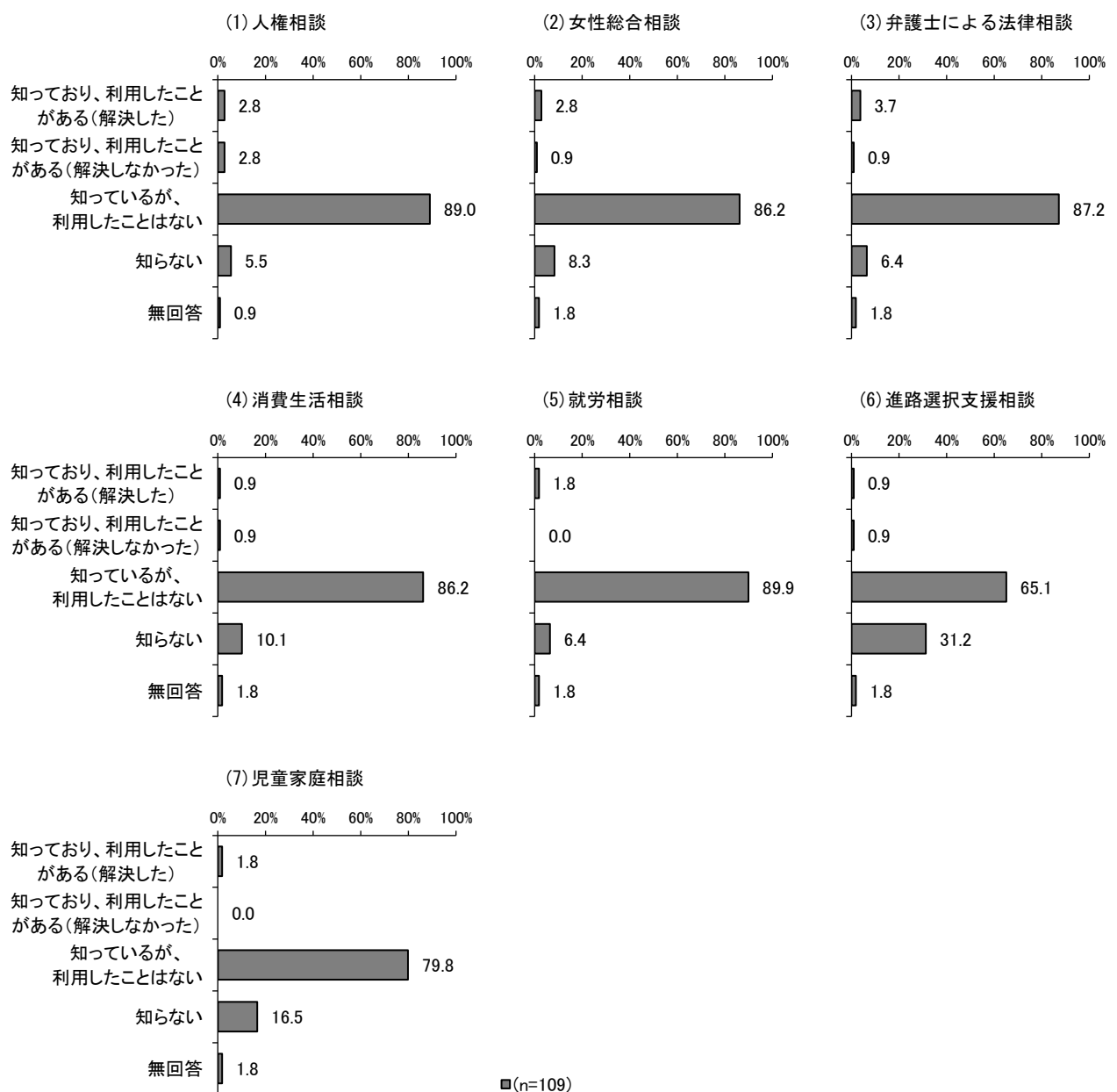
## 3. 相談窓口の認知・利用状況

問 10 あなたは、さまざまな問題の解決に向けて無料で利用できる次のような相談窓口について、見聞きする(した)ことがありますか。(1)～(7)それぞれについて、○はいくつでも

相談窓口の認知・利用状況について、『利用したことがある』は、すべての項目で 1 割以下となっており、「知っているが、利用したことはない」は、「(6)進路選択支援相談」を除くすべての項目 7～8 割台となっている。「(6)進路選択支援相談」は、「知らない」が 31.2%となっている。

※『利用したことがある』は「知っているが、利用したことがある(解決した)」と「知っているが、利用したことがある(解決しなかった)」の合計をさす。

図61 相談窓口の認知・利用状況

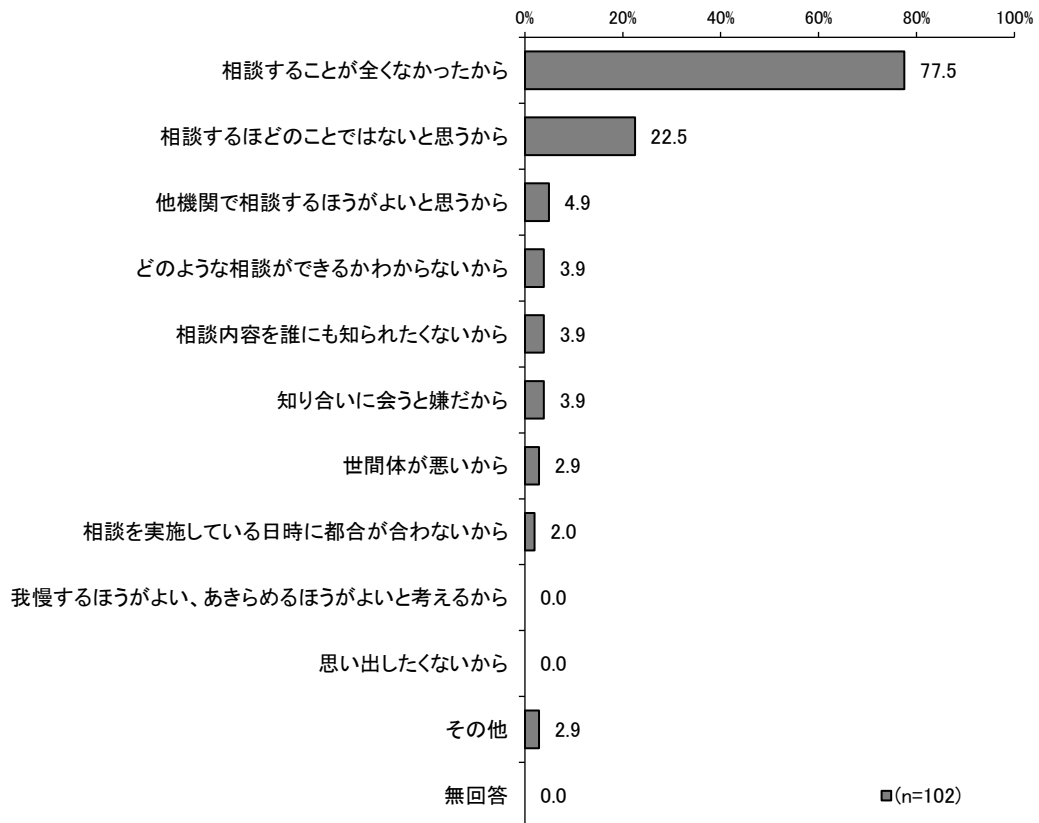


4. 相談窓口を利用しない理由

問 10-1 問 10 に1つでも「知っているが、利用したことはない」と答えた方におうかがいします。  
 利用しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

相談窓口を利用しない理由について、「相談することが全くなかったから」が 77.5%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思うから」が 22.5%で、その他の項目は 5%以下である。

図62 相談窓口を利用しない理由



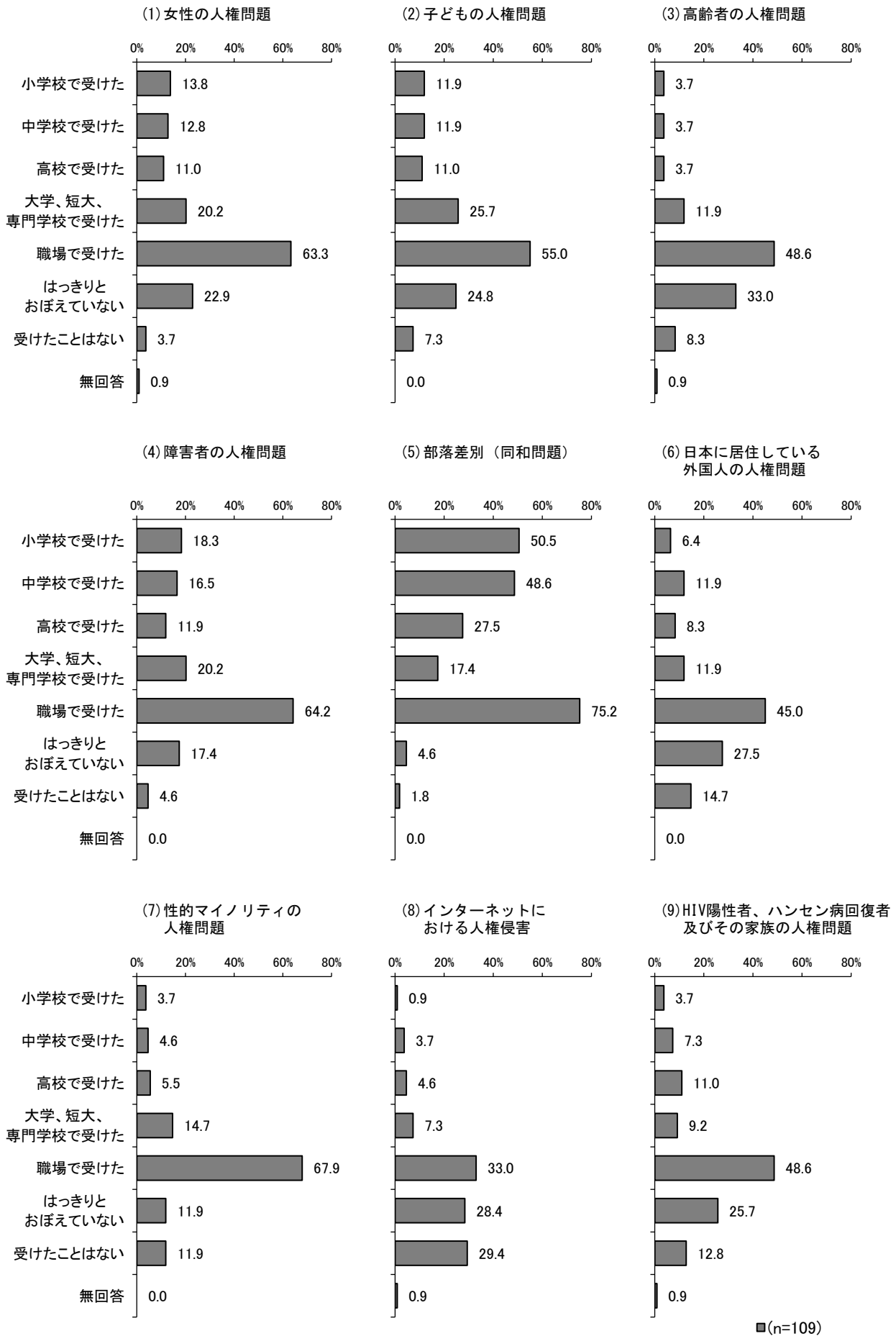
## 7 人権学習の状況

### 1. 人権問題の学習状況

問 11 あなたは、学校や職場で、次にあげる人権学習を受けたことがありますか。(1)～(9)それぞれについて、○はいくつでも)

人権問題の学習状況について、いずれの分野も「職場で受けた」の割合が最も高く、特に「(5)部落差別(同和問題)」で 75.2%、「(7)性的マイノリティの人権問題」で 67.9%、「(4)障害者の人権問題」で 64.2%、「(1)女性の人権問題」で 63.3%となっている。一方で「(8)インターネットにおける人権侵害」については、「受けたことはない」が 29.4%と、他の分野と比べて高くなっている。

図63 人権問題の学習状況



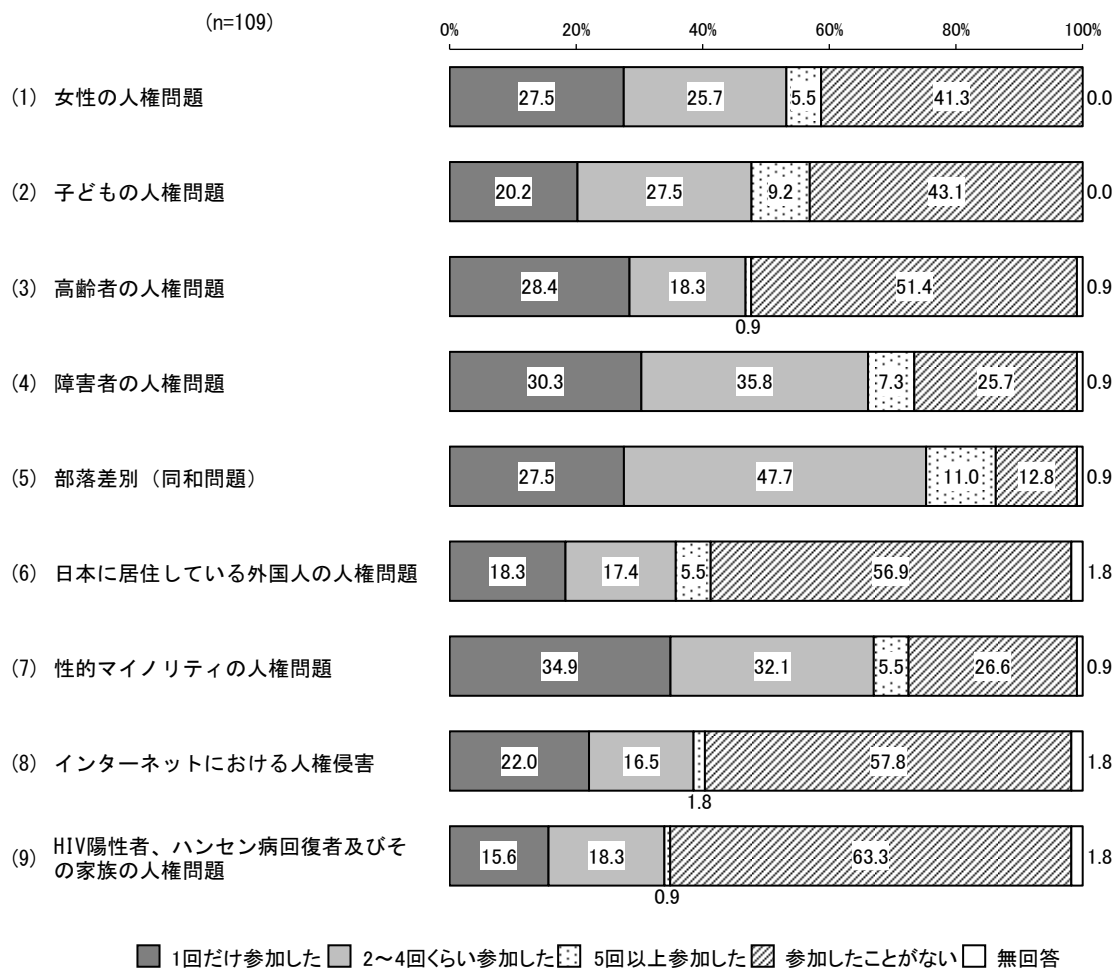
## 2. 人権問題に関するイベント等への参加状況

問 12 あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。(1)～(9)それぞれについて、いずれか1つに○)

人権問題に関するイベント等への参加状況について、『参加した』は「(5)部落差別(同和問題)」が 86.2%で最も高く、次いで「(4)障害者の人権問題」が 73.4%、「(7)性的マイノリティの人権問題」が 72.5%となっている。一方で「参加したことがない」は「(9)HIV 陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題」が 63.3%で最も高く、次いで「(8)インターネットにおける人権侵害」が 57.8%、「(6)日本に居住している外国人の人権問題」が 56.9%となっている。

※『参加した』は「1回だけ参加した」と「2～4回くらい参加した」と「5回以上参加した」の合計をさす。

図64 人権問題に関するイベント等への参加状況

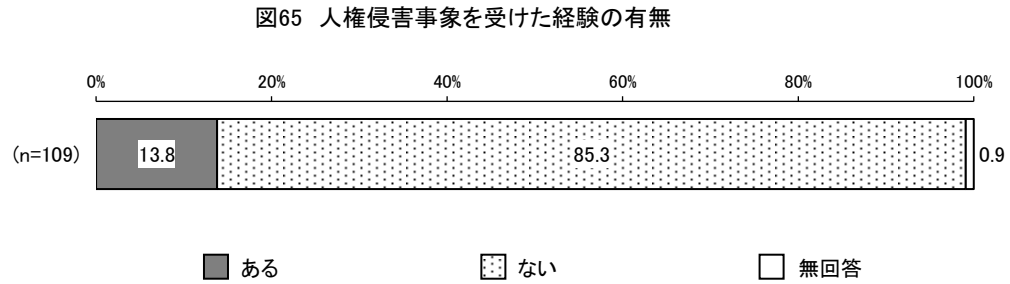


## 8 人権侵害事象を受けた経験

### 1. 人権侵害事象を受けた経験の有無

問 13 あなたは、最近5年間に人権侵害だと思う言動を受けたことがありますか。(いずれか1つに○)

人権侵害事象を受けた経験の有無について、「ある」が13.8%、「ない」が85.3%となっている。

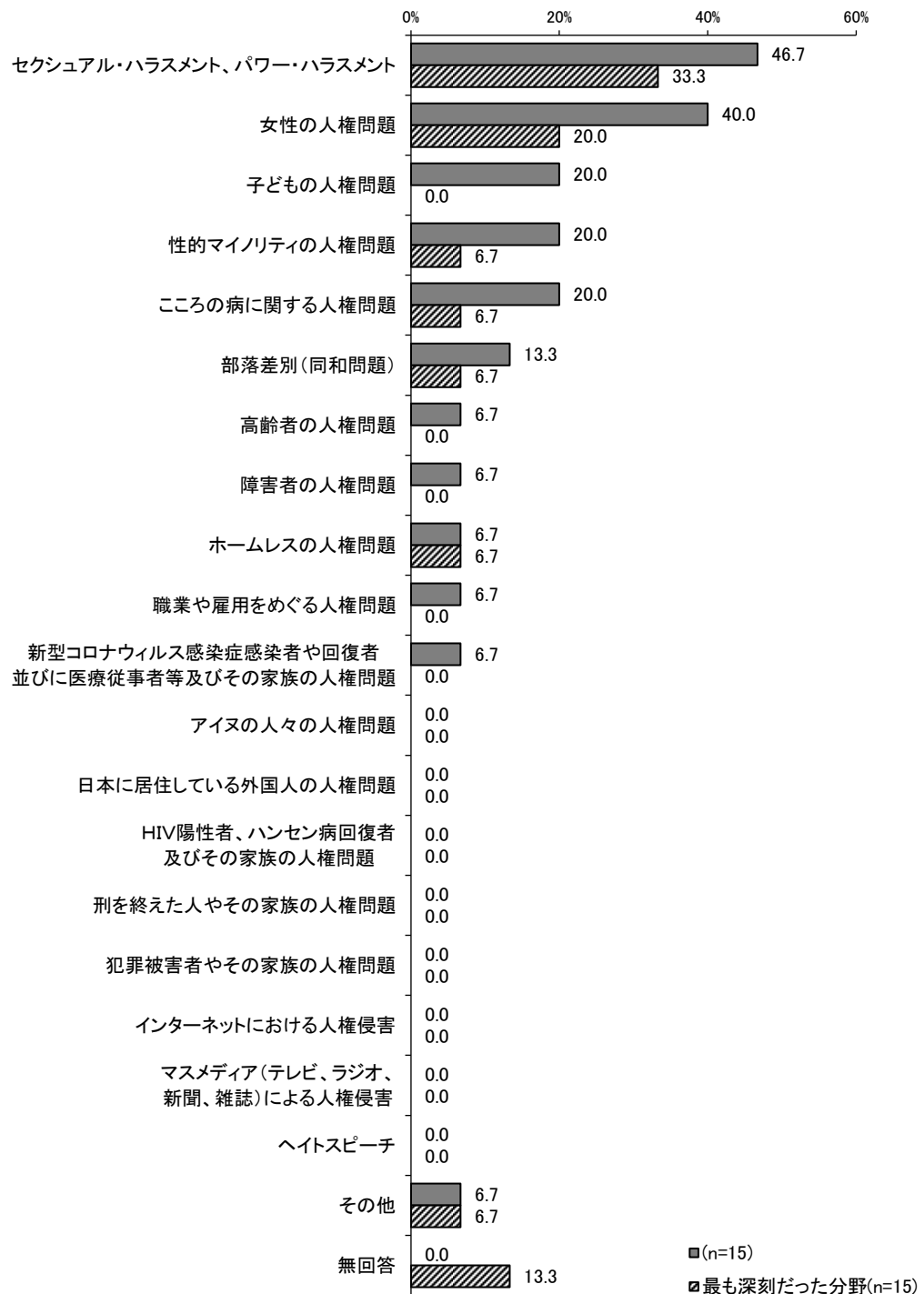


## 2. 受けた人権侵害事象の分野

問 13-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか。複数ある場合は、該当するものすべてに○をつけてください。また、そのうち最も深刻であったものに◎をつけてください。

受けた人権侵害事象の分野について、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が46.7%で最も高く、次いで「女性の人権問題」が40.0%、「子どもの人権問題」、「性的マイノリティの人権問題」、「こころの病に関する人権問題」がいずれも20.0%となっている。そのうち最も深刻であった分野について、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」が33.3%で最も高く、次いで「女性の人権問題」が20.0%となっている。

図66 受けた人権侵害事象の分野

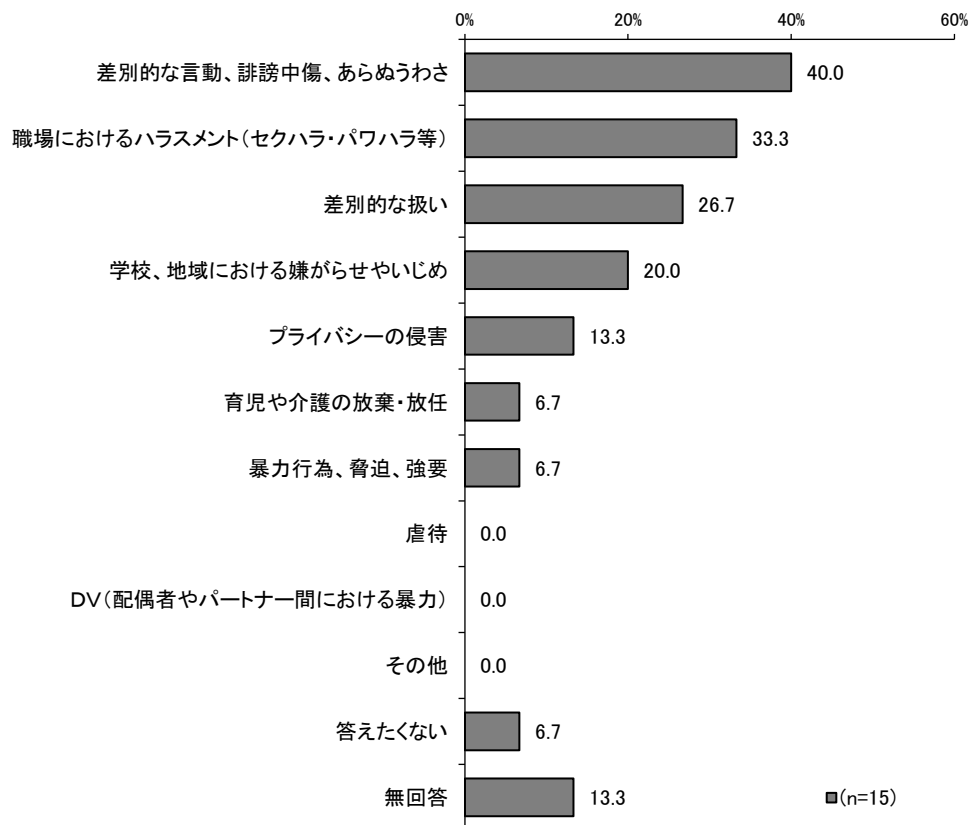


3. 受けた人権侵害事象の内容

問 13-2 問 13-1 で◎をつけた最も深刻であったものに対してお答えください。それはどのような内容でしたか。(〇はいくつでも)

受けた人権侵害事象の内容について、「差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ」が 40.0%で最も高く、次いで「職場におけるハラスメント(セクハラ・パワハラ等)」が 33.3%、「差別的な扱い(人種・信条・性別・社会的身分・出生地等により、職業・雇用や結婚等の社会生活のうえで不平等又は不利益な扱いをされた)」が 26.7%となっている。

図67 受けた人権侵害事象の内容



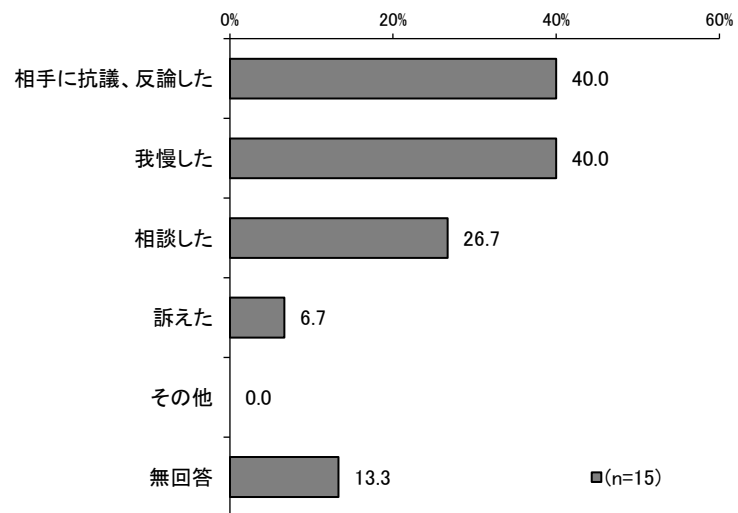


## 4. 人権侵害事象を受けた際の対応

問 13-3 そのことに対して、どう対応しましたか。(〇はいくつでも)

人権侵害事象を受けた際の対応について、「相手に抗議、反論した」と「我慢した」がともに 40.0%で最も高く、次いで「相談した」が 26.7%となっている。

図68 人権侵害事象を受けた際の対応



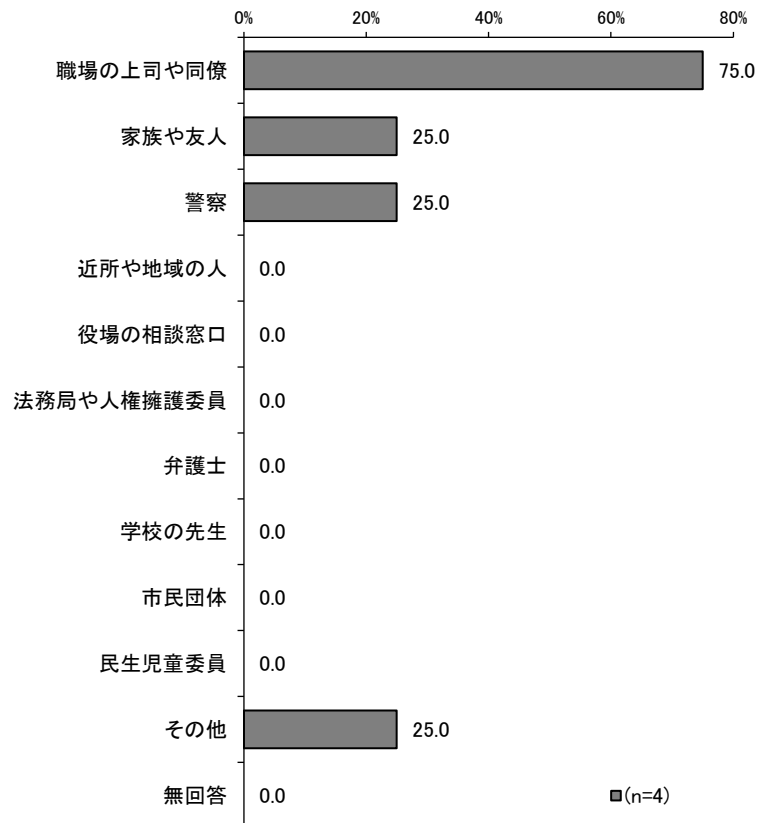
#### IV 職員意識調査の結果

##### 5. 人権侵害事象を受けた際の相談先

問 13-4 問 13-3 で「相談した」と答えた方におうかがいします。どこ（誰）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

人権侵害事象を受けた際の相談先について、「職場の上司や同僚」が 75.0% (3 人) で最も高く、次いで「家族や友人」、「警察」、「その他」がいずれも 25.0% (1 人) となっている。

図69 人権侵害事象を受けた際の相談先

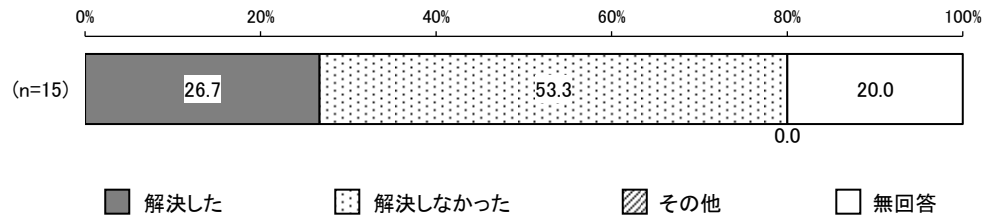


## 6. 人権侵害事象の結果

問 13-5 そのことは最終的に解決しましたか。(いずれか1つに○)

人権侵害事象の結果について、「解決しなかった」が53.3%で、「解決した」が26.7%となっている。

図70 人権侵害事象の結果



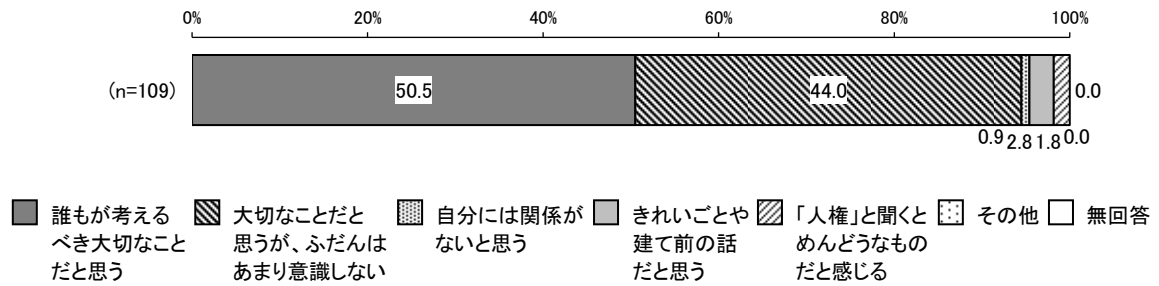
## 9 人権問題解決のための取り組みについて

### 1. 「人権」についてのふだんの意識

問 14 あなたは、「人権」について、ふだんどのように意識していますか。(いずれか1つに○)

「人権」についてのふだんの意識について、「誰もが考えるべき大切なことだと思う」が 50.5%で最も高く、次いで「大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない」が 44.0%となっている。

図71 「人権」についてのふだんの意識

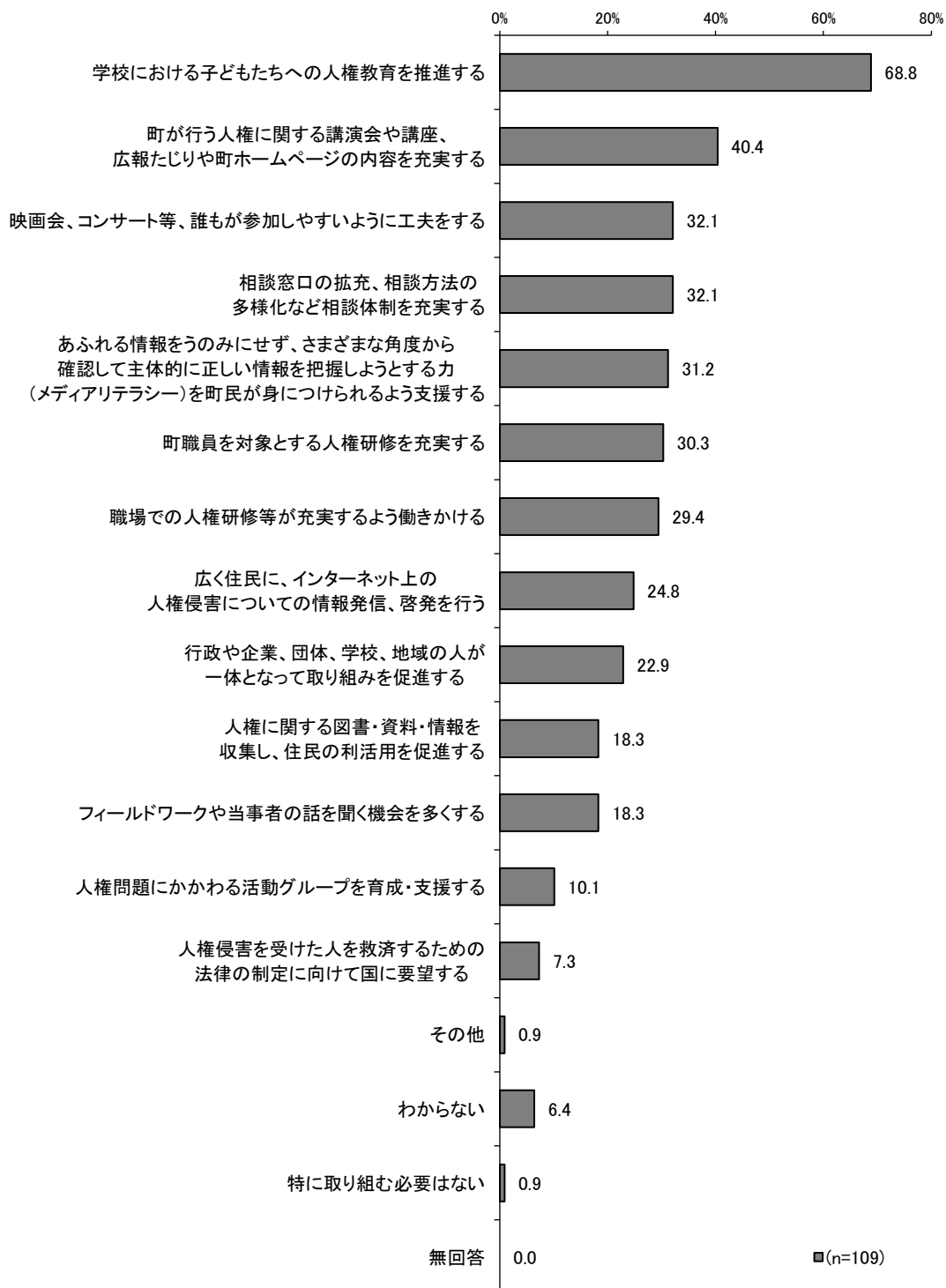


## 2. 人権問題解決のために田尻町が取り組むべきこと

問 15 あなたは、人権問題解決のために、田尻町ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

人権問題解決のために田尻町が取り組むべきことについて、「学校における子どもたちへの人権教育を推進する」が 68.8%で最も高く、次いで「町が行う人権に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する」が 40.4%の他は、3 割程度以下となっている。

図72 人権問題解決のために田尻町が取り組むべきこと

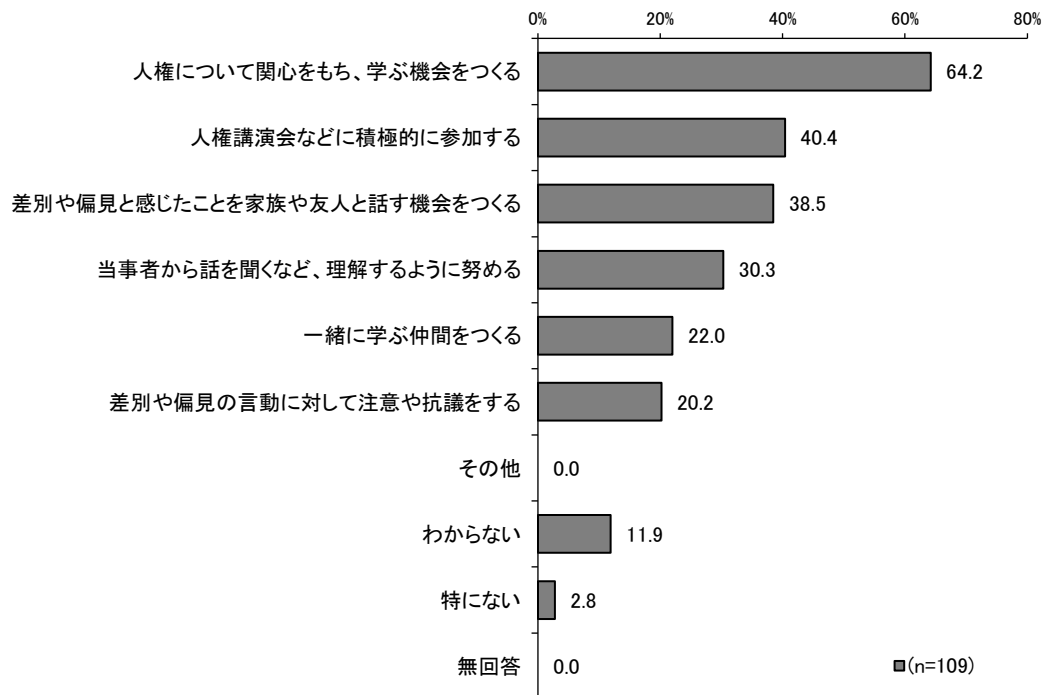


3. 人権問題解決のために自身ができること

問 16 人権問題の解決のために、あなたはどのようなことができると思いますか。(〇はいくつでも)

人権問題解決のために自身ができることについて、「人権について関心をもち、学ぶ機会をつくる」が 64.2%で最も高く、次いで「人権講演会などに積極的に参加する」が 40.4%、「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」が 38.5%となっている。

図73 人権問題解決のために自身ができること



## 誰もが大切にされる 心豊かなまちづくりのための アンケート調査

— 田尻町人権に関する町民意識調査 —

ご協力をお願い

皆さまには日頃から町政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
近年、あらゆる分野において人権に対する関心が高まり、さまざまな取り組みが進められる一方で、人権を取り巻く社会情勢は大きく変化し、新たな人権課題が生まれています。  
このようななか、本町では誰もが暮らしやすい心豊かな人権のまちづくりを進めるため、人権行  
政を進めるうえでの基本方針・基本計画を策定することといたしました。  
この調査は、皆さまから人権に関して実情やお考えをうかがい、方針・計画を策定するうえでの  
重要な基礎資料とするために実施するものです。

つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和3年 11 月

田尻町長 栗山 美政

### ご記入にあたってのお願い

- \*この調査票は、町内にお住まいの18歳以上の方1,500人を無作為に選ばせていただいております。
- \*無記名なのであなたの答えがわかりようになっています。率直に、思うままをお答えください。調査内容は統計的に処理し、他の目的には使用しません。回答者の方にご迷惑をおかけすることはありせんので安心してご回答ください。
- \*裏面に貼られたシールの数字は、紙の調査票とインターネット回答との重複をチェックするだけのものです、個人情報とは結びついていません。
- \*宛名に記されたご本人がお答えください。(病気などで回答できないときは、ご家族に代筆いただくか、下記までご相談ください。)
- \*回答方法は、調査票に記入し郵送いただく方法と**インターネット**による回答のどちらかを選ぶことができます。  
郵送いただく場合は、無記名のまま同封の返信用封筒に入れ、**12月7日(火)**までにポストに投函してください(切手は不要です)。  
インターネットによる回答方法は、裏面をごらんください。

■このアンケート調査に関するお問い合わせ先

田尻町 総務部 企画人権課 人権・男女共生室  
〒598-8588 田尻町嘉祥寺375番地1  
電話:072-466-5019 FAX:072-466-8725

## V 調査票

＜インターネットによる回答方法＞

1. 下記URLを入力するか右のQRコードを読み取り、  
インターネット回答ページへアクセスしてください。



【インターネット回答ページURL】

<https://ai-form.tank.jp/survey/tajiri/>

2. 下記のIDを入力の上、**回答を始める** を押してください。  
調査票の回答ページが表示されたら、順番に該当する番号にチェックを入れてください。

ID

3. 入力後は、確認ページで回答内容を確認して、**送信する** を押してください。
4. インターネットでの回答は1回限りです。回答を送信されると、その後の修正はできませんので、ご注意ください。

### 【注意】

- \*回答は、紙の調査票への記入またはインターネット回答のどちらか一方を選んでください。
- \*インターネットで回答された方は、調査票の記入・送付は不要です。
- \*両方に回答された場合、一方の回答は無効になります。
- \*ご回答にかかる通信料は回答される方のご負担になります。あらかじめご了承ください。



問1 あなたが「人権」と聞いたとき、思い浮かべる言葉は何ですか。(○はいくつでも)

- 1. 自由
- 2. 平等
- 3. 権利
- 4. 義務
- 5. 思いやり
- 6. 相互理解
- 7. 尊敬
- 8. 自己決定
- 9. 公正
- 10. 共生
- 11. 抑圧
- 12. 格差
- 13. 差別
- 14. 暴力
- 15. わがまま
- 16. その他 ( )

問2 あなたが多少なりとも知っている人権問題を次のなかから選んでください。(○はいくつでも)

主な人権問題	事例・説明
1. 女性の人権問題	男は仕事、女は家庭などの固的な性別役割分担意識、就労での不当な扱い、DV（配偶者やパートナー間における暴力）
2. 子どもの人権問題	いじめ、虐待、体罰、児童ポルノ
3. 高齢者の人権問題	介護放棄、虐待、周りにからじやま者扱いされる
4. 障害者の人権問題	店舗でのサービス拒否、就労での不当な扱い、虐待
5. 部落差別（同和問題）	身元調査、結婚や交際における周囲の反対、インターネット上で同和地区*1の所在地情報が流布される
6. アイヌの人々の人権問題	誹謗中傷
7. 日本に居住している外国人の人権問題	入居拒否、就労での不当な扱い
8. 性的マイノリティ*2の人権問題	同性パートナーとの入居拒否、本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性を自認を他者に広められる（アウティング）
9. HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	日常生活での不当な扱い、宿泊拒否
10. こころの病（うつ病、依存症など）に関する人権問題	先入観や偏見、ブライパシーの侵害
11. 刑を終えた人やその家族の人権問題	うわさや誹謗中傷
12. 犯罪被害者やその家族の人権問題	うわさや誹謗中傷、ブライパシーの侵害
13. ホームレスの人権問題	嫌がらせ、暴力
14. 職業や雇用をめぐる人権問題	就労形態や職種、職業に対する偏見や差別
15. セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント	相手の意に反した性的な嫌がらせ、力関係を背景とした嫌がらせ
16. インターネットにおける人権侵害	誹謗中傷、差別を助長する有害情報
17. マスメディア（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌）による人権侵害	誹謗中傷、ブライパシー侵害
18. ヘイトスピーチ*3	特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動
19. 新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題	日常生活での不当な扱い、誹謗中傷
20. その他の人権問題 ( )	

\*1 同和地区：「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」（平成14年3月失効）によって指定されていた対象地域を示しています。

\*2 性的マイノリティ：LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）など、恋愛や性愛の対象が同性の人や、出生時に判定された性と自認する性が異なる人などの総称として用いられます。

\*3 ヘイトスピーチ：一般に憎悪に基づく差別的な言動のことを言いますが、この調査では、特定の人種や民族であることを理由として、日本社会から追い出そうとしたり、人格をおとしめたり、危害を加えようとしたりするなどの不当な差別的言動として用いられています。

問2-1 問2のさまざまな人権問題のなかで、あなたが、特に人権上の深刻な問題と考えるものは、1~20のうちのどれですか。  
(該当する番号を3つ記入)

--	--

問3 あなたは、次のようなことを人権上、問題があると思いますか。

	そう思う	どちらかと思えば	どちらかと思えば	そう思わない	わからない
(それぞれについて、いずれか1つに○)					
女性の人権					
(1) セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど女性を理由にした嫌がらせがあること	1	2	3	4	5
(2) 仕事の採用、昇進、賃金に男女で格差があること	1	2	3	4	5
(3) お茶くみや雑用は女性がやるものだと思われていること	1	2	3	4	5
(4) 会議や話し合いの場で女性の意見が軽んじられること	1	2	3	4	5
(5) さまざまな方針決定など重要なことを決める会議や場面に参画する女性が少ないこと	1	2	3	4	5
子どもの人権					
(1) 子ども同士で「仲間はずれ」や「無視」などのいじめがおこっていること	1	2	3	4	5
(2) 保護者による不適切な養育を受けている子どもがいること	1	2	3	4	5
(3) 教育の場において体罰や性被害を受けている子どもがいること	1	2	3	4	5
(4) 生まれ育つ家庭環境によって学習機会が保障されていない子どもがいること	1	2	3	4	5
(5) 性的な目的のために子どもの裸の写真をやりとりしたり、子どもを性的な対象としたりすること	1	2	3	4	5



(それぞれについて、いずれか1つに○)		そう思う	そう思う と言えます	どちらか とも言え ない	そう思わ ない	わからない
高齢者の人権	(1) 必要な介護サービスの利用を妨げたり、世話をしなかったりすること	1	2	3	4	5
	(2) 本人の同意なしに高齢者の財産やお金を使ったり、本人が自分のお金を使うことを制限したりすること	1	2	3	4	5
	(3) 認知症の高齢者が部屋から出られないように、外側からカギをかけること	1	2	3	4	5
	(4) 高齢者をねらった振り込み詐欺や悪徳商法がおこっていること	1	2	3	4	5
	(5) 年齢を理由とした就業の制限があること	1	2	3	4	5
障害者の人権	(1) 偏見や差別的な言葉を言われたり、まちなかでじろじろ見られたりすること	1	2	3	4	5
	(2) 仕事に就く機会が少なく、また、障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でないこと	1	2	3	4	5
	(3) 障害のない子どもたちと一緒に学ぶ環境整備など、学校の受け入れ体制が十分でないこと	1	2	3	4	5
	(4) 子どもを保護者が、我が子に対して、障害がある子どもとつきあわぬように言うこと	1	2	3	4	5
	(5) 障害のある人の意見や行動が尊重されないこと	1	2	3	4	5
部落差別(同和問題)	(1) 就職のときや職場で不利な扱いを受けること	1	2	3	4	5
	(2) 地域の活動や地域でのつきあいで避けられたり、嫌がらせを受けたりすること	1	2	3	4	5
	(3) 身元調査をされること	1	2	3	4	5
	(4) 行政機関や不動産取引業者に「どこが同和地区なのか」と問いつわられること	1	2	3	4	5
	(5) 結婚したい相手が同和地区出身であることを理由に周囲から反対されること	1	2	3	4	5
	(6) インターネット上に誹謗中傷や同和地区の所在地リストや動画・写真などが掲載されること	1	2	3	4	5

(それぞれについて、いずれか1つに○)		そう思う	そう思う と言えます	どちらか とも言え ない	そう思わ ない	わからない
外国人の人権	(1) 就職や仕事の内容・待遇で不利な条件に置かれていること	1	2	3	4	5
	(2) 結婚相手やパートナーとの交際で周囲から反対を受けること	1	2	3	4	5
	(3) 子どもに対して、自国の文化や生活習慣に合った教育が行われにくいこと	1	2	3	4	5
	(4) 文化や生活習慣の違いを理由として避けられたり、嫌がらせを受けたりすること	1	2	3	4	5
	(5) 特定の人種や民族の人々を排斥する不当な差別的言動(ヘイトスピーチ)があること	1	2	3	4	5
	(6) 政治に意見が十分反映されないこと	1	2	3	4	5
性的マイノリティの人権	(1) 多様な性のあり方や性的マイノリティへの理解と認識が不足していること	1	2	3	4	5
	(2) 仕事で不利な扱いを受けたり、学校や職場などでからかいやいじめの対象になったりすること	1	2	3	4	5
	(3) 性的マイノリティに対する相談や支援体制が十分でないこと	1	2	3	4	5
	(4) 本人が望んでいないのに、自らの性的指向や性自認を他者に広められること(アウティング)	1	2	3	4	5
	(5) パートナーがいても、婚姻と同等に扱われないこと	1	2	3	4	5
インターネットにおける人権侵害	(1) 他人のプライバシーに関する情報や誹謗中傷する情報が掲載されること	1	2	3	4	5
	(2) フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散されること	1	2	3	4	5
	(3) SNS(LINEやTwitterなど)による交流が犯罪を誘発する場となっていること	1	2	3	4	5
	(4) 子どもたちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生していること	1	2	3	4	5
	(5) 差別を助長するような情報が掲載されること	1	2	3	4	5
	(6) わいせつな画像や残虐な画像などの情報が掲載されること	1	2	3	4	5

問4 あなたは、住まいに関しまして次のようなことを自分自身が経験したり、見聞きしたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 外国人であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る
2. 高齢者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る
3. 障害者であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る
4. ひとり親家庭であることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る
5. 同性カップルであることを理由に賃貸住宅の申込を断られる・断る

問5 仮に、あなたに子どもがおおり、あなたの子どもが、結婚しようとする相手が、被差別部落(同和地区)出身であるとわかったとき、あなたはどうしますか。(いずれか1つに○)

1. 子どもの意思を尊重し、結婚に賛成する
2. 反対だが、子どもの意思であれば、やむを得ないと思う
3. 結婚には反対する
4. わからない

問6 あなたは、部落差別(同和問題)の解決についてどのように思いますか。(いずれか1つに○)

1. 解決に向けて自分にできることは取り組みたい
2. 自分だけではどうしようもない問題だ
3. 何もなくても自然になくなる
4. 自分には関係がない
5. わからない

問7 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。

	そう思う	そう思うと言え	どちらかと言え	どちらかと言え	そう思わない	わからない
(1)～(10)それぞれについて、いずれか1つに○)						
(1)差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	1	2	3	4	5	
(2)差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	1	2	3	4	5	
(3)差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	1	2	3	4	5	
(4)差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1	2	3	4	5	
(5)差別をなくすために、行政は努力する必要がある	1	2	3	4	5	
(6)どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	1	2	3	4	5	
(7)差別を受けてきた人に対しては、行政の支援が必要だ	1	2	3	4	5	
(8)差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5	
(9)差別は法律で禁止する必要がある	1	2	3	4	5	
(10)差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である	1	2	3	4	5	
(11)人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない	1	2	3	4	5	
(12)就学前の小さな子ども頃から生涯にわたる、学校、地域、職場などで人権教育を受けることは大切だ	1	2	3	4	5	
(13)権利ばかり主張してわがままな人が増えている	1	2	3	4	5	
(14)個人の権利より、地域のみんなの利益を優先することが大切だ	1	2	3	4	5	
(15)福祉制度など行政に頼るより、個人がもっと努力すべきだ	1	2	3	4	5	

問8 あなたは、次の法律や条例について知っていますか。

	知っている	知っている 内容(趣旨)を 知っている	知っている こと は	知らない
(1) 世界人権宣言	1	1	2	3
(2) 国際人権規約	1	1	2	3
(3) 人権教育のための世界プログラム	1	1	2	3
(4) 持続可能な開発のための目標 (SDGs)	1	1	2	3
(5) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	1	1	2	3
(6) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)	1	1	2	3
(7) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取 組の推進に関する法律 (ヘイトスピーチ解消法)	1	1	2	3
(8) 部落差別の解消の推進に関する法律 (部落差別解消推進法)	1	1	2	3

((1)~(8) それぞれについて、いずれか1つに○)

145

問9 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような田原町の取り組みを見聞する(した)ことが  
ありますか。

	よく 見聞 する	たま に 見聞 する	あ ま り 見聞 し な い	ほ と ん ど 見聞 し な い
(1) 田原町人権擁護に関する条例	1	2	3	4
(2) 街頭での啓発、町内掲示板や公共施設内での啓発ポスター の掲示	1	2	3	4
(3) 広報たじり、公共施設に備え付けのちらしやパンフレット など	1	2	3	4
(4) ホームページによる情報発信	1	2	3	4
(5) 講演会・講座・研修会	1	2	3	4
(6) 本人通知制度 (戸籍謄本や住民票を第三者に交付したとき に事前に登録した本人にお知らせする制度)	1	2	3	4

((1)~(6) それぞれについて、いずれか1つに○)

問10 あなたは、さまざまな問題の解決に向けて無料で利用できる次のような相談窓口について、見  
聞する(した)ことがありますか。

	利用している (解決した)	利用している (解決しなかった)	知っているが、 利用 したことはない	知らない
(1) 人権相談	1	2	3	4
(2) 女性総合相談	1	2	3	4
(3) 弁護士による法律相談	1	2	3	4
(4) 消費生活相談	1	2	3	4
(5) 就労相談	1	2	3	4
(6) 進路選択支援相談	1	2	3	4
(7) 児童家庭相談	1	2	3	4

((1)~(7) それぞれについて、○はいくつでも)



問10-1へ

問10-1 問10に1つでも「知っているが、利用したことはない」と答えた方におうかがいします。  
利用しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. どのような相談ができるかわからないから
2. 相談内容を誰にも知られたくないから
3. 相談を実施している日に都合が合わないから
4. 他機関で相談するほうがよいと思うから
5. 世間体が悪いから
6. 知り合いに会うと嫌だから
7. 我慢するほうがよい、あきらめるほうがよいと考えるから
8. 思い出たくないから
9. 相談するほどのことではないと思うから
10. 相談することが全くなかったから
11. その他 ( )

全員におうかがいします。

問11 あなたは、学校や職場で、次にあげる人権学習を受けたことがありますか。

(1)～(9)それぞれについて、 ○はいくつでも)	職場で受けた						受けたことはない
	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	専門学校、短大、 専門学校で受けた	大学、短大、 専門学校で受けた	おぼえていない	
(1)女性の人権問題	1	2	3	4	5	6	7
(2)子どもの人権問題	1	2	3	4	5	6	7
(3)高齢者の人権問題	1	2	3	4	5	6	7
(4)障害者の人権問題	1	2	3	4	5	6	7
(5)部落差別 (同和問題)	1	2	3	4	5	6	7
(6)日本に居住している外国人の人権問題	1	2	3	4	5	6	7
(7)性的マイノリティの人権問題	1	2	3	4	5	6	7
(8)インターネットにおける人権侵害	1	2	3	4	5	6	7
(9)HIV陽性者、ハンセン病回復者及び その家族の人権問題	1	2	3	4	5	6	7

問12 あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。

(1)～(9)それぞれについて、いずれか1つに○)	参加しただけ	1回から4回参加した	5回以上参加した	参加しなかった
	(1)女性の人権問題	1	2	3
(2)子どもの人権問題	1	2	3	4
(3)高齢者の人権問題	1	2	3	4
(4)障害者の人権問題	1	2	3	4
(5)部落差別 (同和問題)	1	2	3	4
(6)日本に居住している外国人の人権問題	1	2	3	4
(7)性的マイノリティの人権問題	1	2	3	4
(8)インターネットにおける人権侵害	1	2	3	4
(9)HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題	1	2	3	4

問13 あなたは、最近5年間に人権侵害だと思われる言動を受けたことがありますか。(いずれか1つに○)

1. ある → 問13-1～問13-5へ  
2. ない → 問14へ

問13-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか。複数ある場合は、該当するものすべてに○をつけてください。また、そのうち最も深刻であったものに◎をつけてください。

1. 女性の人権問題
2. 子どもの人権問題
3. 高齢者の人権問題
4. 障害者の人権問題
5. 部落差別 (同和問題)
6. アイスの人々の人権問題
7. 日本に居住している外国人の人権問題
8. 性的マイノリティの人権問題
9. HIV陽性者、ハンセン病回復者及びその家族の人権問題
10. こころの病に関する人権問題
11. 刑を終えた人やその家族の人権問題
12. 犯罪被害者やその家族の人権問題
13. ホームレスの人権問題
14. 職業や雇用をめぐる人権問題
15. セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント
16. インターネットにおける人権侵害
17. マスメディア (テレビ、ラジオ、新聞、雑誌) による人権侵害
18. ヘイトスピーチ
19. 新型コロナウイルス感染症感染者や回復者並びに医療従事者等及びその家族の人権問題
20. その他 [ ]

問13-2 問13-1で◎をつけた最も深刻であったものに対してお答えください。  
それはどのような内容でしたか。(○はいくつでも)

1. 差別的な扱い(人種・信条・性別・社会的身分・出生地等により、職業・雇用や結婚等の社会生活のうえで不平等又は不利益な扱いをされた)
2. 学校、地域における嫌がらせやいじめ
3. 差別的な言動、誹謗中傷、あらぬうわさ
4. 育児や介護の放棄・放任
5. 虐待
6. 暴力行為、脅迫、強要
7. DV(配偶者やパートナー間における暴力(精神的・経済的・社会的・子どもを巻き込む・性的も含む))
8. 職場におけるハラスメント(セクハラ・パワーハラ等)
9. プライバシーの侵害
10. その他( )
11. 答えたくない

問13-3 そのことに対して、どう対応しましたか。(○はいくつでも)

1. 相手に抗議、反論した
2. 相談した → 問13-4へ
3. 訴えた(どこに: )
4. 我慢した
5. その他( )

問13-4 問13-3で「相談した」と答えた方におうかがいします。どこ(誰)に相談しましたか。(○はいくつでも)

1. 家族や友人
2. 近所や地域の人
3. 職場の上司や同僚
4. 役場の相談窓口
5. 法務局や人権擁護委員
6. 弁護士
7. 学校の先生
8. 警察
9. 市民団体
10. 民生児童委員
11. その他( )

問13-5 そのことは最終的に解決しましたか。(いずれか1つに○)

1. 解決した
2. 解決しなかった
3. その他( )

全員におうかがいします。

問14 あなたは、「人権」について、ふだんどのように意識していますか。(いずれか1つに○)

1. 誰もが考えるべき大切なことだと思う
2. 大切なことだと思うが、ふだんはあまり意識しない
3. 自分には関係がないと思う
4. きれいごとや建て前の話だと思う
5. 「人権」と聞くとめんどろなものだと感じる
6. その他( )

問15 あなたは、人権問題解決のために、田尻町ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 町が行う人権に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する
2. 学校における子どもたちへの人権教育を推進する
3. 人権に関する図書・資料・情報を収集し、住民の利活用を促進する
4. 職場での人権研修等が充実するよう働きかける
5. 町職員を対象とする人権研修を充実する
6. 広く住民に、インターネット上の人権侵害についての情報発信、啓発を行う
7. あふれる情報をうのみにせず、さまざまな角度から確認して主体的に正しい情報を把握しようとする力(メディアリテラシー)を町民が身に付けられるよう支援する
8. 映画会、コンサート等、誰もが参加しやすいように工夫をする
9. フィールドワークや当事者の話を聞く機会を多くする
10. 人権問題にかかわる活動グループを育成・支援する
11. 相談窓口の拡充、相談方法の多様化など相談体制を充実する
12. 人権侵害を受けた人を救済するための法律の制定に向けて国に要望する
13. 行政や企業、団体、学校、地域の人が一体となって取り組みを促進する
14. その他( )
15. わからない
16. 特に取り組む必要はない

問16 人権問題の解決のために、あなたはどのようなことができると思いますか。(○はいくつでも)

1. 差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる
2. 人権について関心を持ち、学ぶ機会をつくる
3. 当事者から話を聞くなど、理解するように努める
4. 一緒に学ぶ仲間をつくる
5. 人権講演会などに積極的に参加する
6. 差別や偏見の言動に対して注意や抗議をする
7. その他( )
8. わからない
9. 特にならない



---

誰もが大切にされる心豊かなまちづくりのためのアンケート調査  
— 田尻町人権に関する意識調査 —  
結果報告書

2022（令和4）年3月

大阪府田尻町（総務部企画人権課）  
〒598-8588 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺375番地1  
TEL(072)466-5019  
FAX(072)466-8725  
E-mail : kijin@town.tajiri.osaka.jp

---